

41256

教科書文庫

4
910
42-1930
26000 82119

Kodak Gray Scale

C Y M

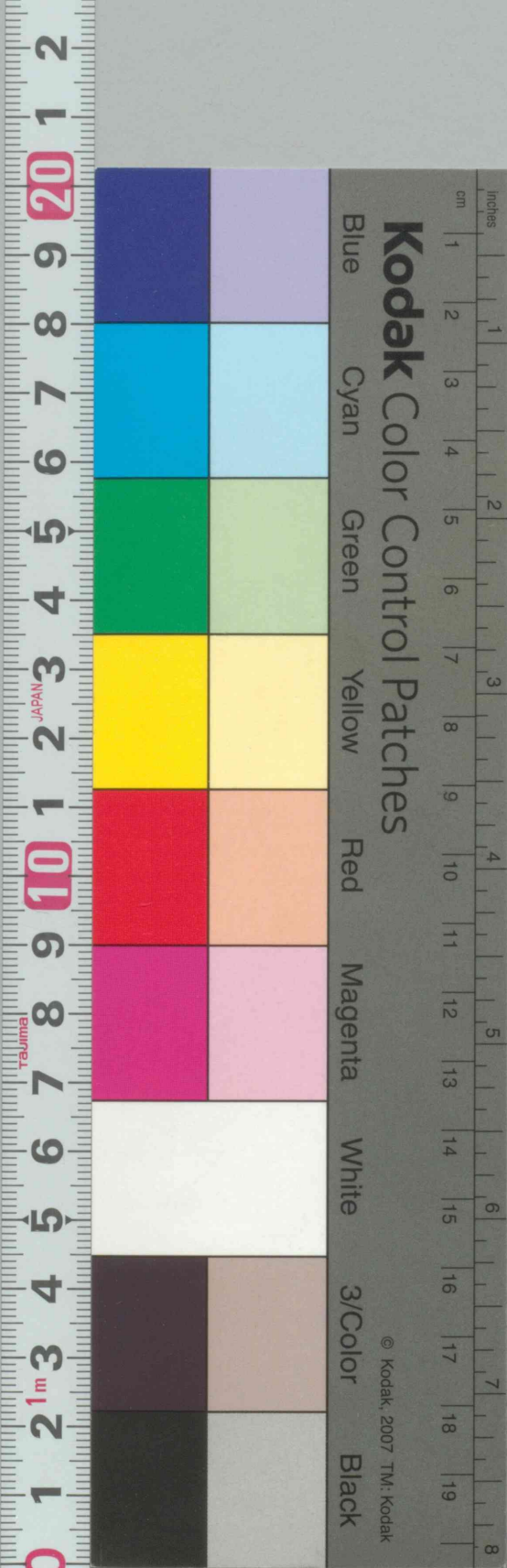
© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

© Kodak, 2007 TM: Kodak

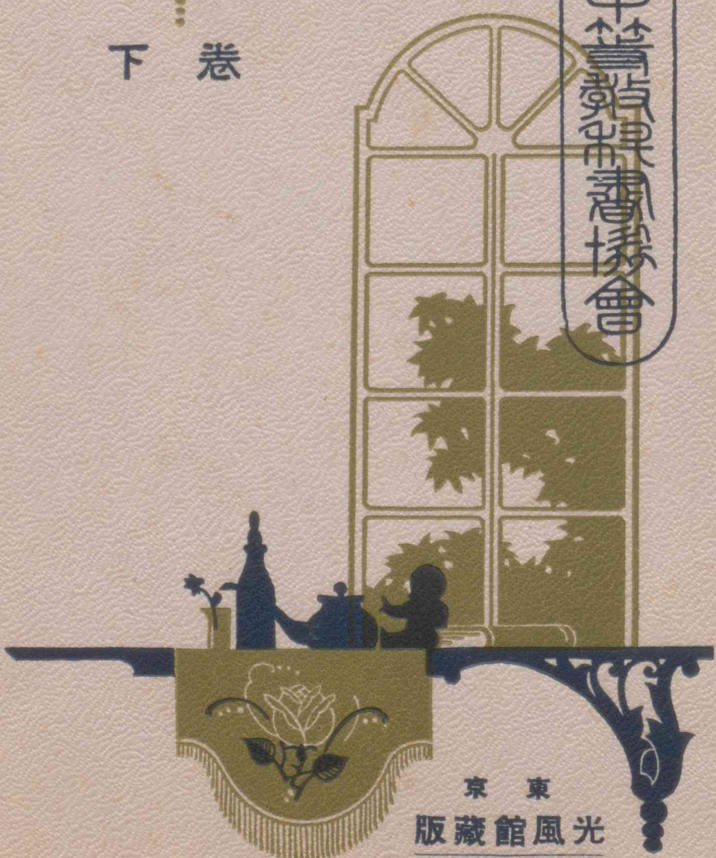


新編
家事教科書

近藤耕藏著

下卷

見本
中華書局



東京
版藏館風光



資料室

教科書文庫

4

910

42-1930

2000082119

濟定檢省部文

用科教科事家校學女等高 日七十月二十年五和昭

授教校學範師等高子女京東

著 藏 耕 藤 近

新編
家事教科書

卷下

広島大学図書

2000082119



京 東

版 藏 館 風 光

4b

900

AB5



緒言

本書は、三年前著者の公にせし家事教科書に訂正を加へたものである。

「平民的で、科學的で、而も實際に應用のきくやうに」を主眼とした點は、前版の本書と異るところはないが、多數の實地教授者の忠言に聽いて、入念に添削を加へたものであるから、かなり、面目を新にしたものがあるやうに自分ながら思つて居る。

教材の順序を換へて「衣服」を第一篇にまはしたのは、生徒實習の便を慮つたもの、又「食物の料理附料理用具」の一篇を下卷の初めに譲つたのは、一つには料理の實習に連絡をとり易いため、二つには必要なる教材の分量が下卷に於て輕きに失する不便を避けんがためである。

本書の所々に發見せられる熱情的文字は、我國民の生活改善又は生

活合理化に對する編者胸中の熱火が、編者の抑制的努力を突破して、時に筆端に現はれたもの、故に教授者の意見によつては、適宜其の角を丸くして生徒に傳へられても、編者に苦情はありません。尚本書各節の内容についての編者の意見は、別に本書に附屬せる教授參考書、非賣品に於て之を述べることにした。

昭和五年九月

編者識

新家事教科書卷下

目次

第四篇 食物の料理附料理用具

第一章 概説……………一

195 料理法の概説

第二章 拵へ方……………二

196 野菜の拵へ方 197 魚の拵へ方 198 鳥の拵へ方

第三章 種々の加熱料理の特色……………八

199 煮る 200 燂でる 201 蒸す 202 焼く 203 炒る

204 揚げる 205 飯炊き

第四章 料理用計器……………一六

206 料理用計器

第五篇 看護

第一章 醫師を招くまで附體溫と其の觀察……………六

207 素人判斷の必要 208 素人判斷の三材料 209 體溫

210 體溫計 211 體溫計の用法

第二章 醫師の招聘……………二

212 醫師の選擇 213 招聘上の注意 214 醫師に對する
態度

第三章 病狀の觀察……………二四

215 容態表・病狀日誌 216 體溫 217 脈搏 218 呼吸

219 便通其他

第四章 家庭常備藥附家庭用病具……………二七

220 家庭常備藥の必要 221 ヒマシ油 222 沃度丁幾

223 グリセリン 224 重炭酸ソーダ 225 漂白粉

226 硼酸 227 ビック硬膏 228 絆創膏 229 其他

230 家庭用病具と材料

第五章 病人の看護……………三四

第一節 藥用及び手當……………三四

231 藥の種別 232 藥の飲み方 233 吸入 234 灌腸

235 便器の種類及び用法 236 氷嚢及び氷枕 237 罨法

238 芥子泥

第二節 病褥及び病衣……………五〇

病 240 病衣 241 褥瘡

第三節 病室……………五四

242 病室の要件 243 病室の濕度 244 病室の燈火

245 病室の掃除

第四節 病人の食物……………六

第六章 病人の食物

第六章 小さい手當應急手當……………六

247 眼中異物 248 齒痛 249 鼻出血 250 腹痛 251 創傷

252 咬まれ傷刺され傷 253 出血 254 咯血吐血 255 火

傷 256 卒倒 257 溺死未遂 258 人工呼吸法 259 電撃

260 繃帶 261 卷軸帶の用ひ方 262 繃帶巾の用ひ方

263 繃帶使用に關する注意

第七章 傳染病……………八

264 傳染病の二種 265 赤痢 266 コレラ 267 腸チブス

268 バラチブス 269 發疹チブス 270 痘瘡 271 猩紅熱

272 デフテリヤ 273 ペスト 274 流行性腦脊髄膜炎

275 肺結核 276 トラホーム 277 マラリヤ 278 癩病

第八章 傳染病の豫防……………九

279 豫防法の種類 280 病人の隔離交通の遮斷 281 媒

介體の撲滅 282 侵入門の防護 283 豫防注射 284 健

康増進

第九章 消毒及び消毒劑……………九

285 消毒法の種々 286 燒却法 287 煮沸法 288 蒸氣消

毒 289 日光消毒 290 藥物消毒概説 291 石灰 292 昇

汞 293 石炭酸 294 クレゾール 295 漂白粉 296 燻蒸

法 297 腐敗菌利用の消毒法

第十章 頻死者の看護と死亡後の處置……………一〇

298 頻死者の看護 299 死亡後の處置

第六篇 育 兒

第一章	妊娠の経過・衛生	二一
300	母體に見る變化	
301	胎兒の發育	
302	妊娠中の衛生	
第二章	出産 出産後の衛生	二六
303	出産の準備	
304	分娩の経過	
305	健康なる新生兒	
306	産後の衛生	
307	産褥熱	
第三章	新生兒と其の扱い方	二三
308	新生兒期大切な二週間	
309	新生兒の寝せ方	
310	新生兒の授乳	
311	臍帶	
312	入浴	
313	胎便・おむつ	
314	衣服	
315	命名と出産届	
第四章	乳兒の養護	二九
第一節	乳兒期	二九
316	乳兒期に於ける發育	

第二節	母乳哺育	三〇
317	母乳哺育の大切	
318	授乳の回数	
319	一回の授乳時間	
320	溢乳と吐乳	
321	乳の量	
322	乳の質	
323	乳量不足の處置	
第三節	人工哺育	三六
324	牛乳第一	
325	調合乳	
326	調合乳の作り方	
327	調合乳の消毒	
328	哺乳罐と其の扱い	
329	粉乳・練乳	
330	離乳前の添加物	
第四節	併用哺育	三四五
331	併用哺育の要點	
第五節	離乳	一四六
332	離乳の大切	
333	離乳の方法	
334	離乳と牛乳	
第六節	哺育以外の注意すべき諸事項	一四七

335 便通 336 睡眠 337 日光と空氣 338 清潔 339 衣服

340 乳兒の啼泣 341 緻密な觀察の必要 342 健康監視

の良法

第五章 幼兒の養護……………一五

343 幼兒期 344 幼兒の食物 345 幼兒の衣服 346 乳齒

の保護

第六章 小兒の罹り易い病と其の手当……………一五

347 便秘 348 下痢 349 乳兒脚氣 350 百日咳 351 麻疹

352 疫痢 353 痙攣 354 驚口瘡 355 鼻の感冒 356 アデ

ノイド、扁桃腺肥大 357 榮養不良

第七章 幼兒の教育……………一六

358 玩具 359 お話 360 遊戲 361 躰

第七篇 家庭管理

第一章 老人への孝養……………一七

362 孝養の方針 363 老人の罹り易き病氣

第二章 傭人……………一七

364 傭人と其の使ひ方

第三章 家務の處理……………一七

365 家務の多様複雑 366 處理上の要項

第四章 家事經濟……………一八

第一節 財 生産 消費……………一八

367 財 368 生産 369 消費 370 主婦と消費・生産

第二節 一家の收入及び支出……………一八

371 收入と支出 372 收入の種類 373 收入の安定

374 支出の種類	375 總支出に對する各種支出の百分
比	376 收入と支出との平衡
	377 主婦の經濟的手腕
第五章 家計簿	378 家計簿の一例
	379 豫算決算と其の研究
第六章 貯蓄 保險	380 貯蓄の強行
	381 郵便貯金
	382 銀行預金
	383 有價
	384 信託
	385 保險
第七章 交際	386 圓滑な交際の必要
	387 交際の要諦
	388 交際に關
	する生活改善同盟會の主張
	389 交際精神の發達
第八章 結びの言葉	390 若き婦人の任務
目次終	

新編 家事教科書 卷下

近藤耕藏 著

第四篇 食物の料理 附料理用具

第一章 概説

料理法の概説

天然の食品で、其の儘に食してよいものは殆んど無い。それを口に入れ得る様に作る作業を料理又は調理と云ふ。料理は通例、次の數段の手續より成る。

(一) 食し得べき部分と然らざる部分とを分けること「下拵へ」。枯葉をすて、皮をむき、骨や鱗を去り、根を切りすてる等の手續が之である。

加熱の効果

加熱せぬ場合

(二) 適當の大きさ及び形に切ること。〔食品によりては此の手續を省くことあるは云ふ迄もなり〕
 (三) 調味料を適度に添加すること。
 (四) 適當の高温度に熱すること。之には煮る・蒸す・焼く・炒る・揚げる・炊く等の種類がある。これによつて、多くの食物は、(1) 細菌の居らぬ安全な食物となり、(2) 消化し易くなり、又(3) 往々一層の美味を増すものである。

但し熟した果物に於て其の一例を見る如く、加熱の効果の著しく現はれぬもの、又は加熱に依つて重要な成分の損失を招く虞れあるもの等は、この手續を省くことがある。然る場合には酢を調味料として用ひる場合の外、寄生蟲又は其の卵又は病原細菌の害より免かれる爲に、細心注意する必要がある。

(五) 稀には醗酵作用を加へること〔製パン・漬物等の場合〕もある。

第二章 拵へ方

野菜の拵へ方

野菜の拵へ方は、野菜の種類に依つて千差萬別である。一般に通ずる主なる注意項は、

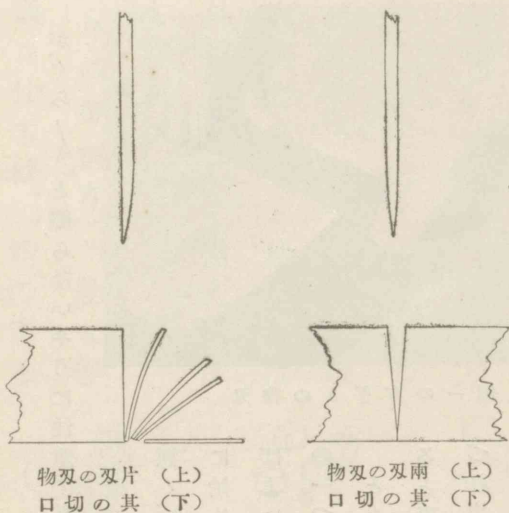
(一) 無駄を作らぬこと。

野菜には、大根・ジャガイモ等の如く皮の部分に、特に大切な成分を含むものが少なくないから、かゝる場合には、特にこの注意が必要である。

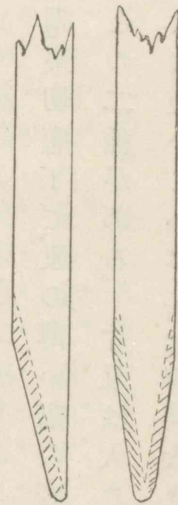
(二) 双物の手入を怠らぬこと。

野菜の調理に用ふる双物は、所謂「菜切庖丁」で、刃の薄い幅の廣いものであるが、之には兩刃と片刃との二種がある。片刃は大きいものから薄い片を切りとる場合には使ひよいが〔右圖參照〕大きいものを二つにするやうな場合に

野菜を拵へる双物



双物のとき方

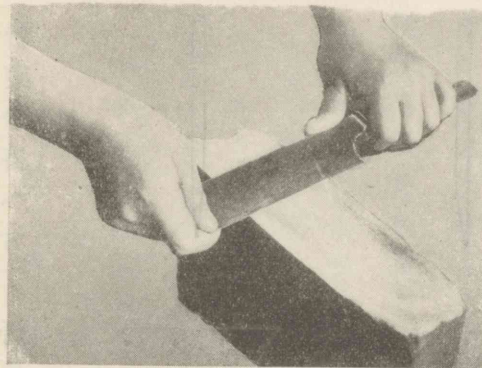


がぐらぐらと變らないやうに注意する。

圖面斷つ物双いなれ切

は兩刃に劣る。

双物をとぐには、砥石で磨つて、上圖の斜線の部分を磨りへらすのが主眼であるから、磨るときに砥石に押し當てた角度



例一の方ぎとの物双

砥石の質の粗いのは、磨滅は速いが、双の切れ味は悪く、細かいのは、切れ味はよいが磨滅がおそい。故に始めに粗砥を用ひ、次に細かい仕上げ砥を用ふればよいが、茶切庖丁の如きは、兩者の中間の粗さのも一つでもよい。

とぐときに、砥石の中央部のみ双物が往復して居ると、砥石が中窪になるから、前方は双が砥石からはづれ出る迄に、極端に押し進めるがよい。

(三) 切り方を適當にすること。

魚の拵へ方

最も普

通な仕方は、(1) 鱗のある

も遅速が起る。

外見もあしく、煮え方に

大切である。然らずば

揃ふやうにすることは

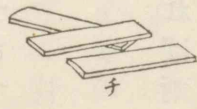
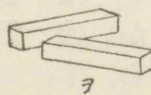
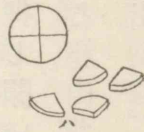
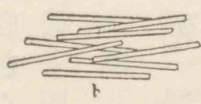
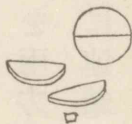
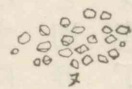
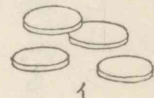
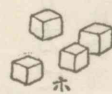
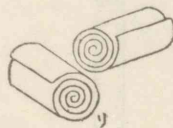
にも、成るべく大いさの

がある。何れの切り方

野菜の切り方には、凡下

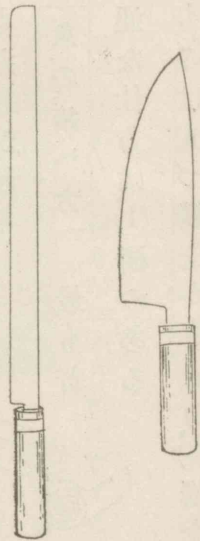
圖の如き種類及び名稱

の大きさに切る。〔細かくは實地につきて學習すべきである〕



イ 輪切
ロ 形切
ハ 銀杏
ニ 亂切
ホ 賽の目
ヘ 笹切
ト 短冊
チ 桂むき
リ 微塵
ヌ 駒の爪
ル 算木
ヲ

魚を拵へる
物



魚を拵へる物

魚の調理に用ふる刃物は、普通は出刃[△]と刺身[△]と二種である。出刃[△]は厚く重いから、太い骨などを叩き切るに都合よく、片刃であるから三枚にそろすに便に、先きが鋭いから鰓を切り取るなどに適する。刺身[△]は、刃が長いから引きぎりに都合がよい。引き切りは、軟かいものを形をくづさずに切る場合に、常に用ふべき切り方である。

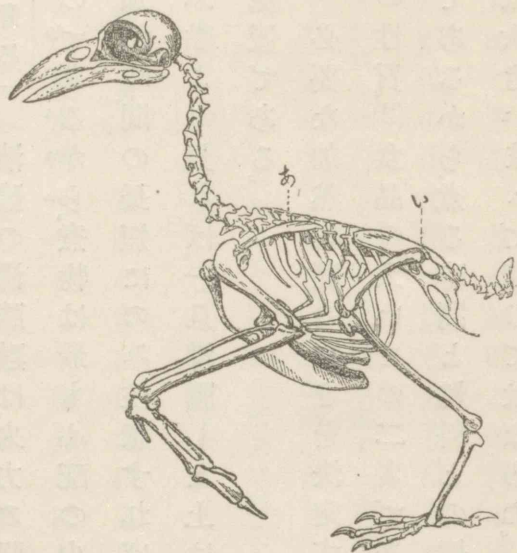
これ等の刃物の磨ぎ方の要領は前節と同様である。

鳥の拵へ方

鳥の骨格は左圖の如くである。されば兩足は、其のもゝの邊の皮を切り裂き、もゝを兩方に押し開いて大腿骨の附根の關節(左圖イ)をはづし、且つ胴に連結する筋肉を切ることによつて、骨を切らずに胴よりとり離すことが出来る。

足と胴との
離

背と胸との
離

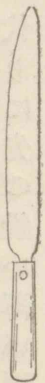


鳥の骨格(身片)

次に背と胸とを引離すには、先づ左右の肩胛骨(上圖あ)の先端より、肩胛骨と肋骨との間に深く庖丁を肩まで入れた上、翼と胸とを一緒にして片手に持ち、頸の根元を他の片手にもちて、強く兩方に引き離せば、こゝにからだは兩分せられる(臓腑は悉く背骨について)。それより以後は、適宜に處分すればよい。

鳥の肝臓・心臓・第二の胃等は、優良なる食品であるから捨てゝはならぬ。

鳥を拵へる
物



肉切り庖丁

鳥を拵へるに用ふる刃物は、出刃[△]と刺身[△]とで間に合ふが、後者の

代りに、先の鋭い薄い両刃のもの〔肉切り庖丁〕があれば一層便利である。

第三章 種々の加熱料理の特色

煮る

液体の沸騰點は、火力の強弱にかゝらず一定して居るのであるから、煮物は最も心配の少ない料理法の一つであつて、只加熱時間の長短にのみ注意すればよい。しかし燃料の節約と云ふ點より見れば、一旦沸騰した上は、大いに火力を弱めるは當然の處置である。

必要な加熱時間の長さを決定するものは、普通の場合は、(1)食品の性質、(2)食品の大いさの二者である。食品は通例熱の不良導體であるから、煮る時間と燃料との經濟に重きを置く場合には、食品は大きいまゝで用ひてはならぬ。このことは、煮る以外の加熱調理法についても一般に通用する。

199

特色

燃料節約の
手段

加熱時間の長
さ

煮物に用ふる
器具

煮物に用ふる器具には特別の要件はない。只蓋があることは大切である。蓋が無いと、燃料の不利を招くのみでなく、食物の一部が液の上に出て居るときは、其の部が煮え損ずる虞れがある。

豆類の如く、煮えるに長時間を要する食品は、高壓釜と稱して、氣密に蓋の出来る器で煮れば、速く煮える。高い沸騰點が得られるからである。但しこの際釜の内は非常に高壓になるから、釜には安全瓣及び壓力計が設けてあらねばならぬ。従つてこれを行ふには、器具代が甚だ高い不利がある。

燂てる

食品の中には、水にとける貴重な成分もあることであるから〔水溶性ビタミン、灰分、水にとける蛋白質など〕ゆでるといふことは其のゆで湯を棄てるとすれば、不合理な操作であると評してよい。但しそれが爲に、著しい味の改善が得られるなど、重大な理由がある場合には已むを得ない。

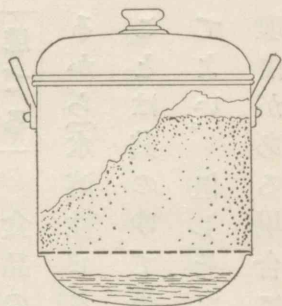
蒸す

煮ると同様に、火力の強弱に拘らず温度は百度と一定し

200

201

特色



飯 蒸 し 器

て居るから、氣苦勞の少ない料理法である。熱の食品内に通る速さも煮物と同じく、水に溶けるものを失ふことの危険の少ない長所をもつて居る。但しこの加熱法の著しい特色は、次の一事である。

沸騰水より出る蒸氣は、通常百度以下の物に出遇へば、直ちに其の表面で液化するものであるから、物を蒸すときは、下層の食品が百度に達しての後、始めて其の次の層に蒸氣が進み行くことになる。従つて食品は下から順に百度になつて行く。其の間、上層の食品は、少しも溫度が昇らないで居る。

故に蒸氣が蓋の孔より漏れ出す迄は、出来る丈け火力を強くしないと、上層と下層とに依つて、むら煮えになる虞れがある。又一旦蒸氣が吹き出した後は、蒸氣の止まぬ限り、著しく火力を弱める

合理的な蒸し方

蒸物に要する水量

が合理的である。

蒸し物に用ふる水の量が多い事は、何等の益のないのみか、その沸騰までに手間どれて不利である。但し少なきに過ぎるときは、焼けつきで食物又は器具を損ずる虞れがある。適當の水量を決定するには、多少の經驗を要する。

〔注意〕 蒸し物のときに、百度の層が順次下方から上方に押し進んで行くと云ふ事は、茶碗蒸し、ふかしパン等の如き、蒸されるものゝ間に大きな孔のある場合には行はれて居ない。

焼く

焼くは、煮る蒸す等と違つて、溫度の[△]上昇に際限がない[△]から、溫度と時間との兩方に心配せねばならぬ調理法である。加之、多少の「焦げを生じて、始めて[△]焼き味と云ふ一種の味を生じて、焼く目的を達し得るのであるから、適度に[△]こがすやうにせねばならぬ。しかるに火力が強過ぎれば、外面は黒焦げとなつても、内部は未だ

特色

焼きもの器具

203

特色

十分熱の通らぬところがあり、火力が弱過ぎれば、焦げもせぬうちに甚しく水分を失つて堅くなる。されば、煮物に比べては、著しく厄介な料理法である。

焼物に用ふる器具は、我國の慣例によれば、殆んど串と金網との二種に限られて居た。併しこれ等は、加熱が單に一方からのみ行はれるので、厚いものを焼くには不適當である。

テンピは全周囲より熱を加へ得る點に於て、串や金網より進歩した焼物器具であると評してよい。

蒸し焼き器

蒸し焼き器は密閉した金屬製の器内に食品を入れて、一面より時として裏返しても加熱するものであつて、食品より發生した水蒸氣で同時に蒸されるやうになつて居る。簡單にして使用に便なる長所をもつ。

炒る

乾いた物を鍋の如き器内で熱することを炒ると云ふ。焼くと同性質の調理法である。

特色

204

温度の判定

熱が萬遍なく加はることが困難であるから、物によつては、砂の如き細かい固體を混じて行へば結果がよい。

揚げる

熱い油に食品を投入した時に見られる沸騰の現象は、食品に含まれた水分の氣化であつて、油の沸騰ではない。而して水の氣化の爲には、多量の氣化熱を要するから、この現象の起ると同時に、油の温度は著しく下降する傾向をもつ。即ち揚物は、調理温度の不定な點に於ては、焼き物と同性質のもので、之を適當の温度で行はんとするには、(1)火の強さと、(2)材料の入れ方とに、斷えず細心の注意を拂ふ必要がある。

油が盛んに煙を擧げるのは、温度の高過ぎる證據、又物を入れても直ちに活潑な沸騰を起さないのは、温度の低過ぎる證據である。食鹽を投入して其のはねる様子で温度を測る方法も、あながちに理由なきことでもないが、只最初にのみこれを行つて後には一向温度に注意せずといふ世人の態度に

油切り

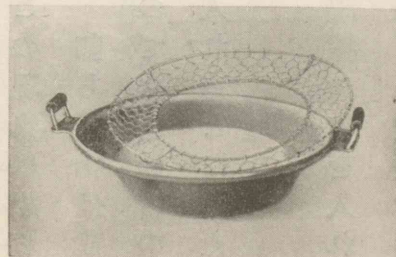
は感服が出来ぬ。

揚げ物に油の多量にしみ込んで出来上つたのは、不経済でもあり、不味でもあり、又消化液の進入を妨げて不消化を招く虞れもある。故に成るべく油を切るやうな方法をとるが望ましい。之には種々の考案がある。圖に示すが如きは其の一例である。

205

飯炊き

飯炊きは、炊き上つた時に、水分の悉くが、丁度よく米粒内に吸収され盡すを要する點だけが、普通の煮物と異なる。これが爲には、



鍋物揚げの良改

第一に水加減が大切である。水加減は米の質によつても多少は異なるが、米一體積に對して、水一二乃至一三體積が大體の標準である。

第二に火力は三段に加減するがよい。即ち(I)始めは成るべく

火加減

水加減

特色

最も大切なのは三段目の火加減

多量の飯炊き

火力を強くし、(2)沸騰後は粘液の無益に溢れ出づるを避ける爲に、或度まで火力を減じ、必要ならば蓋を半ば開き、數分時〔普通は五乃至七分位〕を経て、液らしいものゝ無くなつた後、(3)更に火力を弱めて、而も溫度は下降することなく、強度のお焦げも生じない程度の火加減で、尙十數分間を経過させるのである。

此の第三段目の火加減の適否が、飯の出来方に最も重大な影響を與へるものである。但し燃料の質によつて夫れゝゝ其の餘熱の程度も異なるのであるから、適度な火加減を知るには、注意して経験を積まねばならぬ。又此の期間は、成るべく密に出来る蓋を施し、蓋を去つて内部をのぞき見ることは、避けねばならぬ。

大釜にて多量の飯を炊くときには、水の沸騰する迄に長時間を要し、其の爲に出来損じを見る事がある。故に先づ沸騰水をつくり、之に米を投入するがよい。この點だに注意すれば、米の多量な

程、温度の激變がないもの故、出来損じは却つて少なく、第三段目の火加減のときには、全く消火しても差支ない。

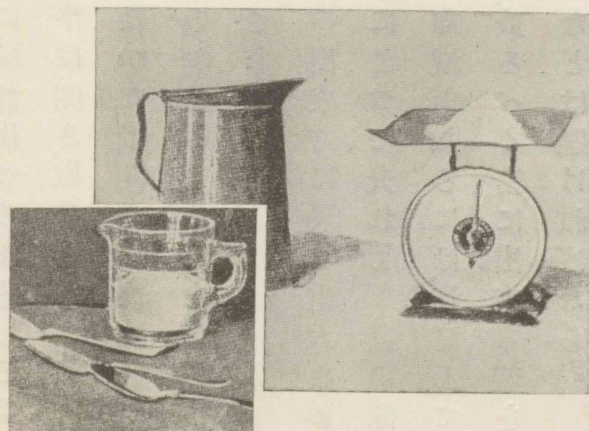
瓦斯^{△△}ではうまい米飯は炊けぬと思ふ人がある。瓦斯は火加減が最も容易に出来る燃料であるから、實際は其の正反對である。

第四章 料理用計器

料理用計器

家庭に於ける日毎の調理を行ふには、一々計量器を用せずして行ひ得るは理想であるが、慣れぬ人、又現に學びつゝある人は、計量器を用ひて正確に行ふは寧ろ上達のちかみちである。

容量計 調理に用ふる容量計には種々あるが、柑・茶碗・水杓・おたま・さじ

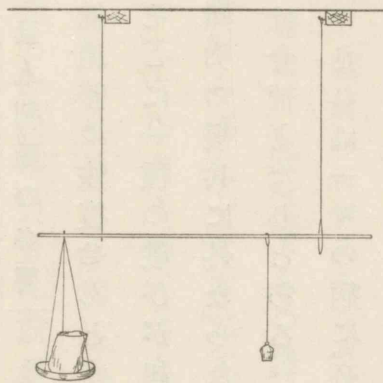


米國の臺所に用ふる計量器の種々

などが普通に用ひられる。西洋料理などで、食卓匙・茶匙と云ふは、夫々に十八及六立方糎を入れ得るものとせられては、あるが、頗るあてにならぬ。又右に列舉したもの、如く、深さの割合に太さの大なる容量計は、頗る精確を缺き易いものである。

これ等の不正確な計器を用ふる場合には、最初に正確な計器に照して、其の正確な容量を知り、又計り方の粗末なため、幾%位の誤差のあるものかを、知りおくことは、望ましいことである。

重量計 臺所に用ふる秤[△]としては、前頁の圖に一例を示すが如く、上皿式[△]のものが便利である。桿秤[△]も邪魔にならぬ一定の場所に、常に上圖の如く取りつけておくときには、使用上に便利が多い。



第五篇 看護

第一章 醫師を招くまで 附體溫と其の觀察

素人判斷の必要

生物が病にかゝれば、それに抵抗し、打勝つて、健康體に恢復せんとする變化が、おのづから體内に現はれて來て、そこに一種の戦ひが起るものである。而して醫療は實は其の自然力の援兵に外ならない。西洋の諺にも「自然は治癒せしめ、醫師は介補者なり」とある。

されば一々の病に、必ずしも醫師を煩はすを要せぬは勿論であるが、時には數時間おくれた爲に、所謂「手後れ」となる場合もあるから、病人の出來た時には、醫師を招くべきものか否かを先づ判斷する必要がある。「判斷の出來難い場合には、招く方に決定すれば安全な事は勿論であるが」。

207

自然の治癒作用

素人判斷の必要

208

一般向の大切な材料

素人判斷の三材料

素人が右の判斷を爲すための材料は、其の人のもつ醫學的知識の増すに従つて多いわけであるが、一般向の最も大切な材料は、(1)病人の體溫、(2)體溫が時と共に變化する状態、即ち其の経過、(3)苦痛の程度である。(1)と(2)とは素人にとつて最も大切な判斷材料であるから、次に之に就いて補説する。

體溫

壯年大人の體溫は腋下に體溫計を入れて測つたとき、常態ならば三十六度三分より卅七度位の間にあり、小兒は之よりも二三分高く、老人は之よりも二三分低い。

但し午後は午前に比して數分高いのは常であるから、病人の體溫の経過を見るに、前日の同時刻の體溫に比較すれば一層確かである。

體溫計

體溫計は三十五度より四十二度迄位の溫度を、〇・一度まで讀み得る寒暖計であつて、普通のものは、所謂最高寒暖計の種

210

午前と午後

體溫の常態

209

類に屬し、之を體より引き離しても、水銀柱が其の位置に留まる様に出來て居るものである。

之にて體溫を測るに、僅かに一乃至二分間で足るものと、十分間位を要するものがある。重病人又は小兒になど用ふるものとしては、前者が後者に優ることは云ふ迄もない。

體溫計「一般の寒暖計も」には、一二分位の狂ひをもつのがあつて、大いに病狀の判斷を誤らしむることが珍しくない。されば買ふときに、この點に注意すべきは勿論、其の後二三年に一回位は、検査を行ふがよい。

體溫計の正確さ

211

體溫計の使い方

農務省衛生試験所等には、右の検査の依頼に應ずる機關がある。已むを得ずば、測候所病院又は醫師などに所藏してある正しい寒暖計と比較して貰ふがよい。

體溫計の使用法

體溫計を使ふには、通例之を腋下に挿み、球の何れの方面にも空氣の通ずる空隙のない様にして、所定の時間を

測り場所

測るに要する時間のしらべ

醫師の選擇

212

經るのであるが、甚しく瘦せた病人で、上記の事を望み難い場合には、口内、股間、肛門等にて測ることがある。この際には腋下の溫度よりは數分「三分乃至五分」高きを常とするゆゑに、其の積りにて考慮するを要する。

或體溫計が正しい溫度を示すに何分間を要するかは、平時に之をためし置くがよい。其の方法は、例へば三分間腋下に挿んで、其の度をよみ、其の儘更に數分間挿みおきて、溫度の上昇を見ぬ時には、三分間で十分だと知るのである。但し三分より少なくてよいかどうかは、此の例にならつて、更に別に試みねばならぬ。嚴密に云へば、挿み工合及び腋下の狀態、毛の有無、多少などによりても、多少變りのあるもの故に、幾分餘裕ある時間を見込むことは安全である。

第二章 醫師の招聘

醫師の選擇

醫師には、内科・外科・産婦人科・小兒科・眼科・耳鼻咽喉科・皮膚科・齒科・精神科・花柳病科等、夫々の専門に屬する病を扱ふものがあり、然らざるものも、病氣の種類に依つて得手不得手のある

ものであるから、病氣に對しての適否を考へて選擇するは必要な事である。但し方角其の他種々の迷信にとらはれて之を行ふは愚の至りである。

招聘上の注意

手紙・使者・電話等如何なる方法によつて招聘の旨を通ずるにせよ、必ず同時に發病の時期・體溫の経過等、大體の病狀を告げて、醫師側の準備の便を圖るがよい。

もし醫師の來診に手間取れる事情があるときには、病狀によつては、其の間に素人の應急の處置を加へる必要がある（それに就いては後章に之を説く）。

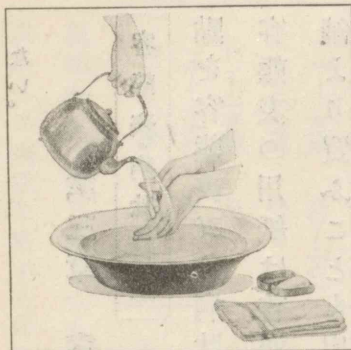
又如何なる用途が急にあるかも知られぬ故、來診までには、火と湯とをつくり置くがよい。

醫師に對する態度

容態を醫師に説明するには、事實のまゝをなるべく詳細に語り、素人の推測や想像を之に交へてはならぬ。

今までの手當法については、成るべく委しく語るがよい。

病氣に依つては、如何なる名醫も、(A)或時日に互りて病氣の経過を見るか、(B)排泄物、血液等について種々の検査を行ふかせねば、診断のつかぬことがあり、又實際はそれが案外に多いものであるから、只一回の診察によつて確たる診断が出來ずとも、決して直に醫師の技能を疑ふの淺慮に陥つてはならぬ。かゝる場合には、次章に述べる處に従ひ、引續き細かい病狀の觀察を行つて、成るべく多くの診断材料を醫師に提供するやうに力めねばならぬ。



診察の後 洗手

診察を終へて後に、醫師が手を洗ふときには、其の手に先づ溫湯を注ぎかけて石鹼を使ふに便し、次に再び溫湯を注ぎかけて石鹼を洗ひ落すやうにすれば、少量の湯でも完全に目的を達することが出来る。

病室で醫師に茶菓をすゝめることは通例はよろしく

ない。

第三章 病狀の觀察

容態表・病牀日誌

看護者は細かに病人の狀態に注意し、其の要點を容態表又は病牀日誌に記入し、醫師の參考に供するがよい。容態表の用紙は普通のもは、別紙に示すが如くである。之は藥舖より買ふことも出來、又醫師より貰ふこともできる。病牀日誌は、記事多くして容態表に書ききれぬやうな場合に、容態表に合せ用ふるが常である、而して何れの病氣にも通じて、看護者が觀察すべき事項は凡次の如くである。

體溫

一日中、人の體溫の

最も低いのは、午前一時より同五時まで、最も高いのは、午後五時より同八時までの間である。故に病人の體溫検査は、一日に二回とすれば、午前八

215

容態表の形式

病牀日誌の用途

216

體溫をとる時間

217

脈搏の標準數

脈搏の測り方

平素の脈搏を知る必要

時と午後四時とに行ふを普通とする。但し病の種類によつては、更に回數を増さねばならぬ。但し毎日定時に行ふことは常に必要である。

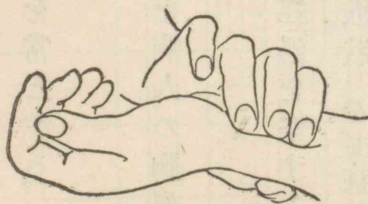
脈搏

人の脈搏も年齢性別及び時と場合によつて多少の増減がある。大體の標準を次表に示せば、

脈搏の標準數

年齢	一分間の脈數
生れた當時	一三〇—一四〇
二—五歳	九〇—一〇一
五—一〇歳	九〇
一〇—一五歳	八六
一五—五〇歳	七〇
五〇—八〇歳	七四—八〇

脈搏は、通例、手頸の動脈で測る。時計を眺めつゝ脈を數ふる時間は、必ずしも全一分間なるを要しない、三十秒間、二十秒間、場合によつては十五秒間でもよい。



方りとの脈

脈搏の數は個人によつても相違があるもの故、平素安靜時の脈搏數を知つて置けば、其の人の病狀を察するに參考になる。

呼吸の標準數

218

呼吸

呼吸も脈搏と同じく、各個人と時と場合とに依つて増減がある。新生児は毎分三十五乃至四十を算するが、年と共に其の數を減じて、健康な大人は毎分十五乃至二十なるを常とする。即ち大體脈搏の四分の一である。

呼吸數の測り方

呼吸數を測るには、時計を片手にして、他の片手を病人の胸部又は腹部に載せおきて數ふるがよい。

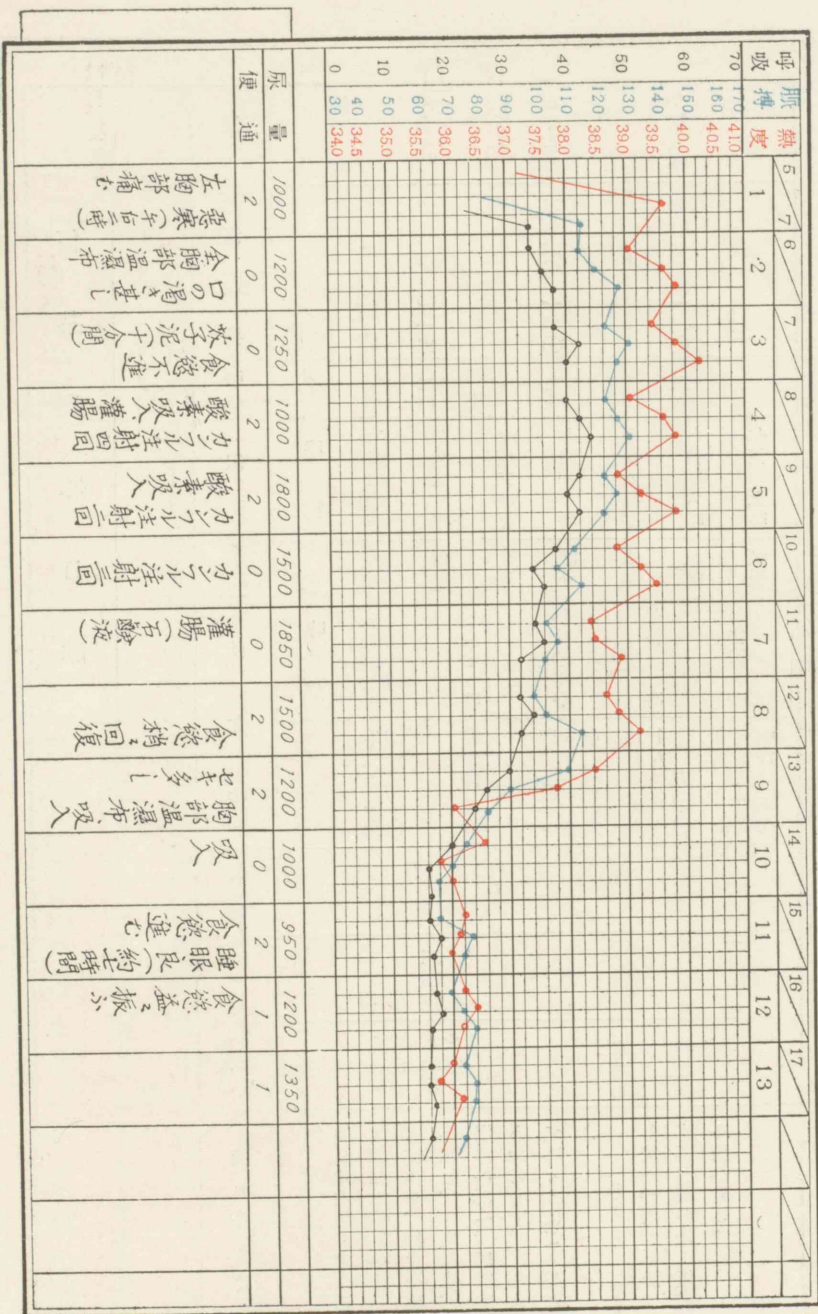
219

便通其の他

兩便の量・形狀・色合等も、亦病狀の經過を察する上に大切なものであるから、大便は一日中の度數及性狀〔分量・硬軟・色合・異物の有無等〕を檢し、小便は其の一日量をしらべ、更に行き届けば尿の比重をも檢することがある。其の他睡眠の時間、臨時に行つた手當、發汗の有無及び狀態、飲食や藥用の時刻、食物の質及び分量なども、亦觀察記録を要すべき重要事項である。

容態表の記入、又は病牀日誌の記録は、醫師の診察の後に始まるべきものと考ふれば

(急性肺炎)



病 牀 日 誌 記 載 例

何 某 病 牀 日 誌

昭和五年十月

時刻	時	服	藥	飲	食	物	便	通	尿	利	處	置	の	摘	要
午前七時	三九、〇	一一五	三四	午前六時半	水藥	午前七時半	粥汁五〇合	ナ	五回	左全胸部濕布	朝より左胸下部に刺すが如き痛みを訴へ、咳嗽多く、顔色の痰を出し、呼吸困難、渴きを訴へ、睡眠安らかならず、夜に入て時々うはこと言ふ。				
正午十二時	三九、六	一二〇	三六	午後一時	散藥	午後〇時半	粥汁五〇合								
午後五時	四〇、二	一三〇	三八	午後四時半	水藥	午後三時	粥汁五〇合								
午後九時				午後六時	散藥	午後五時	粥汁五〇合								
				午後九時	頓服										

大なる誤である。普通は來診以前が必要の程度寧ろ大なるものである。

第四章 家庭常備藥附家庭用病具

家庭常備藥の必要

或種の醫藥は、家庭に常備することが望ましい。

醫師や藥舗に不便な家庭にとつて、殊に然りである。これは(1)醫者の來るまでの應急手當用として、(2)大概性質の分つて居る軽い病氣又は軽い傷などで、而も放任するは不可と見た場合などに使用する爲である。

家庭に常備藥として備ふべき藥品は、必ずしも一定しないが、次に述べるものは、一般に通じて推奨するに足るものである。

ヒマシ油

無害にして大効ある下痢劑で、腸カタル、食物中毒等一般に腸内の有害物を排出するを望む場合に用ひられる。原因不明の發熱あるとき、解熱劑を與へるときは「素人のやゝもすれば行ふ如く」往々にして大いに有害なることがあるが、ヒマシ油の下劑

効果

をかけることは、大人にも小兒にも、危険はなくて効力大なるものである。ヒマシ油の用量は大體次表の如くてよいが、何れかと云へば多きに偏する方が、奏効確實でよい。

用量

一歳以下	四——五瓦	〔容量計を用ひるときは瓦は立方 Δ と見て勿論よい〕
一歳 乃至 二歳	六——七瓦	
三歳 乃至 四歳	八——九瓦	
五歳 乃至 八歳	十——十二瓦	
九歳 乃至 十五歳	十五——二十瓦	
十五歳以上	三十瓦	

飲み方は水に浮べて水と共に嚥下するが常法である。飲みにくい人は砂糖水茶サィダー又は薄荷を加へた水などに浮べて用ひる。幼兒には、同量位の砂糖を交へて水なしに與へる。

222

沃度丁幾

日本藥局法に従へば、單に沃度丁幾とは、

製法

沃度 一〇
沃度加里 七の溶液に、酒精一〇〇を加へたものであつて、
蒸溜水 一〇

稀沃度丁幾とは、

沃度丁幾 一一
蒸溜水 二を用ひて作つた溶液である。
酒精 二〇

用途

右の兩者とも殺菌の効力が極めて大きいから、負傷の場所、齒齦の腫れ、其の他總べて膿みさうなところにつけて大効がある。脱脂綿をピンセットに挟んで沃度丁幾を浸ませ、之にて患部に塗布するが普通の使用法である。

アルコールの蒸發によつて、次第に濃くなる虞れがあるから、密栓して蓄ふるを要する。

瓶の密封方法

保存上の注意

瓶の栓には、孔明き又は蟲喰ひのコルクが多くて、密栓に困ることは珍しくない。か

かる際には、栓をした上でパラフィンの熔けたのを其の上に塗りつけるがよい。それには、熱い火箸を斜めに瓶の上に保ち、箸の側面にパラフィン塊を當て、熔けたパラフィンを火箸に沿つて流下させて、栓の上に落す様にするが最も簡便である。最後に、熱した火箸で、栓の上面や側面を撫でれば、パラフィンの凹凸はなくなり、且つよく密封の目的を達することが出来る。

223

グリセリン

皮膚の荒れ止め、又は吸入藥にも用ひられるが、重要な用途は灌腸用である(第234節)。

このものは永く變質しない。只栓が悪いと、水分を空氣中から吸うて、自ら其の量を増し、其の濃さを減ずるから注意を要する。

224

重炭酸曹達

俗に重曹とも云ふ。(1)胸のやけるととき、其の一乃至二瓦を用ひれば、胃中の酸を中和して直に効果を現はし、(2)デースターゼと混用すれば、有効な澱粉消化劑となる。又(3)吸入藥(第233節)(4)火傷の藥ともなる(第255節)。

225

漂白粉

上記醫藥としての用途の外、(5)水の軟化劑となり、(6)綿布漂白の補助劑となり、(7)野菜を柔く煮るため、(8)酸味を帯びた食品の酸味を消すため等家庭に於ける用途の最も廣い藥劑である。其の上極めて廉價のものであり、永く保存しても變質の患がない。

綿布の漂白に用ひられる外(第40節)、井水や野菜の消毒用となり、又石炭酸昇汞水と同様に、極めて有効な殺菌劑となり、而もこれ等の如く危険を伴はないから、家庭用としては甚だよい第295節。

226

硼酸

甚だ廉價な藥品であるが、栓が密でない時又は強い日光に當るときは、徐々に變質して、其の効力を減ずるから、使ひかけの瓶は、栓の上にパラフィンを塗り、日光に當てぬやうに保存しておく。硼酸は白色の粉末又は鱗片狀の白色結晶體で、二十五倍の冷水、三倍の熱湯にとける。刺戟性の少ない防腐藥であつて、廣

く外用する。

即ち(1)その二%溶液は、含嗽藥として用ひられ、(2)一乃至二%溶液は、少しく温めて眼を洗ふによく、(3)創傷の洗滌や濕布療法には三―五%溶液として、(4)寄生性皮膚病等(頭癬、禿髮菌)には、五―一〇%酒精溶液として用ひる。

ピツク硬膏

は小さな創傷、ニキビ、其の他一般に腫物に貼つて用ひる。初期ならば膿まずにすむこともあり、化膿後には吸ひ出しの効がある。

絆創膏

絆創膏は皮膚によく貼りついて離れ難いので、繃帶のかけ難いところ、又は繃帶しては不便なところに、其の代りとして用ひて便利である。

只一つ大いに注意すべきことは、傷口、其の他一般に皮膚の損傷部に直接に貼るときは、却つて化膿を促すことになるから、上記の如く、只ガーゼ又は脱脂綿を抑へる目的で之を用ひねばならぬ。

用途

228

227

使用上の注意

229

其の他

以上の外、家庭と土地との事情によつては、

(一) アルコール〔危険なき消毒劑、吸入器の燃料〕

ニ アスピリン〔感冒の解熱劑〕

(三) ビオフェルミン〔整腸劑〕

(四) ディアスターゼ〔タカヂヤスターゼ、柏木ヂヤスターゼなど〕〔澱粉消化劑〕

(五) ワセリン〔火傷の際の塗布劑、灌腸のときの滑劑、鐵器の錆止め〕

(六) 過酸化水素水(オキシフル)〔創傷又は化膿部の洗滌、用含嗽劑等〕

(七) 其の他、世に定評ある賣藥を備へるも便利である。

家庭用病具と材料

特殊の事情あるものは別として、何れの家庭にも備へ置きたき家庭病具としては、次の數種がある。

- (1) 體溫計 (2) 灌腸器(第三九頁の水銃) (3) 水囊 (4) 吸入器 (5) 尿管・大便器 (6) ピンセット・トゲ拔・耳搔等。

230

材料としては、

繃帶(數種)ガーゼ・脱脂綿・亞麻仁油紙・濕布・罨法用材料等。

これらの使用法については、次章に之を述べる。

第五章 病人の看護

第一節 薬用及び手當

薬の種別

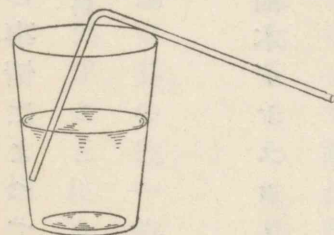
薬には左の如き種別がある。

(一)内用薬 水薬・散薬・丸薬・錠剤・膠囊剤・滴剤等。

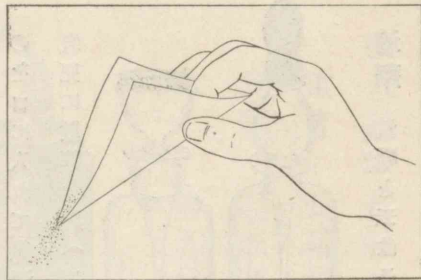
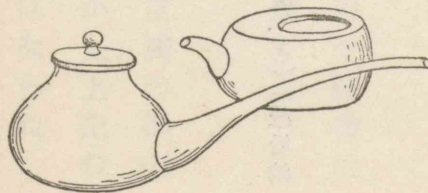
(二)外用薬 塗擦剤・洗滌剤・灌腸剤・吸入剤・罨法剤・含嗽剤・坐薬・注射薬等。

薬の飲み方

水薬 は指定の量を、他の清潔なる容器に移して飲用する。薬を他に注ぐ際には、罨



吸飲のみ三種



散薬の飲み方

の口の清きを要する。罨底に沈澱のある場合には、他に移す前に罨を振る。

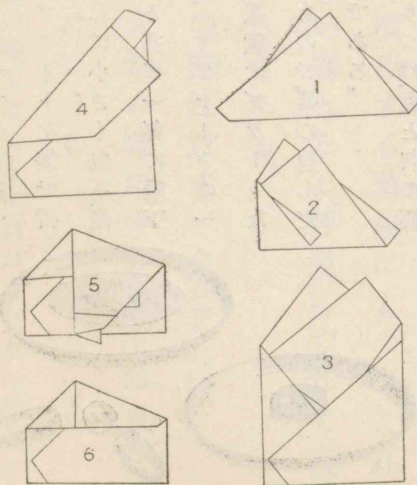
重病人の場合には、前圖に示す如き吸飲器を用ふれば大いによい。幼児には小量づつを小匙に盛つて、舌の上に注ぐがよい。

散薬 粉薬とも云ふ。先づ少量の微温湯を口に含み、呼吸は鼻で行ひつゝ、舌の上に散薬をおき、更に微温湯を含んで、之を濡して水と共に嚥下する。

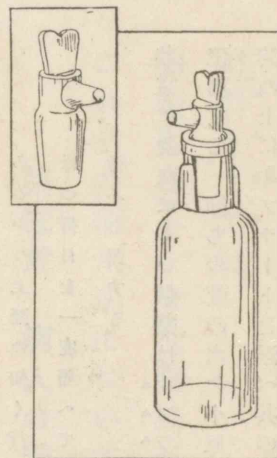
〔注意〕

散薬の包み方は下圖の如くであるから、上圖の如く行ふには、紙の折目を一度變へての上に行ふを要する。

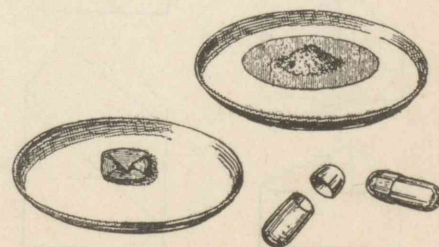
非常に飲みにくい散薬はオブレートを使用する。即ち少量の水を小皿にとり、其の上にオブレートを浮べ、其の中央に



散薬の包み方



散薬を盛つて柔くなつたオブラートを箸で折り返して小さく包み、微温湯と共に一氣に嚥下する。オブラートの一種で、柔軟オブラートなるものは、水を用ひずして散薬を包み得るもので、其の包んだのを口に入れて微温湯と共に嚥下するのである。



オブラートの使用及び膠囊

乳兒に散薬を與へるには、散薬を乳頭に塗りつけ、乳と共に嚥下せしめる事もよい。

丸薬錠劑の用法は散薬に同じ。成るべく舌の奥に置いて後湯をとるがよい。

膠囊劑とは飲みにくい藥劑を、小さい膠製右圖の容器に入れて、容器と共に飲用するのである。



滴の罐第二例

滴劑 滴罐と云はるゝ特殊の罐を使用して水又は砂糖水の上に滴下して服用する藥劑である。概ね劇藥であるから、滴數に誤のないことが肝要である。

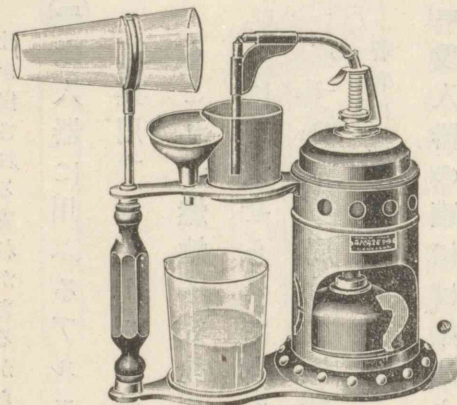
吸入 せきの多い病人に用ふる療法である。

吸入劑の普通の處方は、

重曹 五瓦

食鹽 二・五瓦

水 四五〇立方糎



吸入器

時には之に二〇瓦のグリセリンを加へることがある。

吸入劑を用ふるには、吸入器より強く噴出する蒸氣によつて、これを細かい霧となし、呼吸につれて吸入するのである。

この際注意すべきことは、(一)吸入器の罐に、半分以上の水を入れてはならぬ。

沸騰の盛んなときに湯が其のまゝ管口より

吐き出される虞れがあるからである。

(二) 吸入器に用ふるアルコールは、工業用のものであつてはならぬ。工業用アルコールには、メチルアルコールを混入せるものが多く、これが燃焼不完全のときには、有害な瓦斯を生じ、之が自然病人に吸入せられて、却つて病狀を悪化させる危険がある。故に必ず日本薬局法の酒精を用ふべきである。〔小田醫學博士に依る。〕

著者の経験も之を裏書する〕

(三) 吸入器の罐には、始めより水でなしに、熱湯を入れる。〔時間とアルコールとの經濟になるから〕

(四) 冬期には、吸入劑を體溫より少しく高い位に溫めたものを用ふること。〔小田醫學博士に依る〕

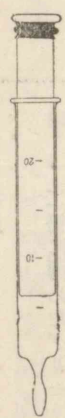
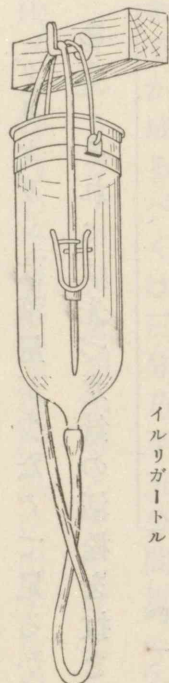
(五) タオル又は油紙等で、吸入者の鼻口以外の濡れては困るところを蔽ふこと。

(六) 口より流れ出る液の受器を用意しておくこと。
(七) 吸入時間は、吸入器附屬のコップに、吸入劑の二三杯を使ひ盡す程でよい。

灌腸

灌腸とは肛門より液體を注入する方法を總稱する。其の目的には種々あるが、最も普通のは、糞便の排泄を促すのにある。小兒に突然の發熱を見たときなど、醫師の來診までの應急手當として之を行ふときは、一

イルリガートル

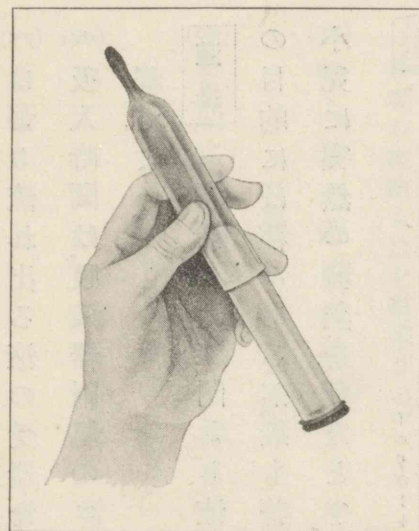


(トイボス)銃水

害なく而も驚くべき偉効を奏することが珍しくない。何人も心得置くべき大切な家庭治療法の一つである。其の用器藥液及び實行法の要領は次の如くである。

薬液 (温度三七—四〇度)		用 器	一 回 の 液 量
甲	二倍に薄めたグリセリン	水 銃	二〇 乃至 四〇 ㄔ
乙	石 鹼 水 (約一%)	イルリガートル又はゴム灌腸器	二〇〇乃至三〇〇 ㄔ

グリセリンは液量が少なくて足るから、使用上には最も簡便である。それには先づ水銃の活栓を抜きとり、嘴管の口を指頭で塞



方ち持の銃水の後たし出し押を氣空

いで、太い方の口よりグリセリンを所要の全液量の半分だけ注ぎ、五六十度の温湯を其の上に注ぎて一杯となし、次に此の液を他の器(茶碗の如き)に注いで、よく二液を混和しての上、活栓を用ひてその液を水銃内に

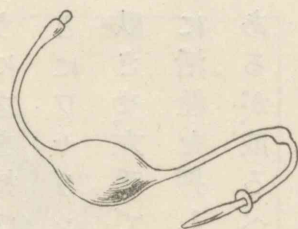
水銃の用法

イルリガートルの用法

吸ひ上げ、其のまゝ上向に直して少しく活栓を押して氣泡を全く追ひ出し、圖の如く左手の薬指が活栓と圓筒との兩方に觸れるやうに之を持つて、活栓の滑り動くを防ぎつゝ、右手で嘴管口と肛門とにワセリン又は油類を塗つて滑り易くし、病人は仰臥又は左側に臥させ、左手で管口を肛門に差し入るゝこと三糎許り、右手で徐ろに活栓を押し入れるのである。病人は直ちに便意を催すが常であるが、成るべくは三分乃至五分間堪へるがよい。

イルリガートルを用ふるときには、之に出来上つた液を入れた後、ゴム管内の空氣を完全に追ひ出すため、先づゴム管の先端嘴管の部を手にもつて、出来る丈け高くゴム管を引き上げた後、次第に其の手を下し、遂に嘴管の口より液の流出するまでゴム管をさげる。かくして空氣を追出したのち、ゴム管の嘴管に近き部分を指で押つぶして、其の爲に備へられたピンセットを用ふるもよし、液

ゴム灌腸器の
使用法



器腸灌ムゴ

の流出を防ぎつゝ、イルリガートルの位置を肛門より約一米の高
度におき、前節の如き注意にて肛門に其の嘴管を差し入れ、次につ
ぶした管をゆるめれば、液は自分の壓力によつて腸内に流れ入る
のである。

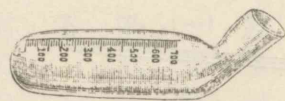
送りこむのである。

總べて灌腸を行ふときには、用器の消毒は必要であるが、傳染病

のときには、殊に嚴重にせねばならぬ。又便器は前以て手近に用
意して置くがよい。

便器の種類及び用法

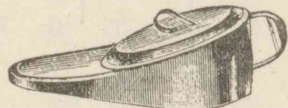
病人用の兩便器には種々ある。便器は、



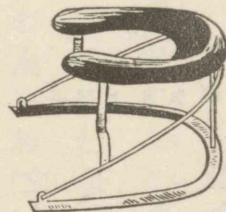
器尿受用子男



器尿受用人婦



器便込挿



の來從 け掛腰用便
るす用併と「るまお」

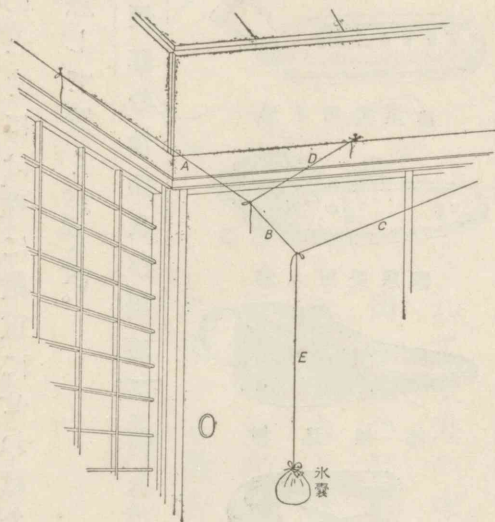
に病人の苦樂に大關係があるのみならず、時としては其の治癒上
にも大關係を及ぼすものである。

右圖は其の數例を示したものである。

挿込便器は挿込む部分を、綿又は油紙で適當に包んで患者の不
快を避け、又誤つて漏れたときの用意とする。

236

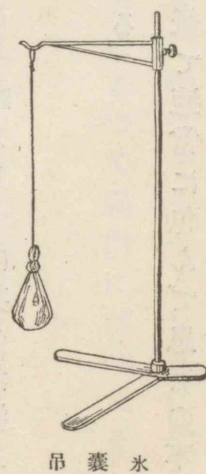
氷嚢の用ひ方



法方す吊を嚢氷りよ押長

大便器の内部に、數枚重ねた新聞紙を敷いて之を使用すれば後の掃除の手續を省く便利がある。但し便を消毒する必要ある時は、却つて厄介である。

氷嚢及び氷枕 氷嚢には種々あるが、膀胱製のものゝは冷却の目的に



吊嚢氷

は最も適する。氷は程よく之を碎いて、嚢の凡半分を満し、丈夫な糸で嚢口を縛る。氷嚢を上より吊り下げる場合には、(1) 氷嚢吊器を用ふるか、(2) 室内高く横に張つた糸に吊り下げるがよい。

病人の頭の位置は、時々多少の移動のあることは免れ得ないから、(2) の

氷枕の用ひ方

方法によるときには、右圖の如く三點より張つた糸の、或一點より氷嚢を吊り下げるが便利である。糸Dの長さを變ずることゝ、糸Eの吊し場所を動かすことゝによつて、氷嚢の位置は、前後左右何れにも移し得られるからである。

或場合には、ゴム製又はゴム布製の氷枕を用ふる。此の際に注意すべきことを述べれば、

(一) 空氣を少しも残さずに追ひ出すこと。内部に少しでも空氣があれば大いに熱の傳導を妨げ、殆んど氷枕の用をなさぬものである。それには氷と共に多少の水を加へて口まで一杯にした後に、其の口を閉ぢるを要する。

〔備考〕 氷嚢が上に患部が下にあるときには、氷嚢内の空氣を追ひ出す必要は全くない。

(二) 氷枕に氷と水を入れ過ぎると、頭と枕との接觸面を減ずるから、効力が弱まる。

方法

- (三) 氷枕が頸又は肩に當るところは、毛髪のない爲に特別強く冷やされるものであるから、其の部に適當に布片を當てる必要がある。
- (四) 氷嚢及び氷枕は、患者が悪寒を覺ゆるとき、又は體溫が降つて卅七度内外になつた時は、直に之を取り除くこと。

覆法

之れには濕布溫覆法、濕布冷覆法、乾性溫覆法の三種がある。

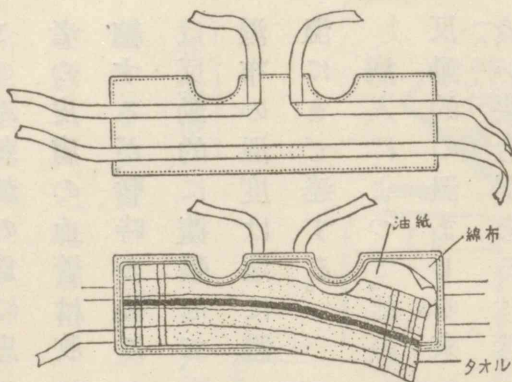
- (一) 濕布溫覆法 方法は(1)綿フランネル・タオルなど、成るべく地厚な布を、溫湯又は溫藥液に浸し、軽く絞つて、溫うちに患部にあて、(2)水分の浸み出さぬ様、其上を亞麻仁油紙等にて蔽ひ、(3)更に其の上を、厚く綿又は毛布で包んで置くのである。

冷却に對する注意

溫い濕布は、間もなく體溫と同溫度まで降るは當然であるが、(3)の手續を施して、それの體溫以下に降下することを防ぐのである。胸部や腹部に濕布覆法を施したときには、身體を動かす毎に、濕布と膚との間に空氣が出入し、蒸發による冷却を起すから

濕布蒲團

方法



(裏と表) 例一の團蒲布濕

濕布をした患者は成るべく靜かに臥床するがよい。

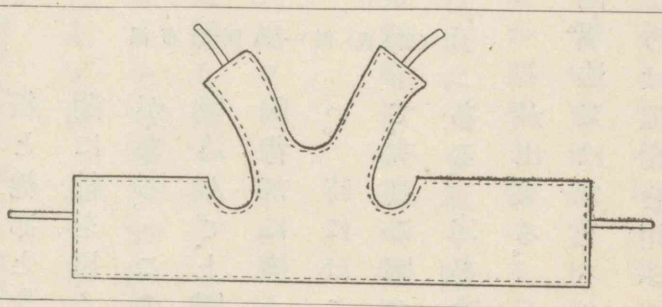
上記(2)(3)の手續を簡便にするため、濕布より稍、大きい亞麻仁油紙と綿布とを腹合せに縫ひつけ、其の間に綿を厚く入れたものを作ることがある。この場合に、兩腕のところを切込んで、上圖の如きものをつくれれば、胸背部に廣く濕布するのには甚だよい。時にはこの意味を一層徹底させて、次頁の圖の如きものに行ふことができる。之れならば肩までも包むことが出来る。

- (二) 濕布冷覆法 は興奮性覆法又はブリスニツツ氏覆法とも云ふ。方法上、前者と異なるところは、溫湯を用ふる代りに、室溫の冷水又は

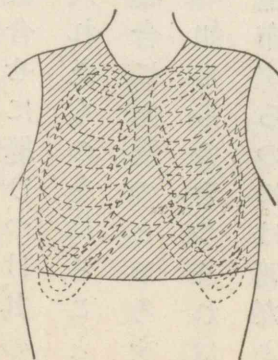
結果

不結果の場合

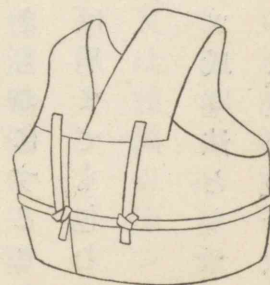
冷藥液を用ふることである。故に最初はこの冷刺戟の爲に、患者の皮膚の血管は収縮するが、暫時の後は反動的に擴張して、濕布の温度は速に體温にまで達する。



肩でまき包み得る濕布團



同上と肺の位置



ろことだん包・上同

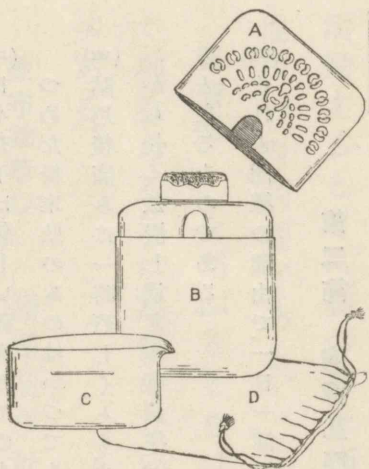
病人によつて、此の反動的の温まりの來ない場合がある。然るときは、この方法は失敗であるから、温罨法に換へるがよい。
(三)乾性温罨法 懷爐湯タンポ、熱砂、熱食鹽等を用ひて患部を温める

白金懷爐

用法

238

方法である。懷爐と湯タンポとは、久しく冷えず、使用法も簡單であるから、多く用ひられる。



A. C. 白金懷爐の油發揮
B. D. 白金懷爐の蓋
白金懷爐の蓋

懷爐の一種に、白金懷爐と云ふのがある。之は綿にしました揮發油から蒸發する蒸氣が、極めて緩漫に燃焼するによつて發熱する装置であつて、稍、高價な嫌ひはあるが、從來行はれ來つた懷爐に比しては、容器も小さく、長時間保つなど、幾多の長所をもつ。

芥子泥

芥子粉に温湯を加へ、泥狀に練りつゝ、強い刺戟の臭の發するを待つて、布又は丈夫な紙面に塗り、其の上に紙又はガーゼを置いて、之を患部に貼りつけるのである。或は練り方を稍、柔くして、其の内にタオル其の他の地厚な布を浸し、かなり強くしぼつて、之を患部に當てる方法もある。何れにしても、其の上を更に地厚の布で包むがよい。

貼用の時間

この際最も注意すべきは、貼用の時間であつて、其の部に痛みと灼熱を感じ、著しい發赤^{ホツセキ}を見るに至つたらやめる。大人と小兒又は個人によつても相違はあるが、普通は五分乃至十五分である。

〔注意〕

- (一) 芥子をかくに用ひる湯の温度は、成績に大關係がある故に特に注意を要する。五六十度なるがよい。
- (二) 日本芥子は新しい砕きたてのものでなくてはならぬ。西洋からしと稱して、罐につめた粉末状のものは、いつでも使用に堪へる。
- (三) 貼用後痛みは一時烈しくとも、少し我慢すれば割合感ぜぬやうになるものであるから、長く放置し過ぎる事が往々ある。然る時は水泡を起し、後の手當が頗る厄介となるものである。
- (四) それと同様の理由で、一日一回以上は行ふことを避ける。

第二節 病褥及び病衣

病褥

病褥は寢臺又は之に類する臺の上に設けるときは、看護

239

は非常にらくに、且つ上手に行ひ易い。かくすれば病人の枕頭に活動するときに、疊の塵を病人にあびせかけることの少ないのも他の一の利益である。

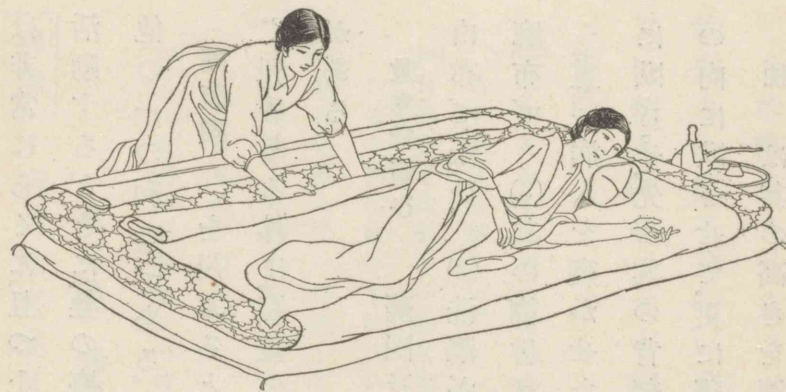
藁蒲團 を用ふるときは、下敷が身に柔く當り、褥瘡^{アサナ}(次々節を防ぐ利益ある外に、寢臺のないときには、病人の位置を高くする利益がある。

敷布枕蔽ひ

蒲團及び枕は、(1)少しの汚れも目立つやう、常に白布で蔽ひ、(2)洗濯が惜し氣なく出来るやう、其の質は綿布又は麻布で、(3)其の糊付は中等度なるがよい。

重い病人を寝かせたまゝに敷布を換へるには、病人を一度横向に臥させ、先づ其の背部に於ける半分を敷き換へ、次に病人を反對の向に臥させて、更に残りの半分を敷き換へるやうにする(次圖)。枕 は其の高さを適當にすることが大切である。横臥に適す

敷布の取換へ方



(一) の 其) 方 へ 換 の 布 敷



(二) の 其) 方 へ 換 の 布 敷

る高さは、仰臥に對しては高過ぎるが常であるから、枕を仰臥に適するものに作り、横臥の際には、其の下に物を入れて、之を高くするがよい。

空氣枕 病人の寢方をいろいろに變化

し得んが爲には、空氣枕を種々の程度に膨らませ、種々の位置にあるときは大いに効がある。但し頭の臺としては空氣枕は不愉快のものである(第67節)。

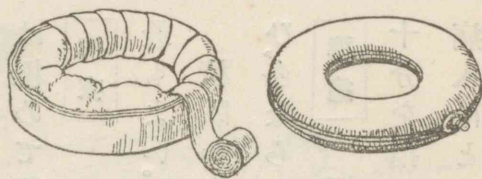
掛蒲團 は薄くして軽いものを重ね用ひる方針がよい。毛布又は之に類する薄いものが、白布に包まれて下掛になり居ることは極めて望ましい(第67節)。

病衣 病衣は肌着としては白又は白勝ちの軟質の綿布なるが最もよい。

横臥のまゝの着替へは、前記敷布の取り替へに準じて、半身宛行ひ、冬ならば肌衣は溫め、且つ日中最も溫い時に於て行ふがよい。

褥瘡 褥瘡は身體の或部分(肩、踵、臀部等)が壓迫の爲に血行の十分を招き、その部の細胞が死滅するに依つて出来るもので、永い病人にとつては、誠に恐るべき難物である。

豫防法



(種二) 褥瘡の除け環状褥

こと。

(四)速に環状褥(上圖)を用ふること。

第三節 病室

病室の要件

一時的の病氣ならば、病室は左程に大問題ではないが、永くなると、室の適否はかなりの重大問題である。而して其

その初期は紅色の斑點として現はれるから、其の時十分の豫防法を講ぜねばならぬ。

豫防法には次の如きものがある。

- (一) 皮膚を清潔にし、且つ常に乾燥させておくこと。
- (二) 褥瘡の生じ易い部分を毎日一回、水で一倍半位にうすめたアルコールを以て拭ふこと。
- (三) 強く且つ永く壓されるところを生ぜぬやう、度々ねがへりを打たせ、寢床の皺などにすら注意する

湿度を増す法

特別の手段

の適否を決する主なる要件は、(1)適度なる換氣 (2)適度なる温度と湿度 (3)日當り、(4)静けさ等である。

室の換氣と温度については既に之を述べた(上巻)。

病室の湿度

病氣によつては室内の湿度の大なるを殊に望むことがある。

湿度を増す爲に、湯を入れた金盥を火鉢の上にかけることは、火鉢が病室の空氣を汚す點に於て、理想的方法とは評し難いが、普通に行はれてかなりの効果がある。

特別の手段として、病人の上に布をつるして、小さいテント様のものをつくり、此の内に蒸氣を送り込む様にすることがある。前者に比して、効力數倍するの利益はある。

病室の燈火

燈火の光が病人の目を直射せぬやうに(1)其の位置を選び(第95節) (2)若くは適當に蔽ひをかける。又(3)病人の就

眠時には、之を暗くなし得るやう工夫を施し、(4) 臺のある電燈のコードを長くし、望みの位置に自由に持ち行くことを得るのも望ましい事の一つである。

病室の掃除

病室は掃除が簡単に行はれるやう、成るべく不用の品物をこゝに置かないやうにする。

掃除の際、小さいものは風下の室外に持ち出して塵を拂ひ、其の他のものは、成るべくハタキ又は箒を避けて、乾布拭若くは半乾布拭(第118節)によるがよい。

掃除中は特別の理由なくば、廣く戸や窓を開き、且つ病人の顔、枕頭の醫藥其の他には、夫々白布をかぶせて掃除を終へ、舞ひ上つた塵埃の吹き去られ又は大體落付いた頃に、其の布を去るがよい。

第四節 病人の食物

病人の食物

食物の適否は病氣の回復に至大の影響のあるも

のである。

如何なる食物が最も病人に適するかは、病氣の種類・年齢・習慣に依つて異なるべきであるが、大體の方針は、

(一) 各種の栄養素を漏なく具備すべきこと。

病氣が短期間のものであるときには、お粥に梅干主義でも差支ないが、長期に互る場合には、決して左様な方針では押し通せぬものであるから、上巻「献立の方針」に述べたところに則つて、食品の選擇に誤のないやうに注意を要する。

(二) 消化し易いこと。

病人は消化器病者にあらずとも、消化機關の弱つて居るのが普通であるから、消化し易いものに消化し易い料理法を加へて供せねばならぬ。但し餘りに消極的になりすぎては、或は便秘を起し、或は却つて回復をおくらせる等の事があるから、病狀によつて適

食物の胃に停
る時間

度なるを要する。

消化の難易は、必ずしも食物が胃内に滞在する時間では測り難いとの説もあるが、今日のところ、この時間が大體の尺度と一般に認められて居るから、次に湯川氏の表を抄録する。

(一) 一時間十五分——二時間以内に胃を去るもの

食品名	分量	食品名	分量	食品名	分量
半熟卵及水	各一〇〇・〇	水蜜桃	四〇〇・〇	菠薐草	一〇〇・〇
砂糖水	二〇〇・〇	牛乳	二〇〇・〇	水芹	一〇〇・〇
白粥	一〇〇・〇	葛湯	二〇〇・〇	茄子	一〇〇・〇
米飯	五〇〇・〇	鶏肉スープ	二〇〇・〇	冬瓜	一〇〇・〇
和昆布	一〇〇・〇	麥飯	五〇〇・〇	桃	一〇〇・〇
林檎	一〇〇・〇	パイン	一〇〇・〇	梨	一〇〇・〇
蜜柑(皮を除く)	一〇〇・〇	大根	一〇〇・〇	乾鮎(煮)	一〇〇・〇
葡萄	一〇〇・〇	燕青	一〇〇・〇	乾鰯(炙)	一〇〇・〇

鯛 生 肉 五〇〇・〇

(二) 二時間十五分——三時間以内に胃を去るもの

食品名	分量	食品名	分量	食品名	分量
米飯	一〇〇・〇	生牡蠣	一〇〇・〇	生卵及水	各一〇〇・〇
素麵	一〇〇・〇	蕎麥	一〇〇・〇	牡蠣	一〇〇・〇
赤小豆	一〇〇・〇	餅	一〇〇・〇	白麵	一〇〇・〇
麩	一〇〇・〇	胡蘿蔔	一〇〇・〇	饅頭	一〇〇・〇
蓮根	一〇〇・〇	馬鈴薯	一〇〇・〇	凍豆腐	一〇〇・〇
薇(ぜんまい)	一〇〇・〇	牛蒡	一〇〇・〇	乾大根	一〇〇・〇
煎餅	一〇〇・〇	胡瓜	一〇〇・〇	百合	一〇〇・〇
水飴	一〇〇・〇	昆布	一〇〇・〇	南瓜	一〇〇・〇
杏	一〇〇・〇	西瓜	一〇〇・〇	カステラ	一〇〇・〇
焼鮎	一〇〇・〇	羊羹	一〇〇・〇	葱	一〇〇・〇
煮鮎	一〇〇・〇	栗をこし	一〇〇・〇	生卵黄及水	各一〇〇・〇

鯉	(煮)	一〇〇・〇	牛肉(鋤焼)	一〇〇・〇	ビスケット	一〇〇・〇
鯰		一〇〇・〇	甘藷	一〇〇・〇	鯛(煮)	一〇〇・〇
牛たき肉(鋤焼)		一〇〇・〇	蒟蒻	一〇〇・〇		

(三) 三時間十五分——四時間以内に胃を去るもの

食品名	分量	食品名	分量	食品名	分量
慈姑	一〇〇・〇	鯰(煮)	一〇〇・〇	あひる(鋤焼)	一〇〇・〇
筍	一〇〇・〇	鮑刺身	一〇〇・〇	蛤	一〇〇・〇
ゆで卵及水	各一〇〇・〇	鯰鹽焼	一〇〇・〇	鮑	一〇〇・〇
鯛鹽焼	一〇〇・〇	落花生(炒)	一〇〇・〇	龍蝦(天麩羅)	一〇〇・〇
板蒲鉾	一〇〇・〇	鯛味噌漬	一〇〇・〇		

(四) 四時間十五分——四時四十五分以内に胃を去るもの

食品名	分量	食品名	分量	食品名	分量
鯉魚(カズノコ)	一〇〇・〇	鰻	一〇〇・〇	鯛鶏(鋤焼)	一〇〇・〇
ビフテキ	一〇〇・〇	豚(鋤焼)	一〇〇・〇		

量の少ないのが當然

異常な食慾増進

食慾不振の場合

嗜好の訓練

(三) 適量をとること。病人は活動に勞力を要するわけではなく、又通常は温かく保たれて居るのであるから、食量は平時よりも著しく少なくてよい。寝てゐても大食を喜び、若くは之を誇る類は、次に必ず反動の來るものと承知して、恐れ慎まねばならぬ。病氣によつては、其の回復期に異常の食慾増進を見ることがあるが、その際は、殊に注意を要する。

右と反對に、時には食慾不振の際、無理にも食物を攝らせねばならぬ場合もある。かゝる際には、病人自らも、舌と咽喉とのみで食物をとらず、頭で食物を攝るやうにせねばならぬ。

之れには、平素より其の嗜好を訓練して置くがよい。牛乳も飲めず、鶏卵も嫌ひなど云ふ人は、一旦生死の危機に出遇へば、大なる不利に陥るものである。

第六章 小さい手當 應急手當

247

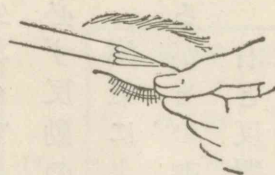
ごみの見出し方

眼中異物

眼にごみの入つたときには、妄りに摩することは避け、徐ろに上下の眼瞼を裏返し、同時に眼球を上下左右に向けて、ごみの所在をさがし、これを見出し得たら、柔い布の



上眼瞼を裏返し返すこと



下眼瞼を裏返し返すこと

尖つた端で、軽く拭ふやうにして取り除くがよい。

下眼瞼を裏返すことは容易であるが、上眼瞼は、其の端より幅凡一糎の間は、堅い板のやうに出来て居て、之を巻き返すことが出来ぬものであるから、板を裏返すつもりで行ふがよい。即ち先づ右手で眼瞼を前下方に引延ばしたまゝ、左手で其の板の根元と思ふところに鉛筆の先端又はマツチの棒の如きものを當て、少しく押しくぼめ、然る上に、右手で眼瞼を上方に裏返すのである。

上眼瞼の裏返し方

248

家庭の應急手當

やうにして成功することもある。

齒痛

之には齒の痛みと齒齦の痛みとの二種がある。

齒齦の痛みには、患部殊に齒と齒齦との境目に、沃度丁幾を塗布すれば効がある。

齒の痛みには種々の原因がある。齒科醫によつて其の原因を去ることが、最も確實で且つ永久的療法である。

家庭での應急手當としては、小楊子の類で、よく齧齒の掃除を行ひ、次で二％硼酸水、又は一〇倍にうすめた過酸化水素水(オキシフル)で、幾度も含嗽を行ふがよい。此の上外部より溫濕布罨法又は冷濕布罨法を行へば更によい。

アスピリンを適量に服用しても効果がある。

鼻出血

俗に鼻血とも云ふ。之に種々あるが、最も有りふれた鼻血は、鼻孔の入口より凡一糎の深さの鼻の中隔の側面(キーゼル

出血の場所

249

手當法

バツハ氏局所の名があるから出るのである。
鼻をかむことを避け、靜に數分間を經過させれば、自ら止むことが多い。半身を斜にして高く仰臥し、脫脂綿を淺く鼻孔につめ、出血する方の鼻翼を壓しつぶしつ、五分乃至十分間を經過するもよい。同時に後頸部及び鼻の部分冷せば更によい。只の脫脂綿の代りに、止血劑(一%の鹽化第二鐵の水溶液)に浸した脫脂綿を用ふれば、多少いみて痛むけれども、更に有効である。

(注意)一旦止血しても、脫脂綿を引出す時に、新に出血を起すこともあるゆゑ、暫くは脫脂綿を其の儘にして置く。

腹痛

腹痛には種類が多い。

(一)胃痛 痛みが上腹部にあるときは、恐らく胃痛である。病人がその前に過食若くは不良食をした覚えのあるときには、愈、確實と見てよい。この場合には、先づ只の溫湯又は重曹の一―二瓦を加

溫める

250

吐出の方法

へた溫湯を飲み、又患部を溫める手段を試みる。効なくば、胃内の物を吐出する手段を行ふ。

それには、微溫湯に食鹽を飲みよい程度(一%弱)の濃さに溶し、これを成るべく多量大茶碗に數杯に飲み、俯向になつて頭を腹よりも低くし、羽毛又は指頭を深く口内に差し入れ、軽く咽喉部を撫て嘔吐を催させる。少しく根氣よく之を行ひ續ければ、數回の後には胃の内容物の全部若くは殆んど全部を吐出させることが出来る。この際尙残りありと見たら、今一度大膽に多量の微溫湯を飲んで、前同様に行ふがよい。

普通の腹痛

(二)腹痛 痛みが下腹部にある時には腸の痛みである。これが食物其の他の中毒より來たと推察し得るときには、ヒマシ油の下劑を用ひて腸の内容物全部の排出につとめる。自然の下痢があつても、それがいぶる時は、やはり下劑の使用は甚だ有効である。同

危険な腹痛

腸閉塞

盲腸炎

時に下腹部を温めるがよい。

痛みが數時間も續き、其の間一回の通じもなく、且つ放屁すらない時には、恐るべき腸閉塞かも知れぬ故に、速に醫師を迎へねばならぬ。

痛みが激しく、その場所が専ら病人の右側下腹部にあるときには、盲腸炎の疑ひが濃厚である故、直にヒマシ油の下劑を用ひ、一切の固形食物を斷ち、絶對安靜を保ちつゝ、直に醫師を迎へねばならぬ。

創傷

如何に小さい傷でも、それから細菌が入れば大事になるものであるから、放置することは良くない。この場合には是非とも、

手當の方針

- (一) 既に附着して居るかも知れぬ細菌を滅すこと、
- (二) 細菌の今後の侵入を防ぐこと、

251

實行の方法

創口の汚れて居るとき

創の深いつき

の二方面の手當を要する。放置した創口の周圍が赤くなり、痛みを増す傾向があるときには、細菌の作用が既に始まつたものと心得て、直に手當をせねばならぬ。

(一)の目的には、ヨードチンキを塗るか、ヨードホルム又はアイロールをつけるがよく、(二)の目的には、脱脂綿又はガーゼをあて、繃帶を施すがよい。時としてはヨードホルムガーゼを、又はアルコール(七〇%以上の濃さ)に浸した脱脂綿をあてて、繃帶をかけ、(一)の目的を同時に達することもある。

創口が汚れて居るときには、上記の如くする前、一度過酸化水素水(オキシフル)を四―五倍に稀めた液、又は煮沸した微温湯で洗ふがよい。

釘で刺した傷の如く、創口が割合に小さく、洗ふことが十分に行はれ難いときには、一時の痛みを忍んで、沃度丁幾を深くその創内

蟲類

252

に注入すれば、大抵後日の悔はないものである。
咬まれ傷・刺され傷 毛蟲・ムカデ・蜂などに刺されたときは、成る

べく手早くハブ草の葉をもんで其の液を塗りつけるか、又はアンモニア水をすり込むやうに塗りつけるがよい。其の上に濕布冷罨法を施せば更によい。

犬に咬まれた時は、其の犬が狂犬なるやを確めることが第一に大切である。而して狂犬でない事の確實になつた場合の外、假令其の傷は如何に小さくとも、數週又は數ヶ月を経て恐るべき狂犬病に罹る危険があるから、直に狂水病豫防注射を受けねばならぬ。この注射は、所定の回数を重ねずば効果のないものである。

犬

毒蛇、サソリ

毒蛇・サソリに咬まれたときは其の毒が心臓を犯せば直に死を招くものゆゑ、時を移さず傷口と心臓との間を極力緊縛して血行を止め、(次節)然る上、口を當て、其の毒を體外に吸ひ出すにつとめ、(口内に僅かの傷でもあるときには之は行へない)、一刻を爭

253

靜脈出血と動脈出血

ふものとして速に醫師を迎へる。

出血

血管外に出た血液は自然に凝固して後の出血を中止する性質があるが、切れた血管の太いときには、この自然性の保護作用も役立たぬことがある。

太い靜脈が切れたときには、暗黒色又は紫色を帯びた血が一樣の速さで流れ出すが、太い動脈の切れたときには、鮮紅色の血が、脈動的に流出する。

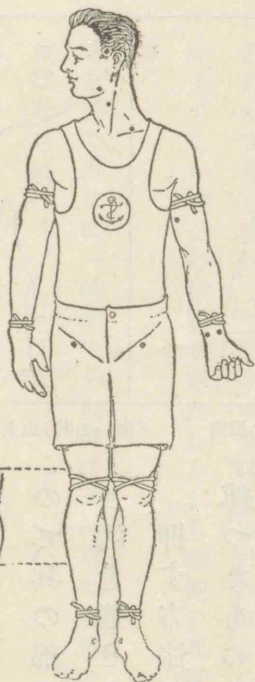
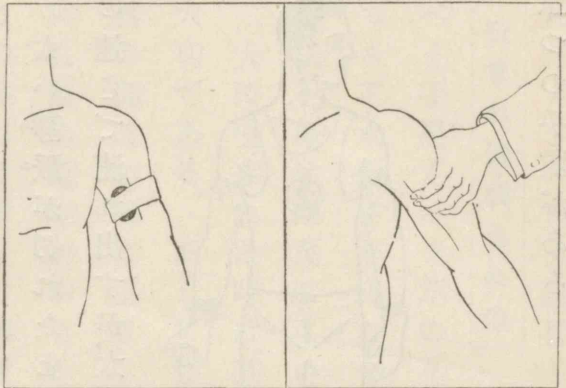


圖) 置位の脈動を得れ觸りよ部外
る縛で目的血止、と(點黑の中
所場の合都好に

大出血を止める一つの手段は、創の部に關係ある動脈管を押しつぶすことであるが、之れに

二つの手段がある。

關係動脈の壓迫



(例二の其)前同

(例一の其)血止るよに迫壓脈動

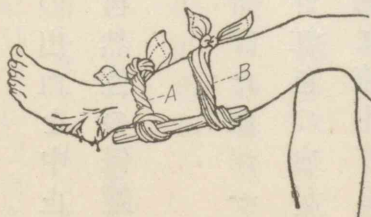
一般血管の壓迫

縛り方の一

(二) 一般血管の壓迫 創口と心臓との間で縛りよ
い部を強く縛ることである。
其の縛り方に、數種ある。

(1) 手拭・ハンカチーフ

縛つたものゝ下に、石
又は布の丸めたもの
などを押し込むのと
の二手段がある。



血止るよに縛緊

縛り方の二

喀血・吐血

口より吐き出す血に喀血と吐血の二種類がある。

の類を用ふるもの。之には先づ緩く縛つた上、棒を入れて振つて、
出血の止まるまでに緊縛し〔右圖A〕、其の棒の端を他の手拭又はハ
ンカチーフで、別のところに縛りつける〔右圖B〕。
(2) ゴム管を用ふるもの。之には自轉車又は自動車用の空氣ポン
プに附屬せるものを用ふる。縛り方は前圖〔第六九頁〕に示すが如
く、棒で振るを必要とせず、極めて簡單でよい。
醫師の到着が後れて、數時間も緊縛を続けねばならぬ場合には、緊縛部より先の部分
が、新しい養分の供給を絶たれるから、細胞の死滅を來し、所謂壊疽に陥るものであ
る。
之を防ぐ爲には、一時間に一回位は其の部の血色の恢復するまで、その緊縛をゆるめ
ねばならぬ。
其のゆるめ中には、創口丈けを強く押すことによつて成るべく出血を少なくするや
うにつとめる。

應急手當

一、咯血は肺又は氣管よりの出血、吐血は胃よりの出血である。咯血は、(1)常にせきに伴つて出ること、(2)血の色の鮮紅色なこと、(3)反應は中性又はアルカリ性であること等に依つて吐血と見分けることが出来る。應急手當は、絶對安靜が何よりも大切であるから、談話すらも避け、其の上で、約二〇〇蚝の食鹽水〔水コップ一杯、食鹽小匙一杯〕を飲ませ、出来るだけ胸部を冷す。

應急手當

(二)吐血は、(1)常に嘔吐に伴つて出で、(2)色は暗黒色で、(3)混入した胃液の爲に、多くは強い酸性反應を呈する。應急手當としては、安臥させて、胃部を冷し、嘔氣あらば氷片を口に含ませる。

右兩者何れも重大な疾患であるから、速に醫師を迎へねばならぬ。

火傷

火傷の程度に三階級があり、手當もそれに應じて異なる。

單に赤色を呈する程度で、皮膚の破れを生ぜぬ火傷には、重曹水

輕度の火傷

255

中等度の火傷

強度の火傷



に浸した布又は綿を當てるが最も簡便で効果がある。脂肪又は油を塗つても痛みを和げる。ピクリン酸溶液に浸した布を當てれば最上である。

水泡を生ずる程度の火傷には、冷水又は硼酸水で濕布罨法をなし、暫時の後消毒した針の先を火中に熱するか、又はアルコールで拭いて、水泡の縁の部を刺して、皮膚を破らぬやう注意しつゝ、成るべく完全に内部の水を押し出し(上圖、外皮を剥ぎとることなしに、硼酸軟膏を塗つて繃帶を施す。

火傷が更に度を進めて、皮膚が全く焼焦げた場合には、取りあへず硼酸軟膏を塗つて、緩く繃帶を施し、速に醫療を乞ふがよい。

〔注意一〕火が衣服に燃え移つた場合には、先づ其の人を地上に倒し、火が下になるや

うに轉がすか蒲團で蔽ふか救急者自身の衣服で包むかして之を消すがよい。
〔注意二〕 衣服が皮膚に焼けついた際にはそれを剥がす爲に皮膚を損傷せぬやうに、其の部の周囲の布を缺で切り去るがよい。

卒倒

突然に倒れて、氣が遠くなる、若くは全く人事不省に陥るを一般に卒倒と云ふ。之には(1)急性腦貧血、(2)日射病、(3)瓦斯中毒

(4)腦溢血等種々ある。

(一)急性腦貧血 病狀は突然に顔色蒼白となり、惡心嘔吐めまひ冷汗等を伴ひ、全く失神することもある。この時體溫には、さしたる異常はないが、呼吸は淺くして速く、脈搏も亦弱くして速いのを常とする。

其の原因となるべきものは極めて多種多様で、(1)暑熱の室に多人数が集ること、(2)飢饉、(3)惡臭、(4)胃の異常、(5)他人の出血を見ることなどの些細の原因によることもあり、又(6)負傷、(7)出血、(8)劇痛、(9)

症狀

原因

256

強度の精神感動等によつても起る。

手當法は頭部を低く、足部を高くして靜かに仰臥させるが第一である。この上、帶や衣裳のかたいものはゆるめ、意識があれば、赤酒濃い茶・コーヒー等の興奮性の飲料を與へるがよい。

(二)日射病 炎天下に長く激しく運動するとき起る。涼しい所に移し、衣を緩めて安臥させ、全身に涼風をあて、又は冷水をふきかけ、意識回復後は、冷水を多量に飲ませれば、多くは忽ち回復する。

三 瓦斯中毒 石炭瓦斯のもれて居る室内、又は盛んに炭火の燃える室内で昏倒することのあるのは、一酸化炭素、又は炭酸瓦斯の中毒である。かゝる場合には、速に清鮮な空氣中に安臥させ、衣を緩め、必要と見れば人工呼吸法(次々節)を施す。

〔注意〕 瓦斯中毒者を救ひ出さんとして、又救助者の卒倒することは非常に多い。故に救助者は先づ其の室又は其の害の空氣を十分に交代させて後に其處に踏み入る

手當

原因

手當

原因

手當

症状

手当

257

(四) 腦溢血 腦の内部の出血に原因し、多くは鼾聲を發して深く遅い呼吸をなし、脈搏は力強くしておそく、往々半身又は全身の麻痺を見る。應急手当は上半身を高くして安靜に臥させ、衣をゆるめ、頭部を冷し、グリセリン灌腸を施す。

溺死未遂

溺死者が死後未だ長時間を経ぬ時には、水より引き上げるや、直に遭難者を下向に伏させ、其の上腹部(即ち胃の部分)に兩手をかけて、頭が下方に吊りさがる様に、其の體を高く幾回も引上げて、水を吐き出させるにつとめる。

次に口中を検査して一切の異物を去り、一刻を争ふものとして猶豫なく、直に人工呼吸法(次節)の實行に取りかゝる、決して遭難者を他に運び行かんとしてたり、又醫師を迎へに行くが爲とて、永く放置してはならぬ。

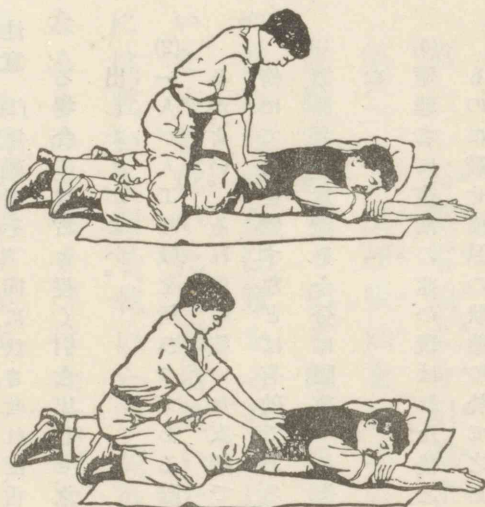
第一段の手當

第二段の手當

258

人工呼吸法

其の方法に數種あるが、人手のすくないときに行ひ得られる最良法の一つは次の如くである。



(法臥俯) 例一の法吸呼工人

(1) 手早く着衣をゆるめ、遭難者の腹部に低い枕様のものをおいて、下向に伏させ、(2) 顔を横に向けて、一方の腕を枕にさせること圖の如くし、(3) 口を閉ぢ居らば何物か〔木片にてもよし〕を口に挟みて自由に空氣の出入し得るやうにし、(4) 兩手を其の最終の肋骨のあたりにあて、上より徐ろに強壓を加へ、又徐ろにこれをゆるめ、自分の呼吸と調子を合せつゝ、凡毎四秒間に一回の割合で此の手段を繰り返す。

數時間續けて後に始めて其の效果の現はれる例も少なくないから、あせらずに、また中絶せずに、二時間乃至三時間位は、之を行ふがよい。

注意 (1) 遭難者を下向に伏させれば、舌は大抵自ら垂れ出すものであるが、もし然らざる場合には、舌を長く引き出して、之をハンカチーフ、靴紐等で縛り、其の舌を常に引出しておくがよい。

(2) 一人が人工呼吸を行ひつゝある際、他の人は成るべく遭難者を温める方法を講ずるがよい。それには乾いた衣類で包むこと、幾つかの湯タンポの類を用ふること、傍にて火を燃すなどは有効である。

(3) 遭難者が意識を十分に回復する迄は、如何なる液體をも飲ませんと試みてはならぬ。

(4) 遭難者に復活の兆の現はれた後、之を他所に移す必要があるときには、戸板の如きものに載せ、横臥の状態に於て之を運ぶがよい。此の際其の體を引き起し、又は之を引き立てるが如きことは最大の禁物である。

電撃

高壓の電氣に打たれて卒倒した人は、前節の諸例と異つ

て、殆んど全く呼吸がなく、脈搏も甚だ微弱である。

其の救助法は、

第一 高壓電線より引離すこと、

第二 人工呼吸法を行ふことである。

高壓電線より引き離すには、救助者の自體に、危険な電流の通ぜぬ様あらゆる注意をとらねばならぬ。即ち救助者の足下には乾いた木板、乾いた陶磁器、乾いた新聞紙、乾いた衣服等を敷き、其の手には乾いた帽子、乾いた手袋、乾いた外套など、凡て電氣の絶縁體になるものを卷きつけた上、始めて被救助者の身體に觸れて之を電線より引き離すがよい。

繃帶

繃帶は、(1) 創口を保護して細菌の侵入を防ぎ、(2) 藥物を患部に保持し、(3) 動いてならぬ部分の移動を防ぐなど、いろいろの目的を以て用ひられる。

卷軸帶の種類々

その形状には種々あるが、卷軸帶と繃帶巾との二種が最も普通である。卷軸帶は、薄く目の粗い晒木綿の一幅を、四つ五つ又は八つに裂いて巻いたものが普通で、新しいものゝ長さは、一反または半反を普通とする。

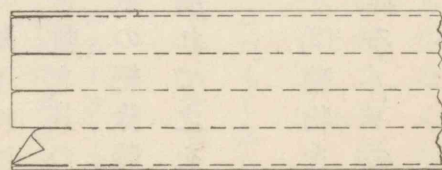
繃帶巾と云ふは、普通大幅の金巾を用ひ、それを正方形に切つたものを四角巾と云ひ、四角巾をその對角線に沿うて二つに切つたものを三角巾、三角巾を更に二分したものを小三角巾と云ふ。

卷軸帶の用ひ方

卷軸帶の使用法を類別すれば、

(一) 環行卷 之は同一の場所に、二三回重ねて巻く方法であつて、何種の巻方を施すにも、初めと終りとは常に之を用ふる。

(二) 螺旋卷 之は繃帶を少しづつづらせて螺旋狀に巻き進んだも



方り作の帶軸卷

繃帶巾の種類々

ので、幅の狭い布で廣い面積を巻くのに是非必要な方法である。巻くべき部分の太さの一樣なところに常に使用せられる。

(三) 折轉卷 之は繃帶を時々折り返ししながら、螺旋卷を行ふものであつて、太さの異なる部分を巻く時には、是非必要である。

(四) 蛇行卷 是一種の螺旋卷ではあるが、布が互に重ならぬ程進みの速いものを云ふ(別圖(2)参照)。患部にあてた藥物が、繃帶施行中にずれ動く虞れあるときは、先づ之を行ひ、其の上に他種の繃帶を行ふのが便である。

(五) 8の字卷 之は名の如く8の字を描きつゝ、繃帶を順次にずらせ巻く方法であつて、四肢の分岐部又は屈折部などに用ひて、甚だ便利である(別圖(4)(5)(6)(7)参照)。

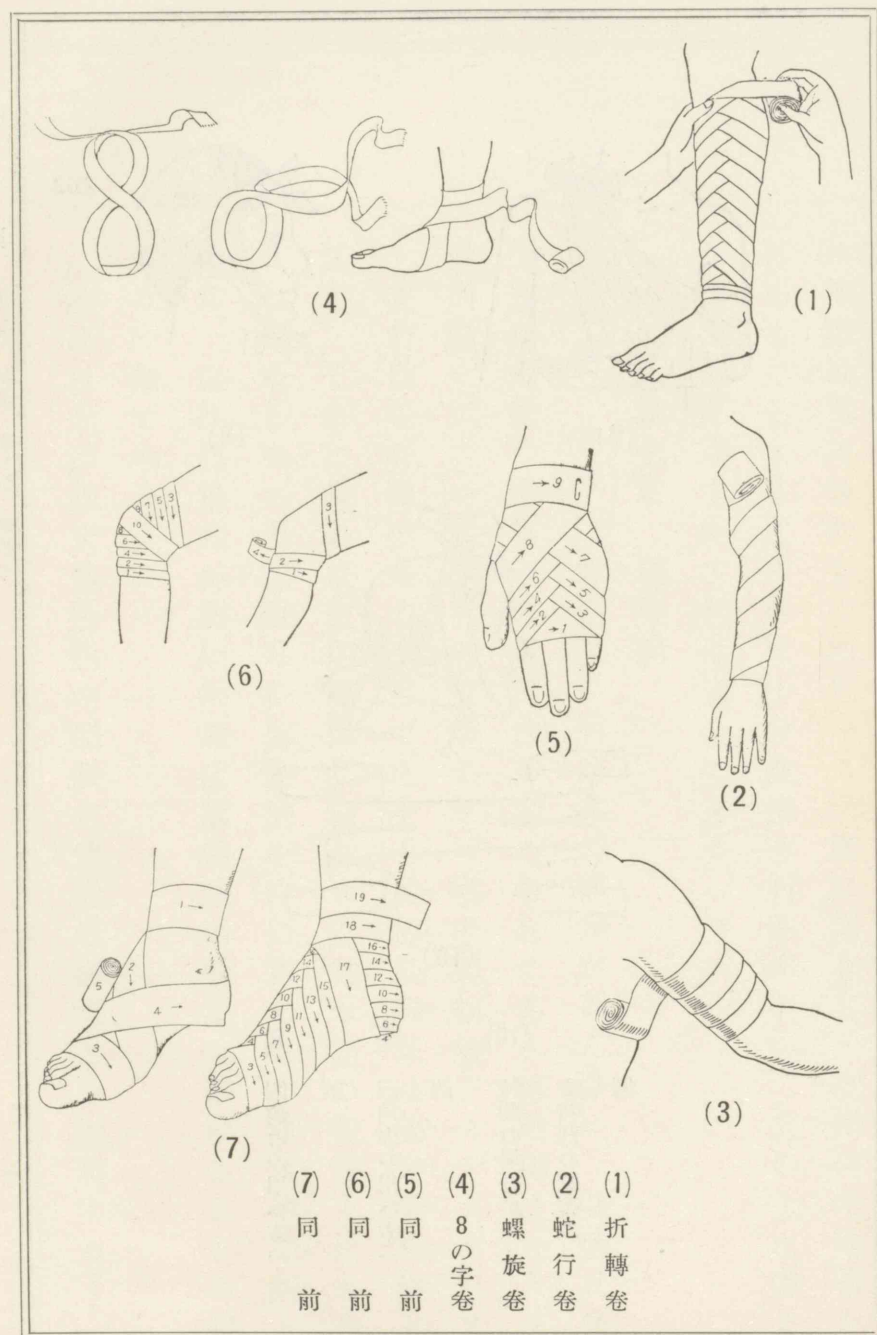
繃帶巾の用ひ方

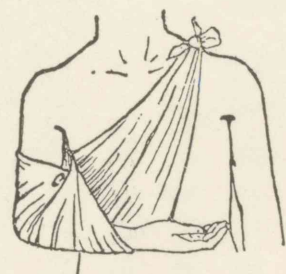
繃帶巾は場所に依つては甚だ便利である。別圖(8)(9)に各、その一例を示す。

繃帶使用に關する注意

- (一) 繃帶の種類及び用法は決して上記に限つたものではない。場合に應じて、適當な形と用法とを自分で工夫すれば、手數少なくして而も上手に行ふことが出来る。別圖(10)に其の一例を示す。
- (二) 繃帶は緩きに過ぎれば、くづれ易く、かたきに過ぎれば血行を妨げ、又疼痛を増す。而して下手に之を行へば、始めには、かた過ぎる程であつても、容易にゆるみ崩れるものである。
- (三) 素人が繃帶を施すときには、かたからず、ゆるからず、又くづれぬやうを方針として、適當に上記の諸方法を應用し、決して書物に在る圖の外見を猿真似することなく、一卷毎に其の適否を考へつゝ、十分手間取つて卷くがよい。
- (四) 折轉卷の上に蛇行卷を施すとか、螺旋卷の終りを8字卷にしてとめるとか云ふ如き工夫も、時には必要である。

別圖

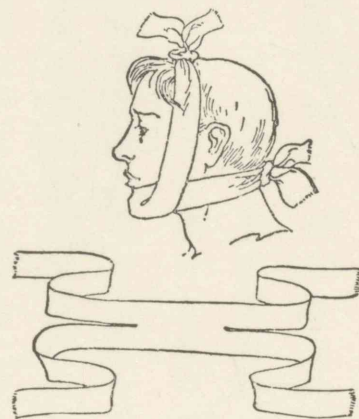




(9)



(8)



(10)

(10)

例
特別の場合に用ふる特別の繃帯の一

(9)

例

三角巾の用ひ方一

(8)

例

四角巾の用ひ方一

(五) 繃帯は常に他のものに包んで清潔に保存し、一度用ひた繃帯を再用せんとするときには、十分洗濯を行ふがよい。其の上に、煮るか消毒剤に浸すかすれば安全である。

第七章 傳染病

傳染病の二種

傳染性の病は其の種類が甚だ多い。我國に於て、法律に依つて特別の取締法が定められてある傳染病は、コレラ、赤痢、腸チブス、パラチブス、發疹チブス、痘瘡、猩紅熱、デフテリア、ペスト、流行性腦脊髓膜炎の十種で、之を十種傳染病又は法定傳染病と云ふ。これに罹れば、直に届出て〔醫師より〕其の筋の監督下におかれねばならぬ。上記以外の傳染病を、之に對して非法定傳染病と云ふ。之は傳染性が弱いか、又は取締法の効果を擧げることの困難な一類である。

次には先づ法定傳染病の症狀と傳染の經路とを概説する。

症狀

265

傳染の経路

266

症狀

267

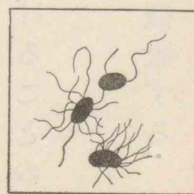
赤痢 下痢には腹痛を伴ひ、便には粘液と血液とを混じ、便通の回数は多いが便量は少ない。熱は甚しく高くはないが、其の割合に脈搏数は多い。其の病原體は赤痢菌であつて、病人の糞便中に無數に存し、接觸傳染によつて遂に人の口に入つて傳染するものである。

コレラ

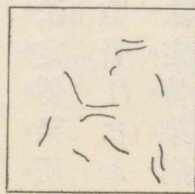
普通は激しい下痢に初まり、吐瀉^{セシクワイ}頻回、其の下痢は無痛性で、其の便は米泔汁狀を呈し、瀉すること甚しく、聲はかれ四肢は冷え、忽ちにして危険に陥る。接觸傳染で、口よりコレラ菌が進入する。

腸チブス

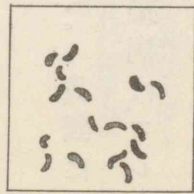
初めの症狀は一定しない、從つて診斷の確定には、數日の時日と血液検査などを要する。其の體溫の變化には特有の形式がある(次圖)。



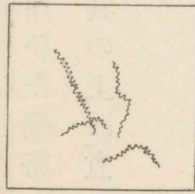
腸チブス菌



結核菌



コレラ菌

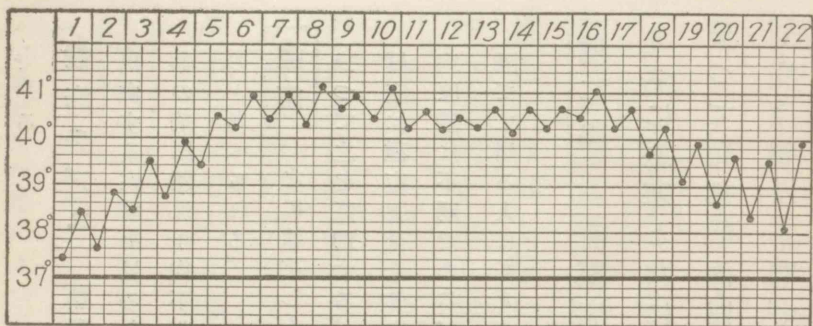


微毒菌

傳染経路

危険期

268



腸チブス患者の熱型

即ち第一週に於ては、階段狀に上昇して四十度以上に達し、凡二週間は此の高熱を持續し、第四週頃より階段狀に下降して恢復期に入る。

高熱のときには、精神朦朧として譫言^{ウヰイデ}を發することが多い。第三週間が、種々の合併症を起し易く、最も危険な時機である。

腸チブス菌は病人の大便には勿論、尿にも唾液にも含まれて居る。此の菌が口より入ることによつて傳染するのである。

パラチブス

症狀は腸チブスに酷似し、只腸チブスよりは幾分輕症である。傳染の経路も亦之と同様

269

發疹チブス

熱型其の他の症狀は腸チブスに似るが發病五六日頃より、全身に出血する斑點を見るを特徴とする。
其の病原體は今尙不明であるが、接觸傳染の外、しらみのみ南京蟲などが媒介するものと考へられる。

痘瘡

之には甚しく重症のものと、甚しく輕症のものとの二種があり、眞痘假痘と云つて之を區別する。

眞痘は種痘を全くせぬもの、又は種痘後十年以上を經過したもののみが罹る。
病原體は不明であるが、接觸傳染飛沫傳染(第275節)の外、空氣傳染もするらしく、數丁を隔てて居る人にもよく傳染する。

271

猩紅熱

前驅症として、一二回の嘔吐・惡心・頭痛又は咽喉痛があり、次に惡寒と共に體溫が急に上昇して四十度にも達し、第二日に至つて、頸部・顔面・四肢・軀幹の順序で、鮮紅色の斑點が現はれて來る。
病原體は不明であるが、恐らくは病人の分泌物・排泄物・皮膚の落

272

チフテリア

突然の發熱と共に、嚥下困難、咽喉痛などを訴へ、頭痛全身倦怠等の症狀があり、音聲はかれ、一種特別の咳嗽を發し、扁桃腺には剥し難い灰色の被膜を生じ、甚しければ喉頭がつまつて呼吸困難を來し、遂に窒息することになる。

療法は一刻も早く血清注射を受けることである。チフテリアの血清注射は、素人にも判り易い近世醫學の一大驚異である。
病原體はチフテリア菌であつて、稀には大人を侵すこともあるが、主として七才迄の小兒に傳染する。

273

ペスト

最も恐るべき傳染病の一つで、死亡率は七〇乃至八〇%にも昇る。
ペスト菌は病人の喀痰・血液・腺腫竝に糞尿などの中にあり、接觸傳染飛沫傳染によるの外、鼠又は蚤によつて媒せられる。皮膚の小さい創傷や口腔鼻腔などの粘膜を通

して體內に入り、又は直接肺内に吸入せられて侵入する。我國に於けるベストの流行が次表に示すが如く、甚だ少ないのは、全く官民協力、大決心をもつて病原菌の撲滅につとめる結果である。

ベスト	患者數		死者數
	一八〇	一〇	七九
大正十一年	一一八	一	七九
大正十二年	一〇	一	一
大正十三年	七〇	六	六

流行性腦脊髓膜炎

恐るべき傳染病の一で、特徴としては、痙攣を起し、頸部が棒の如くなつて曲らず、全身弓の如く後にそり返るなどの事がある。

病原體を流行性腦脊髓膜炎菌と云ひ、病人の咽喉鼻腔等にあつて、其の唾液鼻汁によつて排泄せられ、接觸傳染飛沫傳染等に依つて、鼻腔及び咽頭の粘膜より侵入する。

次に非法定傳染病の主なるものについて述べる。

肺結核

症狀に種々あつて、急に高熱を發するもの、急に咯血を起すもの等もあるが、多くは知らぬ間に此の病に罹り、不知不識、治療の期を失し、遂に回復し難き重症となるものである。初期に於

初期の症狀

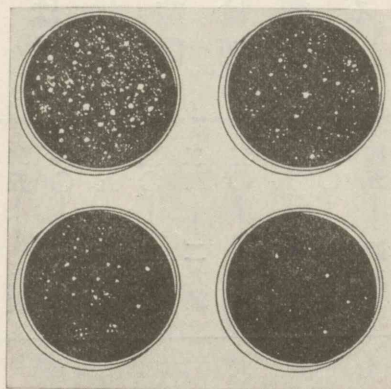
275

274

傳染の經路



飛沫傳染 (1) (2)



(3) (4)

驗實する關於飛沫傳染

- (1) ることの糞十六前の人るす、キセ」は
- 群菌細たし殖蕃に上基養培たい置に
- て於に離距の糞十九上同は (2)
- て於に離距の糞十五百上同は (3)
- チカンハに上の其で離距の糞十六は (4)
- のもたつ蔽をフー

ては、午后になつて平熱より二—三分高い發熱があり、稍、倦怠を覺えるか、肩が凝るか、盗汗を出す位の事で、普通は咳嗽もないから、人々もすれば之を放任する。

結核菌は病人の大便・尿中より排泄せられることもあるが、喀痰中には多量に含まれ、又唾液中にもある。

肺結核による
死亡者

其の傳染は、飛沫傳染の好適例で、咳嗽^{クゼン}嚏^{シヤミ}又は談話の際、小さい水沫と共に空氣中に飛び、數十粒又は數米の遠方に達する。故に主として病人の居る室内で傳染するが、間接には菌のついた食器食物衣類などによつても傳染する。

我國で肺結核の爲の死亡者は、年々八、九萬人であつて、殊に十五才より三十才迄の壯年者に多い（下表

肺結核死亡者年齢別（死亡者千人につき）	大正十二年		大正十三年	
	満四歳迄	五—九歳	一〇—一四歳	一五—一九歳
年齢未詳	二五・五	一五・一	五二・五	一八・九
七〇—以上	一〇・〇	一〇・〇	一〇・〇	一〇・〇
六〇—六九歳	三九・〇	三三・八	三七・七	三七・七
五〇—五九歳	三四・八	三七・七	三七・七	三七・七
四〇—四九歳	四六・五	四九・〇	四九・〇	四九・〇
三〇—三九歳	六三・九	六六・五	六六・五	六六・五
二〇—二九歳	一三・六	一三・八	一三・八	一三・八
一〇—一九歳	一八・九	一八・九	一八・九	一八・九
五—九歳	五二・五	五〇・八	五〇・八	五〇・八
満四歳迄	二五・五	一四・六	一四・六	一四・六

参照。

今時醫學の進歩の賜として、肺結核は初期に於て適當の醫療を加へれば必ず治癒するものと考へてよい事になつて來た。

トラホーム

眼瞼特に上眼瞼及び結膜面が充血し、所々に灰白色橢圓形の顆粒が出来る。病が進めば、睫毛が亂れ、角膜も侵されて、時に角膜潰瘍を起し、甚しきに至れば失明する。

病原體は今日尙不明であるが、兎に角接觸傳染をすることは確かであるから、病者の用ひた手拭洗面器衣類等は、特に危険視するを要する。

初期のうちに治療を加へねば、甚だ治し難いものとなる。

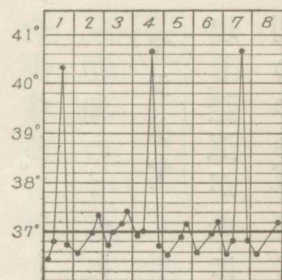
マラリヤ

午前十時より午後三時迄の間に、突然劇烈な戰慄を起し、體溫が急に上昇して四十度乃至四十一度に達し、二乃至五時間のもの、多量の汗と共に急速に下熱する。此の發作は、毎日往來

症狀

初期の醫療が
大切

特効藥

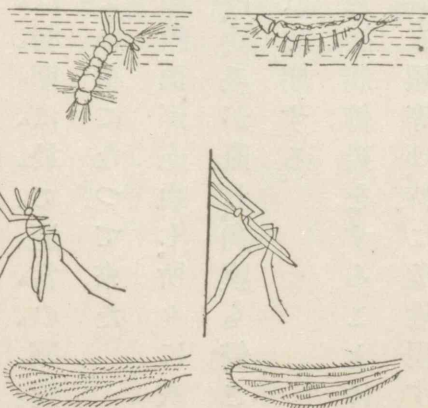


マラリア患者の一熱型

することもあるが、多くは一日おきて、二日おき、(上圖)稀には三日おきの事もある。
マラリア蚊と呼ばれる一種の蚊が、此の病人の血液を吸ひ、更に他の健康者を刺すによつて、病原體を傳染させるのである。

この病には、キニーネと稱する特効藥があつて、適當の分量を適當の時機に服用することに依つて、見事に病を撃退することが出来る。又近世醫學のもたらした賜である。

癩病 病狀は必ずしも一樣でないが、戦慄すべき傳染病である。
癩病菌が、接觸によつて、呼吸器若く



蚊の通普 (左) 蚊ヤリラマ (右)

傳染の經路

は皮膚の創傷より侵入するによつて感染するのである。肺結核と同じく、遺傳病ではなく、遺傳するのは、此の傳染病に罹り易い體質のみである。

第八章 傳染病の豫防

豫防法の種類

傳染病の豫防には、病人の隔離、交通の遮斷、媒介體の撲滅、侵入門の防護、豫防注射、病原體の撲滅、健康増進など、種々の方法がある。

病人の隔離・交通の遮斷

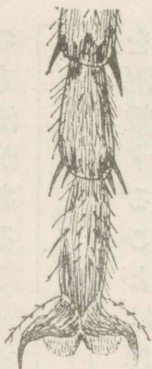
病人は病原菌の培養所であるから、之を隔離することは、傳染を避けるに最も有効な方法の一つである。もし特定の傳染病々院に隔離することが出来れば、最も安全である。

之と同時に或時期の間は、所謂交通遮斷を行つて、其の間に、隔離前に病人の使用した器物、衣類、病室等に十分の消毒法(次章)を行ひ、

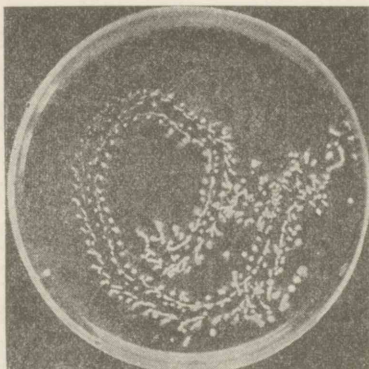
病によつては、家族に保菌者(次節)の有無を検査する。

媒介體の撲滅

媒介體と云ふ意味を廣く採れば、生物も無生物も考へられるのであるが、次には只生物の媒介體のみを考へて見る。



足 of 蠅



培養基に面した細菌の歩
だ爲に著殖した細菌の群

(一) 保菌者 コレラ、赤痢、腸チブス、パラチブス、デフテリアなどには病原菌を自體内にもちながら、發病せぬ人がある、又腸チブスの如きは、一度それに罹つて治癒した人が、永く其の菌を體内にもつ事がある、之等を保菌者と云ふ。保菌者は最も恐るべき傳染病の媒介體であるが、之は撲滅するわけに行かぬものであるから、或期間、一定の場

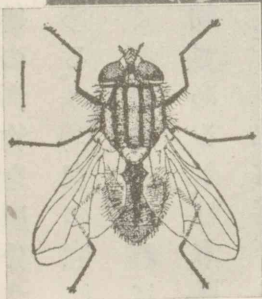
所に閉居させて治療を行ふのである。只保菌者の發見は手數多

く、當局者の最も苦しむところである。

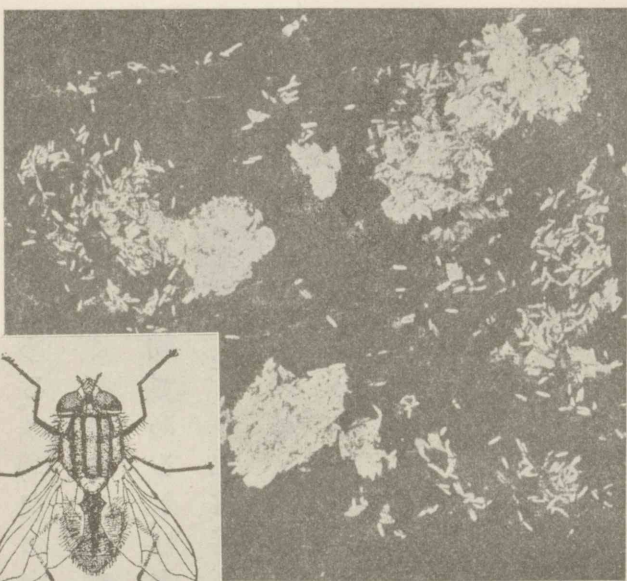
(二) 蠅 は最も恐るべき媒介體であつて、従つて最も憎むべき人類の敵である。蠅を平氣で眺め居るが如きは、其の人其の家の文化程度の低きを示すものである。

蠅の驅除法

(1) 蠅は厩牛舎、豚小屋、其の他汚



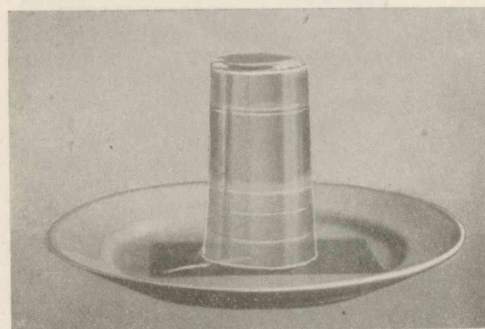
蠅と其の卵



蠅の驅除法

物の溜り居るところに産卵し、其の中で蛆となり、蛹となり、遂に

翅を備へて飛び來るものであるから、最も有効な驅除法は、卵・蛆・蛹の時代に、それ等の汚物を處分するか、又は藥品を用ひて之を撲滅することである。(2)家の窓に細かい金網をかけることは(西洋諸國には多く行はれる、同時に夜の蚊も蟲類も防ぐことが出来る)極めて有効であるが、日本風の家屋では行ひ難い。(3)其他食膳等の上に適當な蔽ひをかけること(4)蠅取器の使用(5)蠅取藥の使用等の方法がある。



置 裝 取 蠅 の ン リ マ ル オ フ

蠅取藥のうち、有効にして人間に害のないのは、次の如くして容易に作られる。
市賣のフォルマンに水を加へて三五倍の體積になし、之をコップにとり、其の上に吸取紙の如き紙をのせ、更に其上に平たい皿をかぶせ、液をこぼさぬ様にしてこれ等を顛倒して、皿を上向きコップを下向きの位置と

し、小楊子又はマツチ棒の如きものを挿んで、コップの下口に間隙をつくる。
この時、紙の上に少しの砂糖を振りかけ置けば一層よい。此の裝置は幾日でもコップ内の液の盡きるまでは、有効に使用し得られる。

(三)其他 鼠とのみとはペストの媒介體であり、のみしらみ、南京蟲は腸チブス、發疹チブスなどの媒介體となる。故に之等の傳染病の流行する際には、極力其の撲滅法を講ぜねばならぬ。

しらみを滅すには、石油とオリヴ油とを等體積にまぜた液を塗り込めばよい。

侵入門の防護

細菌が我等の身體に入るには、口より入るもの、皮膚の創傷部より入るもの、吸氣によつて入るもの等、常に一定した門戸に依るものである。

故に一旦家人に傳染病者が出來、之が看護に當らねばならぬやうな場合に立至つたときは、徒らに恐れおののくの愚と卑怯とに

陷ることなく、其の病原體の特定侵入門は何であるかを承知し、特別に嚴重な注意を其の門に拂つて、懸命に防護につとめねばならぬ。例へば病原體が口より入るべき病と知つたときは、常にマスクを施して、知らぬ間に手指などの口邊に觸れるのを防ぎ、マスクを去らねばならぬ場合に於ては、口に觸れる一切のものに就いて、一々危険の有無を考へて見るやうにする。

豫防注射

多くの傳染病は、一旦之に罹つて回復した後、或期間に再びその病に罹りにくい性質を與へるものである。此の性質を免疫性と云ふ。豫防注射は、人工的に免疫性を與へる方法であつて、其の最も的確な例は種痘に於て見る。

健康増進

病原菌の侵入があつても、健康狀態の完全な人は、自ら之を撲滅し得て、其の病を免れることが出来る例は甚だ多い。コレラ、赤痢、チブス等の菌が、健康者の胃に入つて撲滅せられる事

は、確かな實驗上の事實である。又永く不適當な食物を攝る人、殊にビタミン缺乏症にかゝり居る人が、流行病に犯され易いことも確實である。故に平素健康の増進に留意し、體力の旺盛を保つ事は、傳染病豫防の一方法である。

又體質によつては、保菌者で其の例を見る如く、或種の病原菌を自體內にて培養しつゝ、平氣なることを得るもある。其の反對に、或病原菌に對して極めて感染し易い體質もあるから、かゝる人は其の病に對して、特別嚴重な注意を拂はねばならぬ。

病原菌の撲滅は傳染病豫防法の中、最も大切な事柄であるから、章を改めて次に之を説かう。

第九章 消毒法及び消毒劑

消毒法の種々

病原菌の撲滅を一に消毒とも云ふ。之には(1)焼却法、(2)煮沸法、(3)蒸氣消毒、(4)日光消毒、(5)藥物消毒、(6)燻蒸法、(7)腐

286

敗菌利用の消毒法等がある。

焼却法

病原菌が附着したもの、又は附着の疑ひあるもの、一切を焼き盡す方法で、最も簡單で又完全な消毒法である。但し經濟上の關係もあるから、行はれ難い場合もある。ペストの場合には、大仕掛けに之を行ふが例である。

287

煮沸法

任意の器で品物を煮る方法であつて、一〇〇度の溫度に遇はすこと十分以上に及べば、病原菌ならば、完全に殺菌し得られるものであるから、金屬類、陶磁器、硝子器、衣類、布片、其の他何物でも、煮て差支ないものに應用し得られる簡單で有効な消毒法である。

煮鍋

煮沸時間

煮鍋は石油罐の如きものを用ふることもあるが、廢物となるわけでないから、普通の鍋釜の空き居るを用ひて毫も差支ない。

煮沸時間は、物によつては、熱が内部に進入する時間をも見込んで、

288

二十分乃至三十分間にするが安全である。

蒸氣消毒

一〇〇度又は夫れ以上の溫度の水蒸氣中に物を置いて蒸すことである。蒸し物の要領で行へばよい。蒸氣が器の上方から吹き出した後、十五分間を経れば充分である。

以上の三方法に限らず、百度以上の高熱に遇はせることは、何れも有効な消毒法である。例へばピンセット針などの先端は、暫時火中に入れて焼けば完全に消毒が出来る。

289

日光消毒

硝子越しなどにせず、直射の日光に曝すときは、消化器系の傳染病菌の如く、乾燥に對して弱いものは勿論、他の病原菌に對しても頗る有効である。

只此の方法の缺點は、物によつては日光の當らぬ部分が残ることとを免れ得ないから、決して安心が出来ないことである。

290

藥物消毒概説

消毒に使用せられる藥品に種類は多いが、家庭

消毒劑の種類

に廣く用ひられ得るものは、左の數種である。

(一) 固形消毒劑 石灰漂白粉

(二) 液狀消毒劑 石灰乳、昇汞、石炭酸クレゾール、漂白粉等

(三) 瓦斯狀消毒劑 フォルマリン、瓦斯

凡て如何に強力な消毒劑でも、其の効力を完全に發揮せんには、其の使用法が當を得なくてはならぬ。世には消毒の猿真似をしたのみで安心して居るものがある。危険が最も大きい。

次に箇々の消毒劑の用法に就いて、稍詳細に述べんとする。

石灰

之に生石灰と消石灰との二種がある、市場で普通に賣られて居るのは消石灰の方である。この二種とも永く空氣に曝し置かれたものは、變質して炭酸石灰に化して居るから、其の程度如何に依つては、甚しく消毒力に乏しいものがある。此の點は此の消毒劑の使用者にとつて厄介な點である。故に成るべく信用があつて取引の盛んな店より買ふがよい。

主として糞尿又は便所の消毒に用ひられる。使用法は排泄物と略同量を之に加へ

性質

用途

291

長所と短所

性質

用途

用法

293

292

石炭酸

よく混和し、少なくとも一時間を経るを要する。

石灰に體積上其の四倍程の水を加へて攪拌すれば、石灰乳が得られる。之も新しい消石灰に水を加へたてならば、頗る有効な消毒劑である。糞便と略同量を加へ、よく混和し、二時間を経過させて完全に目的を達する。

昇汞 昇汞は一名鹽化第二水銀と云ふ。之を千倍の水に溶した昇汞水は、効力大なる消毒液である。但し(1)金屬器具に觸れしめてはならぬこと、(2)蛋白質を多く含んだ排泄物(例へば喀痰、吐瀉物の如き)に遇へば、之と化合して其の効力を弱めること、(3)人間に非常に毒なこと等の理由で家庭用としては推薦出来ない。

純石炭酸は無色の針狀結晶であるが、消毒用のものは、其の結晶が微紅色を帶びて居る。水にはよく溶けぬ方であるが、少量の水(10%位)とはよく溶け合つて透明な液となる。強力な消毒藥であるが、昇汞の如く使用上に制限なく、金屬布類、排泄物、皮膚等の何れの消毒にも用ひ得られるから甚だよい。使用分量と所要時間とは凡左の如くである。

- (一) 大小便、喀痰等の排泄物には、五％溶液を排泄物と略同容積加へ、十分に混和し、一時間を経過させる。
- (二) 衣類、敷布、其の他の布類には、三％の溶液を十分に濡し得る程度に加へ、一時間を経過させる。
- (三) 床や机を拭ふには、三％溶液を用ひる。
- (四) 手先の消毒には、一％溶液を用ひ、手は二分間乃至五分間之に浸して置く。手が感覺を失ふことを避ける爲には、其の次にアルコールでよく拭ふ。

〔注意〕 石炭酸は吸濕性が強いから、栓が悪いときは、瓶中で液状になつて居る場合が屢ある。この場合に固體と液との兩方が存在するならば、其の液狀の部分は、其の十量のうち一量の水分を含んで居るから、其のつもりで用ひねばならぬ。

例へば五％石炭酸溶液をつくるには、結晶石炭酸ならば其の一〇瓦に對し水一九〇瓦を加へればよいが、上記の如き流動性の石炭酸ならば其の一一瓦をとり之に水一八九瓦を加へる。

〔注意二〕 五％石炭酸液のn瓦より、三％の石炭酸を作るには、 $\text{C}_6\text{H}_5\text{O}_2$ 瓦の水を之に加へればよい。其の他の稀め方も之に準ずる。

クレゾール

油狀の液體で、石炭酸に似て一層効力が強く、其の二％溶液が石炭酸の五％溶液と大體等しい効力をもつ。水にはとけ難いから湯でとかすがよい。石炭酸を使ふ要領に準じて使用する。

クレゾールを一種のカリ石鹼に溶して液狀のクレゾール石鹼とした市賣品がある。リゾールと呼ばれる。水にとけ易く、使用上の便がある。

リゾールの稀め方及び一般の使用法は、石炭酸と同じでよい。

漂白粉

一名をクロールカルキとも云ひ、廉價平凡の藥品ではあるが、木綿物の漂白に用ひられる外、消毒劑としても、種々の方面に用ひられるので、家庭に無くてならぬ藥品中の第一である。

飲料水の消毒

飲料水の消毒 飲料水其の他臺所用水の消毒には、先づ水一〇〇漂白粉三の割合の混和物を、塊のないやうにつくり、暫時放置して其の上澄みを有色瓶（暗赤色のビール瓶の如き）にとつて、密栓して保存し……之をカルキ原液と名づけたい……使用に際して、飲料水の一萬に對してカルキ原液一の割合に混和し、混入後二三十分時を経て使用するのである。

井戸水の消毒

井戸に直接にカルキ原液を注ぐ場合には、井戸水が徐々に交代しつゝある事實に鑑み、稍其の量を増して、井戸の水量井戸の太さと深さより算出したるの六千分の一位を注いで、やはり數十分時を経て使用する。この場合、藥の有効期間は、五時—十二時間である。

カルキ原液は古くなれば効力を減するから、疑しい時は、混入後凡三十分の後、井水の一部を試験管又は白い茶碗にとり、これに沃度加里澱粉液の一—二滴を加へて見る、かくて青色を呈すれば、効力に不足なしと承知してよい。

野菜類の消毒

野菜の消毒 には上記の原液を數百倍の水中に加へ、その水に、成るべく簡単な形にした野菜菜ならば一枚一枚にとり離すが如くを浸し、二十分時を経過させるのである。

病人の排泄物の消毒

病人の喀痰、糞便等を消毒するには、上記の原液をそれ等と同容積に加へ、よく混和して一時間を経過させる。

床、戸障子等の消毒

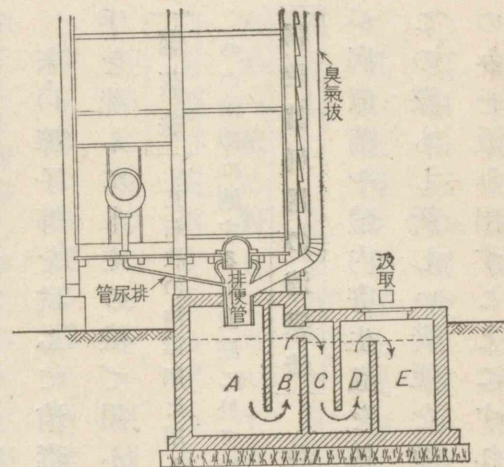
床、戸障子等を拭ふて消毒するには、カルキ原液其の儘を用ふる。手を洗ふにもその儘で用ふる。

燻蒸法

瓦斯狀の消毒劑を用ふる方法で、病室の如き廣く、大きく、形狀も複雑なもの消毒に適するが、家庭に於ては稍實行困難のうらみがある。

腐敗菌利用の消毒法

我國では、糞便を肥料に用ふるが爲に、之が病原菌や體內寄生蟲を傳播させる原因をなす場合が甚だ多い。この際もし新しい糞便を汲み取ることなく、數十日間を経たもののみを汲み出すことにすれば、其の間に腐敗菌の作用によつて、そ



所便良改の案考省務内
(めたぐ防を病染傳るす介媒が便糞)

れ等の危険物は悉くに死滅するのである。
この主義を實行せんとした内務省考案の改良便所がある。
上圖はその断面圖である。
もし廣く之が行はれたならば、我國の傳染病は激減する見込みだと云ふことである。

第十章 頻死者の看護と死亡後の處置

頻死者の看護

病者の死に迫つた徴候は病によつて一樣でないが、普通には、呼吸は淺く、速く、鼻翼は動いて呼吸困難の狀を示し、喘鳴を伴ふこともあり、往々シャインストック氏呼吸現象に陷る。

〔註〕 シャインストック氏呼吸現象とは、殆んど無呼吸の狀態を數秒時續けた後に、

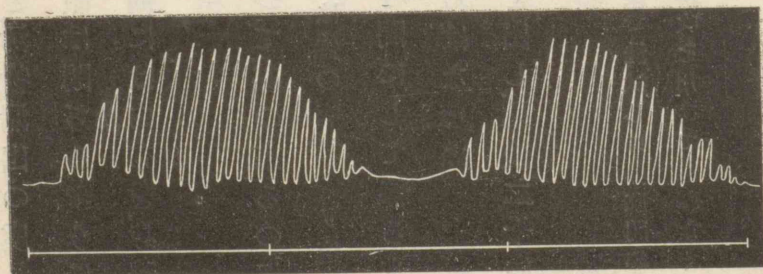
深く大きな呼吸が數秒時續き、之が交互に繰り返される狀態を云ふ。

又脈搏は微弱でありながら速く、次では著しく緩徐となり、顔色は所謂死人の如く、四肢は冷え、唇は紫色を帶び、瞳孔は散大する。かゝる際は、速に醫師及び近親者に通知し、最善の努力を盡して、少しでも病苦の軽減につとめ、最期かも知れぬこの看護に、終生の悔が無い様にせねばならぬ。

死亡後の處置

病人の命愈絶えたとき見たら、清い白布を以て顔面を蔽ひ、速に醫師の檢診を受ける。

眞死亡と確定しては、清水又は消毒藥で、



圖に示したシャインストック氏呼吸

顔面其の他身體の各部を清め、鼻・口・肛門など、汚物漏出の虞れある所には綿をつめ、清潔で薄い衣服に改め、眼瞼は閉ぢるやうに軽く抑へつけ、口は開かぬやう布で軽く縛り、顔面には白布を、身體には手薄い掛物を蔽ふ。

死後の強直は、病氣の種類と氣候とによつて其の來るのに遲速があるが〔例へば夏は冬よりも速く、急性熱性病は他の病氣より速く之を見る〕、大體死後數時間にして始まり、更に數時間にして終るものであるから、其の積りて死體の處置を豫定せねばならぬ。

役所には醫師の診斷書を添へて、死亡届を出し、死後二十四時間を經過して葬儀を行ふ。

傳染病者の場合には醫師の指圖によつて、全身を消毒藥で洗拭し、口・鼻・肛門等には消毒藥に浸した綿花を填充し、死體の被服・寢具などには、霧吹を用ひてもれなく消毒藥を散布するなどの方法をとらねばならぬ。

強直

死亡届

傳染病者のとき

第六篇 育 兒

第一章 妊娠の經過・衛生

母體に見る變化

妊娠は肉體的に又精神的に大なる變化を母體に起すものである。肉體上の變化の最も普通なものは、

(一) 月經の閉止 稀れには初めの一二ヶ月間、尙不規則の出血を見ることがあるが、其の色はうすく、持續期が短い。

(二) 惡阻 第二ヶ月目頃より、食物の嗜好に著しい變化を來し、食後には嘔氣を催し、甚しければ全く食をとり得ぬこともある。通例三四ヶ月にて治るものであるが、時には長期に亘ることもあり、又特に猛烈なこともある。かかる場合には、速に醫療を受けねばならぬ。

(三) 胎動と胎兒心音 妊娠五ヶ月以後に至れば、胎兒の運動を感じ、聽

肉體上の變化

精神上の變化

想像妊娠

301

診器を用ふれば、胎兒の心臓の鼓動を聞くことが出来る。
 (四) 其の他 腹部の膨大は勿論、頭痛、腰痛、齒痛、便秘若くは下痢などを起し易く、月の進むにつれて乳暈を生じ、乳房に軽い疼痛を感じ、乳腺は次第に發達して乳房の大きさを増す。
 精神上の變化としては、氣分變り易く、左程ならぬことに神經を痛め、やゝもすれば沈鬱に陥るなどの事がある。

想像妊娠又は妄想妊娠と稱して、非常に子供を欲しがる婦人などが、病的に妊娠と全く同様な現象を呈することがある。但しこの場合には、前記の(三)のみは決して認められない。

胎兒の發育

胎兒は臍帶によつて母體と連絡し、之より榮養分をとつて發育する。其の經過は凡次の如くである。

妊娠一ヶ月では單なる卵形をなし、大いさは鳩の卵に等しい。
 滿三ヶ月に於ては、明かに頭、胴、四肢の區別が見られ、滿五ヶ月に至

302

妊娠中の食物

れば、四肢の運動が母體に感じ、或は外部より見える程になり、滿七ヶ月に至れば、母體を離れても辛うじて成育し得るまでに發育し、最後の月經第一日より數へて二百八十日目に至つて生れ出づるを普通とする。この時には、身長は四十八乃至四十九糎、體重は凡三疋(第305節)に達して居る。

〔注意〕 妊娠期を月で數へるときには、二百八十日の十分の一なる廿八日を以て一ヶ月と定める。即ち普通の一ヶ月とは二日乃至三日の差がある。

妊娠中の衛生

妊娠中の母體は、病氣に對する抵抗力が弱く、その爲に病に犯され易く、又既に持つて居る病氣を益々重くし易いから、特別の注意を要する。即ち

(一) 食物は消化し易く、榮養素の質及量に於ても非難なき食物をとり、特にカルシウム^{△△}の攝取に留意することが大切である。

西洋には、「一兒一齒」と云ふ言葉がある。これは胎兒の骨の發育の爲に必要なカル

ルシウムが、母の齒質中より供給せられて、母の齒が著しく弱くなるを示したものである。

又カラシ・ワサビの如き刺戟性のもの、濃い茶・コーヒ・酒類等の興奮性のものは避けるがよい。

(二) 衣服は寛かにして保温性に富んだものを用ひ、腹脚部の冷却は特に嫌ふものであるから、股引・猿股に類した下着を用ふるがよい。

腹帯

胎動を感じる頃よりは腹帯(五月帶とも云ふ)を用ふる。これは胎児の位置を正當に保つこと、腹部を冷さぬためとを兼ねたものであるから、幅廣き綿布又はフランネルを用ひて、適度に腹部を巻くがよい。決して緊縛してはならぬ。

(三) 運動は適度にすれば却つて分娩を容易にするものであるから、假令起居を億劫に感ずることがあつても、日常行ひ居た仕事は行ふやうにし、安逸に耽つてはならぬ。

但し(1)一般に過勞を避け、又(2)高き石段の昇降、惡しき路の車馬旅行など、腹部に激動を與へる動作、(3)重い物を持つこと、(4)高所に手を揚げることなどは慎むを要する。已むを得ぬ旅行は、醫師に謀つて慎重に行ふがよい。

豊かな日光を浴び、新鮮な空氣を吞吐して緩歩する如きことは、産期が迫つても大いに推奨すべきものである。

(四) 便秘は如何なる場合にもよろしくないが、特に妊婦に於ては之を避けねばならぬ。その爲には、食物は野菜・果實の如き便通をよくするものを取り、水を多く飲み、朝は一定時に必ず廁に上るやうにし、且つ適當の運動を行ふ。

便秘の手當

便秘が數日に及んだときは、グリセリン又は石鹼液の灌腸を行ふがよい、下劑を用ふるは禁物である。下痢の際には、放任せずして直ちに醫療を乞ふがよい。

(五)其の他 睡眠時間を十分にし、身體各部を清潔に保ち、強度の喜怒哀樂をひき起すべき機會に遠ざかるやうにとめる。

第二章 出産 出産後の衛生

出産の準備

妊婦が胎動を感じるに至れば、其の頃より時々産婆を招き、胎兒の位置其の他に就いて診察を受け、其の指圖に従ふがよい。事情によつては産科醫の診察を乞ひ、萬一に備へねばならぬ。

産期が近づけば、産婆ともはかつて、生兒の衣類、出産時の器具、材料等を整へる。時に早産もあるから妊娠第七ヶ月の終り頃迄に、手落ちなくこれ等を整へることは望ましい。

凡そ出産に關して用ふる器具、材料は、何れも清潔に且つ十分に消毒せるものでなくてはならぬ。但し決して新しいものに限ることはなく、古着の類は一旦之を煮て使用すれば、少しも不安はない。

出産用品の準備

出産用品の消毒

303

産室

産床

産婆への通知期

陣痛の特色

304

い。

産室は出來得べくば閑靜で、相當の廣さをもち、燈火にも便利で、且つ最も衛生的なるを要する。

産床は陳痛(次節)が始まつてから設けても遅くはないが、其の位置は産婆が種々の介助をなすに便なるやうに選み、敷蒲團の上には、油紙の如き防水性のものを敷き、其の上に敷布をのべ、産婦の腰部には更に褥蒲團しとねを敷く。

陳痛が規則正しく往來する頃になつては、産婆に通知し、同時に多量の湯を準備する。

蠟燭や懐中電燈の用意も、萬一の停電其の場合を考へれば望ましい。

分娩の経過

出産の際には、先づ軽い間歇性の陳痛を感じる。陳痛は子宮筋肉の收縮作用に伴ふ痛みであつて、一度の持續時間

後産

305

は半分乃至二分間である。但し其の後、時の移るに従ひ、陳痛は益々繁く、且つ強くなつて、分娩の際に最高調に達する。通例初産婦は最初の陳痛より分娩までに十三時間乃至十五時間を要し、經産婦は時に二三時間にして生れることがあるが、普通は五六時間乃至十時間を要する。故に産婦は其の積りて徐ろに萬般の身仕度をなし、安らかに産床に臥して、冷靜に、忍耐強く、自然の経過を待たねばならぬ。

後産は胎兒の分娩後、程なく再び始まる陳痛によつて、十五乃至二十分後に完全に排出されるが普通である。若し二時間以上を経ても後産がない時には、直ちに醫師を迎へねばならぬ。

健康なる新生兒

健康な新生兒は、生れると同時に勢よく泣くものである。之は今迄收縮して居つた肺臓内に、始めて空氣が吸ひ込まれた證據で、こゝに人生の第一歩が踏み出されたわけ、其の

蒙古人種斑

306

泣き聲の強大なる程、無病息災を意味するものである。此の時生兒は全身ばらの如き紅色を帶び、脂肪の薄層に依つて包まれ、臍帶に依つて母體に連つて居る。暫時にして臍帶が斷たれ、産湯に清められた後は、兩臂を曲げ、兩足を縮めて、スヤ／＼と數時間乃至十數時間を眠りつゞける。

體重は男兒は凡三〇〇〇瓦、女兒は凡二八〇〇瓦である。

新生兒の背から臀部にかけて見る薄青い斑紋は、日本人其の他の蒙古人種に特有な斑紋で、蒙古人種斑と呼ばれ健康とは何等の關係ないものである。

産後の衛生

産後の衛生は極めて大切であつて、一たび誤れば種々の病を起し、或は終生不治の病に捕はれ、或は一命を失ふこともある。されば全く常體に復する迄の六七週間、殊に初めの三週間は、周到綿密なる注意を拂ふを要する。其の要點は次の如くである。

(一)安眠 分娩後は室を薄暗くし、四邊を静かにして、直ちに成るべく長時間熟睡の出来るやうにする。其の後も出来る丈け安眠の出来るやうにはかる。

(二)體溫の検査 産婦は毎日數回體溫の検査を行ひ、體溫三十八度以上に昇ることがあれば、速に産婆又は醫師に謀らねばならぬ。

(三)安静 分娩直後の一兩日は、授乳時に側臥するときの外、仰臥のまま、つとめて身體を安静に保つがよい。二三日目より左右交互に側臥してもよく、第二週に入れば、食事授乳使用などの時には、床上に坐してもよい。無事に二週間を経れば、少しづつ床を離れ、三週間を経過すれば、初めて簡単な室内の用事をしてよい。但し日常の仕事をとることは、産後六七週間後にせねばならぬ。

(四)食物 最初の一兩日は牛乳・重湯などの流動食をとり、次第に粥・魚肉等を交へ、二週間を経て異常がなければ、徐ろに消化よき常食

に復する。

(三)便通 産後三四日はこれなきが普通であるが、それ以上便通がないときは、灌腸を行ふがよい。排尿についても、異常ありと見れば、直ちに産婆又は醫師に謀るがよい。

(六)清潔 は産婦の順當な快復に、最も必要のことであるから、産婆又は醫師の指圖に従ひ、リゾール其の他、相當の消毒薬を使用しつゝ、十分手落ちなく行ひ、嚴に病原菌の侵入を防がねばならぬ。

入浴は無事三週間を経過し、惡露全く無くなりての後にするがよい。

産褥熱

出産の際、手指器械・繃帶材料等の不完全な消毒に原因して、病原菌が創傷部より體內に侵入することに依つて起る。病状は出産後二三日頃に、突然惡寒・戰慄を起し、體溫は三十八九度又はそれ以上となり、脈搏は弱くして數多く、頭痛・不眠・食慾不振

原因
症狀

産婦の入浴

307

等を伴ふ。同時に惡露も異常を呈し、惡臭を放ち、膿様の分泌物を交へる。

一刻も早く醫療を加へねば、恐るべき結果に陥る危險が甚だ大きい。

第三章 新生兒と其の扱ひ方

新生兒期・大切な二週間

臍帶によつて母體より榮養物を取り、適温の羊水中に浮游して居つた胎兒が、一度母體を離るれば、俄に外氣を呼吸し始め、間もなく自ら食物を求め、排泄作用を營むなど、生活狀態が全然一變する。しかも諸機關は未だ十分に發育せず、其の抵抗力も亦甚だ弱い。されば新生兒期、即ち臍帶が落ち、其の傷痕が治する迄の約二週間は、其の兒の一生にとつて、最も危險な時期であつて、特に周到なる保護を必要とする。次なる表は、力強くこの事實を語つて居る。

308

309

大人小兒をこめた日本人 の全死亡率(千人に付)	滿一年以下の乳兒の 死亡率(千人に付)	滿一ヶ月以下の乳兒が最 初の一ヶ月間に死亡する 割合が滿一ヶ年續くもの とすれば(千人に付)	滿五日以下の乳兒が最初 の五日間に死亡する割合 が滿一ヶ年續くものとす れば(千人に付)
大正十二年 一二三人弱	一六三人	七九四人	一八〇九人
大正十三年 二一人弱	一五六人	七五八人	一七二〇人

新生兒の寢せ方

生れて數時間内は側臥をさせ、時々左右をとりかへるがよい。これ新生兒は、出産の當時、時として羊水や血液を飲込んで居て、之を吐出すことがあるのに、仰臥では、それが爲に窒息を起すことがあるからである。

新生兒の授乳

第一日目の新生兒は、殆んど眠り續けて居るから、何物も飲ませなくてもよい。若し飢餓を訴へるらしく見えたときには、出そうにも見えぬ母の乳房を與へるがよい。

出産後三四日間の母乳は、其の量は少ないが、其の質は普通のと異つて、黄色を帶び、濃厚で、新生兒の榮養に事缺くことなく、且つ新

初乳

310

初乳を與へる
利益

生兒に必要な特別の成分をもつて居る。四五日の頃から新生兒も次第に多量の乳を要するやうになるが、其の頃から母乳の分泌もよくなるものである。

初乳を新生兒に與へることは、乳を吸ふ刺戟が、母體の子宮收縮を促進する利益を伴ふが故に、誠に一舉兩得である。

授乳上の注意

授乳に際しては、(1)よく乳嘴を拭き清め、(2)一回の授乳時間は十分乃至二十分で、(3)授乳時間の間隔は二時間おき位、(4)夜は幾分遠くなつて、一日の回数七八回が適當である。

臍帶

臍帶は産婆の手によつて、出産後數分間で其の搏動の止んだ時に消毒した絲で緊縛して後切斷せられるのであるが、この部より恐るべき病原菌〔丹毒、破傷風などの〕が入り來ることもあるから、其の扱ひに注意を要する。されば臍帶の殘存部には、(1)常に亞鉛華滑石など、適當の消毒剤を用ひ、(2)其の上をガーゼ又は脫脂

脫落後の注意

綿にて被ひ、(3)更に繃帶を施し、自然に脫落するまでは〔五日乃至十日〕無理に引き離すことのない様、あらゆる場合に注意を拂はねばならぬ。

脫落後も暫くは消毒剤を用ひ、繃帶を施しておく。若し此の部に異常を發見したならば、直ちに醫療を乞はねばならぬ。

入浴

入浴は新生兒の保健上非常に有効であるから、當分は毎日入浴させるがよい。

(一)湯の溫度 入浴について注意すべきことは、夏は三十八度、冬は三十九度位を適當とする、高くとも四十度を越えないがよい。寒暖計がなければ腕を湯の中に入れて、僅かに暖かさを感じずる位にする〔寒冷な手先を用ひて之を試みると、往々にして溫度を誤認する〕。冬は湯の冷ゆることが速いから、終の頃に、熱い差し湯をする用意が欲しい。

(二)入浴時間 は五分乃至十分間とし。

(三)洗ひ方 耳に湯が入らぬ様に注意しつゝ、頸部・關節部・股間等、爛れ易き部分を特によく洗ひ、既に爛れを生じ居るときは、石鹼を用ふることを避ける。

(四)目と顔と口 目と顔とを洗ふ湯は、別器に備へた清潔のものでなくてはならぬ。口内は清潔な湯をガーゼにつけて軽く拭ふはよいが、上あごには觸れぬやうにする。其の部は特に皮が剥げ易いからである。



313

胎便・おむつ

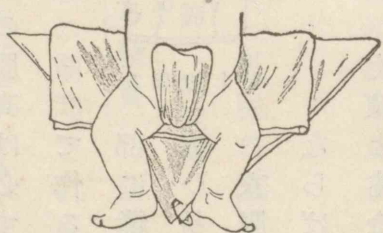
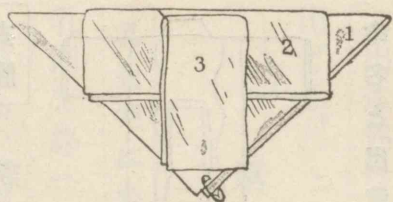
新生兒が最初の二三日間に排泄する黒色又は暗

胎便

おむつに望む

条件

おむつを保つ方法



方て當の其び及つむお

緑色の糞を胎便と云ふ。胎内にあるときに溜つた特別の便である。胎便は洗ひ落し難いから、おむつにつかぬやう、前以て脱脂綿

の如きを股間に挟み、其の上におむつを施すがよい。

おむつは(1)柔くて吸水性に富む布がよい。故に毛織物は不可である。又(2)洗ひ易く乾かし易きを望むから、幾枚かの布を厚く縫ひ重ねる等のこと

をしてはならぬ(上圖参照)。(3)手数を省く爲には、一日一回纏めて洗濯すれば足る程の数を必要とする。

おむつを其の位置に保つには、最外側に用ふる布の適當なところ、安全ピン又は紐を付けおけば便利である。

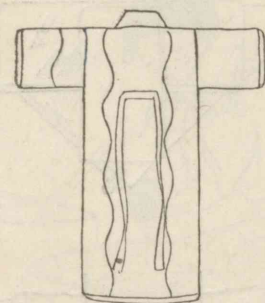
おむつを用ふる主義

ゴム製のオムツカバー

314

おむつは、濡れ、ば直ちに取換へるべきものである。之を衣服汚損の防禦物の如く心得てはならぬ。ゴム製の「オムツカバー」は濕氣の發散を妨げるが故に、頗る有害である。

衣服



乳児の上衣

新生児の肌衣は、必ず柔い質の綿布を用ひ、縫目を表にし、て作るがよい。上衣の紐は其の後の中央部に縫ひつけて、前にて結ぶやうにすれば扱ひ易い。

衣服の厚さは、大人よりも幾分か厚く、冬ならば程よく湯タンポを用ふるがよい。

命名と出産届

命名上の注意

315

名は一生用ふべきものであるから、意味も音調もよいものを選び、聞いて其の文字が判り、讀んで男女が判るやうなものを採るがよ

い。突飛なる名前、珍奇なる文字は、其の人の一生に互る損失となる。

出産届は規定に従ひ、生後十四日以内に、所轄市區町村長に届け出でる。

第四章 乳児の養護

第一節 乳児期

乳児期に於ける發育

新生児期につぐ約一ケ年、即ち小兒の離

乳期を終へる迄の期間を乳児期と云ふ。

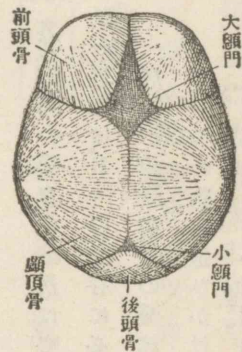
乳児期の意味

316

乳児期内の發育状況

其の間の發育の状況は、必ずしも一樣でないが、凡次の如くである。
(一) 乳児は、日々の生存に必要な感覺、即ち味覺、痛覺、空腹の感覺などは、早くも所有して居るが、視覺、聽覺の發達は稍、おくれて、六乃至八週間で物が見え始まり、三ヶ月を経て一つの物を追ひかけて見るやうになる。

(二) 後頭部にある小顱門は、凡六週間で閉鎖するが、前頭部の大顱門は其の閉鎖に一ケ年乃至一ケ年半を要する。



骨蓋頭の兒乳

- (三) 二、三ヶ月にして笑ひ始め、意味なき音聲を發し、又筋肉運動を始める。
- (四) 第四ヶ月に入れば自ら頭を支へる。
- (五) 五乃至七ヶ月を経れば、玩具に向つて手を差しのべ、又自ら寝返ることが出来る。
- (六) 其の頃に下の前齒が二枚出る。
- (七) 六乃至八ヶ月では、自ら坐し又は、ひ始める。
- (八) 九、十ヶ月にして人見知りを始め
- (九) 十ヶ月にして立たんと、の試みを始め、十一、十二月にして物につかまつて立ち上り、其の後一ヶ月位にして歩み始める。
- (一〇) 滿一ヶ年を経れば、簡單なる言語を發する。
- 右の標準と甚しく相違ある場合には、注意を要する。時には専門家の診斷を乞ふ必要もあるであらふ。

第二節 母乳哺育

母乳哺育の大切

人生最初の一ヶ年に於ける死亡率は、其の後の何れの期間の死亡率よりも高い。又此の期間に於ける健康と

發育の良否は、其の人の一生の健康體格に至大の關係がある。乳兒の食物としては、母乳に勝る何物もないのみか、之に等しいものすらないのである。母乳は(1)人間に無くてはならぬ各種の營養素を、最も適當な割合に、最も消化され易い状態で含んで居るのみでなく、(2)有害のものは少しも含まず、其の上に、(3)乳兒を傳染病に罹らせぬ働きをする種々の抗毒素を含んで居り、(4)温度は理想的に、(5)新鮮此の上もなく、(6)清淨又此の上もない。

牛乳、馬乳、山羊乳等は、人乳のない時に往々代用せられるものであるが、これが爲に哺育の仕事は幾倍か六ヶ敷なり、殊に生後の二三ヶ月間は、人乳以外のものので健全な發育を遂げさせようとするは、非常な難事であることを覺悟せねばならぬ。

授乳の回数 一日中に於ける授乳の回数は、乳兒の發育に伴ふて、次第に變化するがよい。泣けばいつでも乳房を與ふるが如き

は、衛生上教育上共によろしくない。

大體の標準は次の如くである。(太田博士著「育児の實際」による)

乳児の年齢

授乳時間の隔り

一日の回数

生後第三週目より満一ヶ月	三時間	六—七回
満二ヶ月以内	三時間半	六回
満三ヶ月以上	四時間	五回

授乳回数厳守

授乳時間の隔りは、乳児の安眠其の他の都合で多少の變動があつてもよいが、一度定めた授乳回数は厳守することゝし、且つ午後十時以後の授乳は、生後一二ヶ月内に必ず全廢する。

良習慣の大切

時を定めて哺乳する習慣をつけることは、非常に大切な事で、子供[△]の健康[△]、母親[△]の勞力[△]は此[△]の習慣[△]づけに成功[△]するか否[△]かに係[△]るこ[△]とが甚[△]だ大[△]である。子供は習慣を持つて生れ來らぬ、習慣の良否は全く母親の責任である。

〔参考〕米國では、晝間は哺乳時間が來たら、眠り居りても之を醒して與へるやうにし、初めに多少の困難があつても辛抱して之を實行すれば、普通第二ヶ月目に入れば此の習慣がつくとせられ多くの家庭で之を實行して居る。

一回の授乳時間

一回の授乳に費すべき時間は、乳児によつて異なるが、普通には乳児の飽きて自ら乳房を放つを以て度とする。

十分乃至十五分多くとも二十分である。二十分以上永く乳房を含み、引離せば泣き出す如き事があれば、乳量の不足を疑つて見るがよい。

授乳中、母も子も眠り込むやうな事があつて、永く乳房を口にして居ることは、(1)乳児には窒息の危険があり、(2)母親には、厄介なる乳嘴のたゞれ、若くは裂傷を招く基となる。

溢乳と吐乳

乳児が多量に乳を飲んだ後には、身體の動搖の爲に、容易に其の乳を吐くことがある。之を溢乳と云ふ。一時の飲過ぎから來るのが普通である。

溢乳

乳量不足の疑ひ

吐乳

處置法

321

不快な顔貌に伴つて、つぶくの乳を吐き、且其れが哺乳の直後でないときは、消化不良の意味であるから、前の場合よりは遙かに重く見るべき事件である、之を吐乳といふ。

これ等の場合には、一回の授乳時間を短くするか、授乳の時間を遠く離すか、又は哺乳前に小匙數杯の微溫湯を飲ますかなどして、當分哺乳量を減ずるがよい。

乳の量 乳量の豊富な事は、母子幸福の本である。而も母の乳量は種々の事情に影響されて變化する。

(一)睡眠不足と過勞 母が過勞に陥り、若くは睡眠不足なときは、必ず乳量の減少を來すものであるから、よく此の點に注意し、成るべくは夜間八時間の就眠と晝間一時間の休息とをとるがよい。之が爲には、夜間の哺乳、即ち午後六時と午前六時との間の哺乳は只一回にて足るやう、成るべく早く習慣を養ふがよい。

(二)飲ませ方 乳房を完全に飲み盡すことは、母の乳量を増す爲のよい刺激であり、之に反するとき、次第に乳量を減ずるものである。故に甲の乳房が完全に飲み盡されし後に、始めて乙の乳房を與へ、次回の哺乳には、乙の乳房から先に與へるやうにする。

或事情により、一方の乳房のみでも尙飲み残りがあるときには、其の乳を人工的に残りなく搾り取るを必要とする。然らば次第に乳量は減じて行く。

(三)精神上の平和適當なる運動 この兩者は乳量の増減と至大の關係があるから、乳兒をもつ母親の特に注意を要する點である。

(四)食物 母の飢渴の場合は勿論乳量を少なくするが、或食物が藥劑的に特に乳量を増減することはない。この目的の爲に、今日まで發賣せられて居る藥劑の種類は多いが、其の効果の有無は専門家の疑問とするところである。

時期の影響

322

乳の質

初乳の期間が過ぎて、所謂永久乳となつてからは、月日が進んでも乳質には殆んど變化がない。但し毎回の哺乳に際し、始めに出る乳は終りに出る乳に比べて、かなり著しく脂肪量が少ない。普通母乳の脂肪量何%と云ふは、その全體をまぜたものについて云ふのである。

食物の影響

母の食物の良否が乳質に及ぼす影響は驚くべき程少なく、殆んど之を見ることが出来ない。故に母親が脂肪を少しも口にせずとも、乳汁は常に平均約四%の脂肪を含んで居る。只一事看過してならぬのは、ビタミンの量であつて、母の食物に之が缺乏する時は、間もなく乳汁中にも之が缺乏して来る。

病氣の影響

母の病氣も、それが乳房に關しないものである限り、乳質には危険な變化はないものである。母が傳染病にかゝつた時にも、乳汁其の物によつて傳染することは決してない。母の服藥も其の乳

月經、妊娠の影響

323

り哺乳に差支ない。

乳量不足の處置

に何等の惡影響を及ぼすことがない。以前は母が脚氣の際には絶體に其の乳を飲ませぬをよしとしたものであるが、現在の醫學は、母の食物の改善等によりて、離乳せずして之を癒すことをよしとして居る。

但し母が鉛を含んだ白粉を用ふるときは、いつとなしに乳兒の口に入りて、恐るべき鉛中毒を起すことがある。

母の月經は勿論哺乳に差支なく、其の妊娠も、月が餘り進まぬ限り哺乳に差支ない。

乳の分泌が悪くて乳量に不足するときは、乳兒はいつまでも乳房を離さず、時には中途にぢれて再び之に取りつく様の事があり、平素も氣むづかしく、永びけば營養不良の徴候が現はれて来る。

最も安全な方法

この場合に最も安全な方法は、他人の乳を以て其の不足を補ふ

已むを得ぬ場合

324

ことである。乳母及び里子の理由はこゝにある。この際必ずしも出産後、同じ月數を経た人を選ぶを要しない。出産當時の初乳以外は、出産後の月數によつて乳質の變化は殆んど無いからである。

已むを得ずば併用哺育(第331節)を行ひ、萬已むを得ずば人工哺育を行ふ。

第三節 人工哺育

牛乳第一

人工哺育に於て、母乳の代りに用ふる乳兒の食料は、牛乳を以て主とすべきである。穀物より製した種々の食料は、炭水化物に偏し、或は蛋白質に乏しく、或は鹽類・ビタミンに缺け、其の上消化も思はしからぬものであるから、只牛乳の補足として用ふるに足るものと心得ねばならぬ。「日本人は米でなくてはならぬ」「粉なるが故に消化よし」など云ふは、誠に愚の至りである。

山羊の乳

325

砂糖の量

砂糖を加へた牛乳のうすめ方

山羊の乳は山羊が牛とちがひ、結核病に犯されること極めて稀なりとの理由で、寧ろ牛乳に勝るとせられて居るが、一般には得難い憾みがある。

調合乳

牛乳は人乳と異り、割合に蛋白質に富んで乳糖に乏しいから、乳兒の發育の程度に應じて、適當に水と砂糖とを加へる必要がある。砂糖の量は牛乳一八〇瓦(一合)について、約六瓦を適度とし、週を重ねると共に其の量を増してもよいが、最大量も一〇瓦を越えてはならぬ。

砂糖の量は初めは一々秤りを用ひ、慣れてからは目分量にしてもよい。

砂糖を加へた牛乳の稀め方は、新生兒及乳兒の發育に伴つて變化せねばならぬが、大體の標準は次の如くである(瀬川昌世博士による)。

調合乳の作り方

調合乳を作るに用ふる容量計は次圖(二四二頁

一日中の授乳の回数	牛乳と水との割合		一回の量	一日の全量	砂糖量(一回)
	牛乳	水			
生後一日	二	二	五(瓦)	一〇(瓦)	極く少量
二日	五―七	二	一〇	五〇―七〇	同
三日	七―九	二	二〇	一四〇―一八〇	同
四日	七―九	二	三〇	二二〇―二七〇	同
五日	七―九	二	四〇	二八〇―三六〇	同
六日	七―八	二	五〇	三五〇―四〇〇	二・〇(瓦)
七日	七―八	二	五五	三八五―四四〇	二・五
二週	七	二	六〇―八〇	四二〇―五六〇	二・〇―四・〇
一ヶ月	六	二	一〇〇―一二〇	六〇〇―七二〇	五・〇―六・〇
二―三ヶ月	六	一	一二〇―一五〇	七二〇―八〇〇	六・〇―七・五
四―六ヶ月	五	一	一六〇―一八〇	八〇〇―九〇〇	八・〇―九・〇
七ヶ月以上	五	一	一八〇―二〇〇	九〇〇―一〇〇〇	九・〇―一〇・〇

調合乳の作り方

手数を省く爲
の一案

の如きものが便利である。調合乳を作るには、上記の表に基いて、先づ砂糖を加へ、(2)表に従つて牛乳をうすめ、(3)加熱消毒(次節)を行ひ、(4)適温に冷して用ふるのである。適温とは母親の體温に等しい三十七度内外であるが、普通はやゝもすれば、熱すぎるものを與へる傾向がある。

手数を省く爲には次なるも一案である。それは一日分を一度に調合し、一日の授乳回数に等しい数の哺乳罐に、一回分宛入れて栓を施し、其のまゝ一纏めに加熱消毒して保存し、使用の時には、其の一つづゝをとり出して、適度に温めて用ふるのである。

調合乳の消毒

調合乳を消毒するに、之を必要以上の高温で必要以上の長時間煮ることは、ビタミンの或ものを減少し、若くは無くする缺點がある。空氣に曝しつゝこれを煮るときに殊に甚しい。

哺乳罐の良否

328

乳首の良否



牛乳を其の容器と共に、攝氏六〇度乃至六五度に三〇分間熱することは「低溫殺菌」最も望ましいが、普通の家庭では行ひ難い憾みがある。罐に入れたまゝ、沸騰せる湯又は蒸氣中に入れて熱することは、鐵瓶又は飯蒸しの如きを利用し得るから、行ひ易い。此の際の加熱時間は五乃至六分間で丁度よい。

哺乳罐と其の扱い

哺乳罐は罐

刷毛の届かぬ部分のない様な形のものがよい(上圖)。

ゴム製の乳首は裏返して掃除の出来るものがよい。上圖に示した

掃除用除毛刷
易し除毛
哺乳罐
同計量
器消毒乳牛用庭家

ゴム製乳首の孔の大きい

罐の扱い

粉乳

329

粉乳・煉乳

粉乳又は煉乳を使用する。

粉乳は牛乳を其の儘蒸發させて作つたもので、其の良品は各種のビタミンを可なり保有して居るので、適當に使用すれば、牛乳と殆んど同等の効果がある。其の容器に附記せる使用法によつて、先づ牛乳に等しい濃さのものをつくるに、如何にすべきかを承知

如く、加熱消毒に用ひた罐口に直接用ひ得るものであれば、殊に便利である。

ゴム製乳首の孔の大きさは、大切な注意事項の一つで、大に過ぎれば、飲み過ぎを招き、小にすぎれば、徒にぢれて、遂には榮養不良になることもある。

罐は、あいたら直ちにぎつと洗ひおき、まとめて一度に煮沸消毒を行ふがよい。

煉乳

330

し、然る上、前記の方法に従つて、砂糖と水とを適當に加へ、且つ加熱消毒して之を用ふる。

煉乳は、防腐の目的をかねて、之に多量の砂糖が加へてあるから、之を稀めたのみでは、完全には生乳の代用とはならない。故に永く之のみに依頼することはよろしくない。

離乳前の添加物

乳兒が滿一ケ年にも達すれば、離乳期に入るが、それまでの間、全然牛乳のみで哺育することは寧ろ却つて危険で、乳兒の發育につれて種々の食料を添加するがよい。其の添加食料の主なもの、

(一) 果汁及び野菜汁 リンゴ・蜜柑・其の他の果實・トマト・青菜・人参・大根等の野菜の生の汁は、ビタミンB及びCの絶好の供給材料であるから、生後三ヶ月頃より始めて、最初は其の一茶匙量を、之と同量の水でうすめ、一日一回食前に與へ、若くは牛乳に混ぜて飲ませる。



習實の兒育の生學大子女國米
つつひ合り語さか言の誰はさしずま好を草ンレウホは兒乳

其の分量は次第に増して六ヶ月にして其の三倍、一年にして五倍乃至八倍に達せしめる。

(二) 重湯穀粉等 これ等の主成分は、消化し易い炭水化物である。生後四五ヶ月より重湯を混用し〔牛乳をうすめる水の代りに〕七八ヶ月頃よりは、白米粉〔しん粉〕メリケン粉等の穀粉を、牛乳の一―三％に當る分量に用ふる。

又八九ヶ月頃よりは、ビスケットの類を少しづつ與へてもよい。

第四節 併用哺育

併用哺育の要點

母乳哺育と人工哺育とをまぜ行ふことを併用哺育と云ふ。母乳の不足するときに用ひられる哺育法である。併用哺育を行ふに、一日中の或回数に人工哺育のみで行ふこともあるが、之は不利である。母乳は少量を與へても小兒の消化不良を免れるに役立つものであるから、成るべくは毎回之を混用す

るがよい。其の時は母乳を先に與へて、先づその有る限りを飲み盡させるのが合理的である。

第五節 離乳

離乳の大切

離乳は乳兒の發育史上に於ける重大事件である。その實行方法の適否は、幼兒の健康發育に大關係があるのみか、ややもすれば生死の問題となる。

乳兒が七八ヶ月に達し、齒を生ずる頃になれば、自然に乳以外の食物を欲するやうになるから、其の頃より慎重に離乳の準備にとりかゝるがよい。人乳・牛乳の別なく、餘りに永く乳のみで養つて居るときには、先づ鐵分の不足を來し、發育不良に陥るものである。離乳の方法 離乳實行の要領は、何事も急激に行ふことなく、乳以外の食物を始めて與へた後には、何種るときにも一二日間様子を見て、異狀なきことを確めての上、次第に其の一回量や回數を増

實行の要領

333

332

離乳期の食物

334

すやうにする。かくして數ヶ月かかつて、この一大事業の完成を期するがよい。

離乳期に、乳兒に與ふべき食物は、第一に消化がよく、第二に營養素が完備して居らねばならぬ。即ち(1)重湯、葛湯、おまじり、粥、おぢや、消化しやすい菓子、軟い小麥粉製品等によつて含水炭素を與へ、(2)脂肪の少ない魚肉、鶏卵等によつて動物性蛋白質を供給し、(3)柔い葉菜類又は其の裏濾したもの、一般野菜の煮汁、果實の汁、又は其のおろしたもののなどによつて、灰分及びビタミンの供給をはかるがよい。

離乳と牛乳

牛乳は完全食に近いものであるから、離乳後尙一ケ年位は、他の食物と並べて豊かに之を用ひることにすれば、離乳の難關は大いに樂に經過し得られる。

第六節 哺育以外の注意すべき諸事項

335

便通

人乳哺育兒の便は、(1)柔くて、(2)一日に一回乃至四回、(3)色は通例黄橙色である。

人工哺育兒の便は、(1)比較的硬く、(2)一日の回数も少なく、(3)色は牛乳のみのときに淡黄色、重湯等の植物食を混用するときには稍褐色を帯びる。

母親は常に乳兒の便通に留意し、異常ありと見ば直ちに適當の手段を盡し〔第347、348節〕、大事を未發に防がねばならぬ。

睡眠

乳兒が一日中眠りに費すべき時間は、生後二三ヶ月までは十八—二十時間なるがよい。即ち三四時間おきの授乳時間の前後を除き、他は概ね眠り居る位でよい。長ずるに従つて、晝の間の睡眠時間は次第に減じて、夜は成るべく永く一眠りするやうな習慣を養ふがよい。即ち六ヶ月位では、夜間十時間を一眠りにし、晝は午前午後二時間宛眠る位なるがよい。

乳兒の睡眠時間

336

安眠を妨げる原因

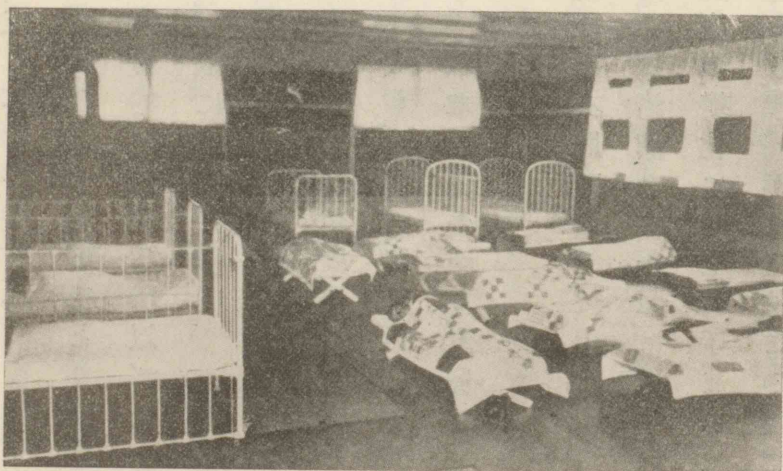
337

日光と空氣

乳兒の夜の安眠を妨げる原因に種々ある。周囲のやかましい事、暖かに過ぎること、寒冷に過ぎること、股間が濡れること、食べすぎ、空腹、腹部や胸部が強く縛られて居ること、寝衣に皺又は塊があること、蠅蚊のみなどの居ること等の外、晝間殊に午後の時間に於て、母姉其の他が、投げ上げるやら、くぐるやらして、餘りに強く神經を刺激したことも其の原因となるものである。

豊かな日光と新

鮮な空氣とは、乳兒にとつては人以上に必要なものである。故に屋内に於ては、成るべく明るく開潤な場所に起臥させ、稍長じては、抱く



北米スロアゼン市小學校に於ける幼兒の午睡

338

か乳母車様のものに載せるかして、成るべく多く戸外の空氣を吸ひ、直射の日光に浴するやうにせねばならぬ。大事をとりすぎて、室内にのみ幽閉しておくのは、決して目的を達する所以でない。

清潔

不潔は乳兒の大敵である。故に

- (一) 乳房は口にふくませる前に、清き湯か水で拭ひ清め、
- (二) 股間は常に乾燥状態に保たねばならぬ。世には目もはゆき美服を乳兒に纏ひ、股間は如何に汚れても、おむつが厚いから大丈夫などすまして居る母親がある。本末顛倒の至り、乳兒こそよい迷惑である。

- (三) 其の他一般に、乳兒に觸れる母親の手、衣服、玩具等には、特別の注意を拂つて、潔癖と云はれる程に、その清潔を保たねばならぬ。

衣服

乳兒の衣服は、(1)外界の温度の變化に應じて手まめに加減し、(2)やゝもすれば厚着になり過ぎる傾向がある故、この點に注

339

啼泣の三種

340

意し、(3)胸腹部を緊く縛ることを避け、(4)四肢の運動を妨げぬものなるをよしとする。

乳兒の啼泣

乳兒の啼泣には、(1)或要求を爲すもの、(2)苦痛をうつたへるもの、(3)殆んど單なる生理的作用と見做すべきものの三種がある。この三種を巧みに見分けることは、育兒の成功上かなり大切である。

- (一) の種類のものは、要求が満されれば直ちに泣きやむが常である。
- (二) の種類に屬するものは、容易に泣きやまぬことの外、平素と異なる徴候を伴ふが常であるから、細心の觀察によつて速に之を觀破し、更に其の苦痛の何處にあるかを追究せねばならぬ。かゝる際に、おむつの間に針を發見した例も絶無ではない。
- (三) の種類によるものは、入浴や衣服取替等のときに其の例を見る如く、さしたる苦痛もないのであるから、一種の運動方法と見て、時

贅澤我儘な啼泣

悪習慣の打破

には放任した方がよいこともある。

乳兒の要求には、例へば一瞬時でも横臥させれば泣き出すが如き、贅澤・我儘なものがあつて、之がつのれば全然母親を奴隸にせねばやまぬ程にもなるものであるから「日本の家庭に殊に此の例多し」、最初より注意して、此の悪習慣の形成を避けねばならぬ。

一度作られた悪習慣は之を破ることは頗る難い。但し決して不可能ではない。即ち其の兒が、要求に疲れて眠りに入る迄放置すること數回に及べば、大抵は成功するものである。「歐米の家庭にはこの實行を見ることが多い」。

緻密な觀察の必要

乳兒は物言はぬ動物であるから、災害を未然に防いで、常に順當な發育を遂げさせる爲には、母親の周到綿密な觀察を必要とする。

それには次に列舉する如き、健康兒の特色と見るべき諸點を承

健康兒の特色

知しておくがよい。

- (1) 強盛なる食欲
- (2) 溢乳・吐乳のないこと
- (3) 大便の回数・色・硬さが適度なこと、
- (4) 泣くことの少ないこと、
- (5) 満足氣な顔貌、
- (6) 輝きある眼、
- (7) 美しい血色、
- (8) ひきしまつた筋肉、
- (9) 長時間の安眠、
- (10) 體重の順當な増加などがそれである。

健康監視の一良法

以上の諸點の中、或ものは母親には却つてよく分らぬことがある。慾目もあり、他と並べて比較する機會の少ないのにもよる。されば定時に體重を檢査して、其の變化の狀態をしらべ、且つ之を同年月の一般兒童のそれと比較することは、素人の行ふ健康監視の一良法である。

次なるは三島博士の調査になる生後十二ヶ月間に互る日本兒童の發育表である。

年 齡	男			女		
	體 重 キログラム	身 長 センチメートル	胸 圍 センチメートル	體 重 キログラム	身 長 センチメートル	胸 圍 センチメートル
初生兒	3.04	49.1	32.4	2.87	48.7	32.3
一 週	3.04	50.6	33.5	2.86	50.2	33.3
二 週	3.30	52.2	34.4	3.20	51.7	33.6
三 週	3.65	54.4	35.2	3.50	53.5	35.0
一 月	4.07	56.5	36.3	3.80	55.5	36.0
二 月	4.82	59.0	38.6	4.60	58.3	38.4
三 月	5.47	60.7	39.6	5.31	59.6	38.6
四 月	6.05	61.8	41.3	5.77	60.8	40.2
五 月	6.59	63.0	41.9	6.18	62.6	41.1
六 月	7.07	64.3	42.5	6.50	63.9	41.6
七 月	7.50	65.7	43.0	7.06	65.3	42.0
八 月	7.88	67.2	43.5	7.30	67.0	42.3
九 月	8.21	68.8	44.0	7.77	68.4	42.9
十 月	8.49	70.4	44.3	8.06	69.8	43.3
十一月	8.74	72.2	44.9	8.35	71.7	43.8
十二月	9.00	73.5	45.7	8.50	72.9	44.4

第五章 幼兒の養護

幼兒期 離乳してから五六歳迄の間を幼兒期と云ふ。

この期間には身體の諸機關が急速な發達を遂げ、動作は自由活潑となり、智力も之に劣らずに日々に立つ程に進歩する。併し危険なしに此の期を経過するには、周圍の人々から綿密周到な保護・養育を要することは、殆んど乳兒期と異らない。

幼兒の食物 此の期の終りには、殆んど大人と同一の食物を攝

つてよい程になるが、之は離乳當時の半流動性の食物から、順次にこゝに達すべきもので、決して急激な變化があつてはならない。

食へるには、落付いて良く噛み碎いてから、嚥下するやうに教へて、其の習慣をつけるがよい。

間食は、品質と量と時間とに注意すれば、決して害はなく、食事の際の暴食を防ぐ手段にもなる。但し食慾不振に陥り易い幼兒に

夕食の注意

は、成るべく之を避けるがよい。
食事時間は各家庭の便宜に任せてよいが、夕食は子供丈けでも早くして、食事後就床迄に多少の時間があるやうにするが賢い。又夕食には、殊に暴食を避けさせる。疫痢は夕食に不消化物を飽食し、其の夜に寝冷えした爲に起るのが多い。

蛋白質と鹽類とビタミン

各種の必要な營養素を供給する必要があるは言ふ迄もないが、蛋白質の量は大人に比しては割合上多く、鹽類やビタミンの缺乏には、大人よりも敏感であるから、その供給には特に注意を要する。

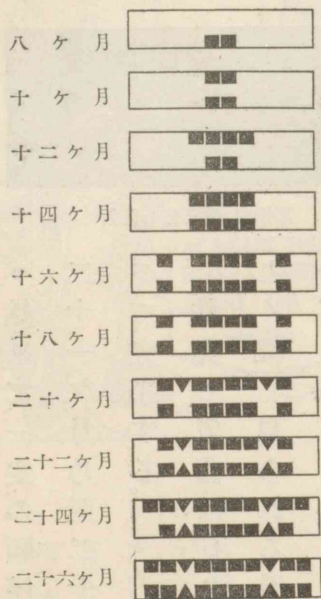
幼兒の衣服

幼兒の衣服の要件

故に冬期は其の下着の構造に工夫を加へて、成るべく厚着せずに防寒の目的を達するに努めるがよい。蒲團の如く厚い綿入れの重ね着で丸くなりながら、股間は風の吹き通すに任せるが如き、或は又歩み廻る幼兒に、お引ずりの長い衣裳を着せておく

幼兒の寢衣

乳齒の發生



乳齒發生の時期と順序

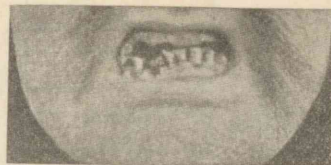
が如き、共に母親の無學又は無思慮を表證するものである。第二に、丈夫にして、惜し氣なく洗濯の出来る質のものなるを要する。即ち下衣には綿布、最上衣にも洗濯の出来る一重の綿布を用ひ、度々之を洗濯して常に清潔を保つがよい。幼兒に質弱き美服を着せ、それを汚さぬ爲に幾分でも其の活動を制限する如きは、誠に愚の至りである。

幼兒は寢相の悪いものであるから、夜は腹部及び下肢を冷さぬやう、其の寢衣には特別の工夫を要する。

乳齒の保護

乳齒發生の時期は、必ずしも一定して居らぬ。通例は生後七八ヶ月頃、下の門齒より生

乳齒の大切



齒乳たし任放

乳齒の保護



齒乳たい届のれ入手

生の損失を招く例は珍しくない。

へ始めて、一定の順序により、左右對になつて發生し、二十一ヶ月乃至二十六ヶ月にして、上下各十枚になつて完了する。

幼兒の乳齒は、何れは抜け代るべきものとして、甚しく軽く見られる風習があるが、齒が損ずれば咀嚼を害し易いことは、幼兒と大人とで相違はない。

されば乳齒が出始めた頃から、母親は脱脂綿か柔い布かを指頭にまいて、齒の前後面の掃除を行ひ、且つ成るべく早く齒刷毛と齒磨との使用法を教へて、就床前に之を行ふ習慣をつけ、齲齒の始まるを發見したら、速に治療を加へるがよい。

之を怠つて、次に來る永久齒の齒列びを悪くし、一

別 圖

兒童健康の八法則（米國政府宣傳）

（一）

日毎に
齒を清め
なさい。



（二）

日毎に
少なくともコップ
四杯の水を召し
上れ。



（三）

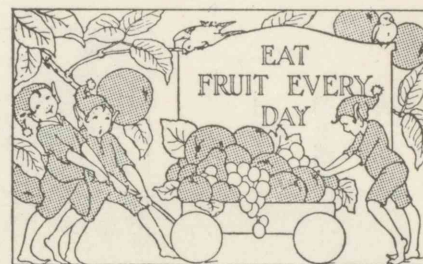
日毎に
コップ四杯の乳
を召し上れ、
茶やコーヒーを
用ひずに。



（四）

日毎に
何かの野菜を召
し上れ、
馬鈴薯の外に。





(五)
日毎に
果物を召し上れ。



(六)
日毎に
幾時間かは戸外
で遊びなさい。



(七)
たび／＼入浴な
さい、週に一度
より多く。



(八)
夜は十分に眠り
なさい、窓は開
いたまゝで。

便秘の處置

347

便秘

第六章 小兒の罹り易い病と其の手當

小兒は毎日少なくとも一回は大便の通じがあるを要する。廿四時間も之を見ないときは、先づ灌腸を行つて通じをつけ、他方では、次の如くして食物の加減をする。

(一)母乳哺育の場合 母の食物を調節して（菜の類と果物とが特に有効である）母の通じをよくするに心懸け、三ヶ月以上の小兒ならば、注意しつゝ果汁を與へ、又一旦煮て冷した水を豊かに飲ませる。
(二)人工哺育の場合 砂糖にかへて乳糖又は水飴を用ひ、又安全な水と果汁とを與へること前例の如くする。

毎日定時に厠に上すことは便秘を豫防する上に有効である。

下痢

軽い下痢は(1)人乳哺育の場合には、授乳を規則正しくし、授乳時間の間隔を増すことで大概は癒える。(2)人工哺育の場合には、先づ牛乳を稀くし、又授乳時間を遠く離して見る。それでも

軽い下痢

348

激しい下痢

効果がなければ速に醫療を求めるがよい。
水便を通じ、回数も多いなど、下痢が激しいときには、直ちに醫師を迎へねばならぬ。其の間は煮て冷したる水の外、何物をも與へない。

乳兒脚氣

乳を與へる母が脚氣であるときに起る。普通の症狀は、吐乳、下痢聲のかれ、脚部の腫等であるから、成るべく早く見付け出すことが大切である。

治療法は必ずしも直ちに母乳の全廢を必要としない(第322節)。先づ母の食物にビタミンBの供給を豊かにし、徐ろに経過を見て、不安と見たら醫療を受ける。

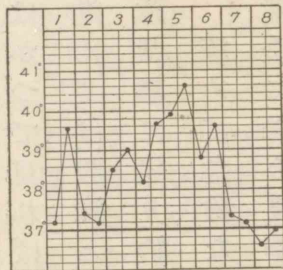
百日咳

初めに軽い熱と咳嗽とがあり、次で吸氣の際に、笛の如き音を發する一種の咳嗽發作を見る。幼兒にとつて甚だ苦痛の多い傳染病である。

病狀

350

351



麻疹患者の熱型

豫防には豫防注射を行ひ、或は非流行地に轉居させる。
治療法としては新鮮な空氣中に起居させることが第一で、暖かな日の郊外散歩、海邊への轉地などは頗る有効である。

麻疹

初めは感冒の如き症狀であるが、三四日位で赤色の發疹が見え、體溫は昇つて四十度にも達する。其の高熱は一旦下降し、前後凡一週間位つづいて後、漸く減退の狀を示す。

傳染力は甚だ盛んで、豫防の術がない。但し一度此の病にかゝれば長期に互る免疫性を受け、二度と犯される心配はない。

病兒は安靜に保ち、冬ならば室内に水蒸氣を立て、下熱後尙數日間は離床せしめずして暖く保つを要する。麻疹それ自身には大なる危険はないが餘病を伴ふ危険が大であるから、慎重に醫療を

病狀	豫防法	疫痢らしい場合の處置
352		
加へねばならぬ。		
疫痢	多く二歳より七歳迄の小兒を侵す最も恐るべき傳染病であつて、症狀は、今まで元氣であつた幼兒が、急にぐつたりして、あぐびをしたり横に寝たり、うとくしたりするやうになり、體溫をはかつて見れば三十九度以上もあり、時にさむけの様子もある。進んでは、腹痛と下痢(粘液の多い)と嘔吐があり、次で痙攣を起し、昏睡狀態に陥り、始めより十二時間以内に斃れる。	極めて、危険な病であるから平素より飲食物に注意して胃腸を健全に保ち、夏季は夕食の不消化物又は飽食を避け、且つ寝冷えを避けるやうに注意する(第344節)。
	手當は眞に一刻の遲速を爭ふものであるから、疑はしい病狀と見たら、(1)醫師には疫痢の疑ひある旨を明かに告げて其の來診を乞ひ、(2)應急手當として、直ちにグリセリン灌腸を行ひ、(3)豊	

病狀	原因	處置	症狀
353			
痙攣	突然に顔色が蒼白となり、間もなく人事不省に陥り、全身の筋肉は堅く縮みて手足を震はせ、眼球は上方につれて白眼となるなどの症狀を痙攣と云ふ。多くは三歳未満の幼兒に於て、疫痢・赤痢の初期又は他の重病の經過中に起るものである。	此の際幼兒を揺り動かしたり、大聲にて呼ぶなどは全然不可である。(1)帶をゆるめて靜かに仰臥させ(2)直ちにグリセリン灌腸を行ひ(3)頭部と心臓部とを冷し(4)手足が冷やかであれば湯タンポで溫め(5)速に醫師を迎へる。	かにヒマシ油を飲ませ(第221節)(4)頭部を冷し、腹部を暖めて安靜に保ちつゝ、(5)醫師の來診を速かならしめる爲に、最上最善の努力をつくすがよい。
鰐口瘡	頰の内面、舌面、唇などに白い斑點を現はし、進んで口内一面に白い粘膜炎を生ずる病である。乳房・哺乳器・牛乳を始め、嬰兒		

處置

の口に入るゝものゝ不潔より起るものである。成るべく早く發見して、二%の重曹水で、哺乳の前後に口内を洗ふがよい。但し其の際、決して其の乳色の粘膜を破らないやう、細心の注意を要する。

鼻の感冒

鼻カタルとも云ふ。咳嗽なく、鼻の粘膜が腫れて鼻汁を出す病である。大人にとりては大した病氣ではないが、乳兒にとりては (1) 哺乳量を減じ (2) 喉頭カタル・氣管支カタルなどの誘因ともなるから、重要視せねばならぬ。適度に暖く安臥させ、鼻孔内に時々二三滴の液狀ワセリンを滴下する。

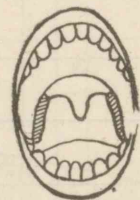
感冒は傳染性の病であるから、母が之に罹つたときは、幼兒に傳染の虞れは極めて大である。故に授乳の際には、母の口、鼻等は布にて蔽ひ、母の衣裳と乳兒の衣裳と直接に相觸れぬやう特に豫防

355

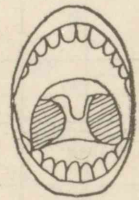
衣を纏ひ、乳房・哺乳器・飲食物など、總べて乳兒の口に入るものを扱ふ手は、徹底的に清潔にするを要する。
母が他の傳染性の病に犯されたときも、右の注意を實行すれば哺乳は安全である。

アデノイド・扁桃腺肥大

鼻カタルでなくして、呼吸の際に呼吸



扁桃腺の通普



扁桃腺肥大

困難の狀を示し、安眠が六ヶ敷く、鼾聲を發し、口を開いて眠る等のことのあるときは、アデノイド、又は扁桃腺肥大の疑がある。専門醫の診察を受けて適當な處置をとるがよい。放置すれば營養不良・智能の發育不全・種々の病氣に犯され易いなど、重大な故障の原因となることがある。

營養不良

食物の宜しきを得ない爲に、健康が十分でない狀態を營養不良と云ふ。營養學の知識の普及が未だ十分でない今日であるから、大人にも多く之を見るが、特別に乳兒・幼兒及び少年に

357

356

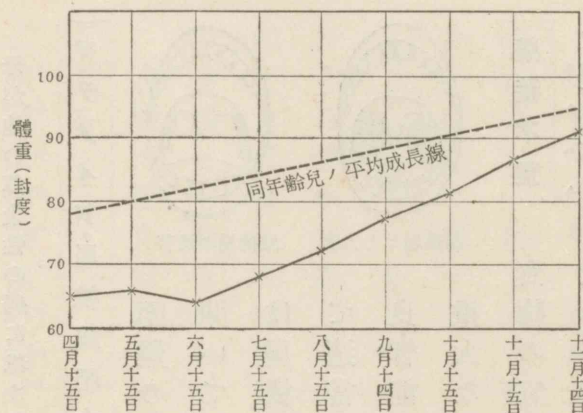
多い。その重いのは、體重は減じ、成長はにぶり、病氣には罹り易く、

精神力も體力と共に弱くなる。

榮養不良の爲に成長のにぶつて居つた小兒又は少年が、其の成長期間中に於て、改善せられた食物を攝り得る境遇におかれたときは、異常に迅速な成長をして、普通人の大いさに追いつかんとする傾向を示すものである(上圖參照)。但し若し成長期間を過ぎれば終生とり返す機會なくして終る。

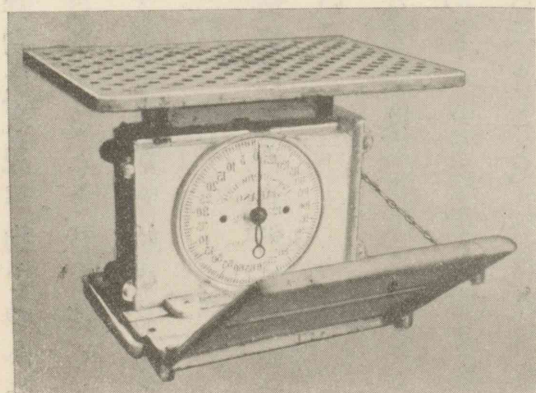
次なるは三島博士の調査に成る日

本の幼兒及學童の發育表であつて、自家の幼兒の發育狀態を比べ見るに役立つ。



米國の一少女が食物の變化によつて見た成長線の變化

年 齡	男			女		
	體 重 (kg)	身 長 (cm)	胸 圍 (cm)	體 重 (kg)	身 長 (cm)	胸 圍 (cm)
二 年	10.80	79.5	46.8	9.90	78.9	46.2
三 年	12.40	85.4	48.1	11.50	84.9	47.2
四 年	13.70	91.7	49.5	12.90	91.0	48.6
五 年	15.20	97.4	50.5	14.50	96.5	49.8
六 年	16.50	102.8	52.7	16.00	102.4	51.9
七 年	17.80	108.3	54.1	17.20	107.3	53.0
八 年	19.10	113.8	55.5	18.70	112.0	54.0
九 年	21.00	118.3	57.2	20.50	116.2	56.1
十 年	23.00	122.8	59.2	22.30	120.4	58.0
十一年	25.20	127.0	61.4	24.40	125.9	60.2
十二年	27.20	130.8	63.1	27.80	132.3	62.5
十三年	29.80	135.2	64.9	31.40	139.0	65.0
十四年	33.60	141.5	66.9	36.50	143.2	67.7
十五年	38.70	146.3	69.1	38.20	144.7	71.9



計 重 體 重 便 利 測 分 自
(るれま讀らか上てつつうに鏡は盛目)

第七章 幼兒の教育

玩具

玩具は即ち教具

358

教育は學校とか幼稚園とかに於て初めて、始まるものではない。教育の最も初步な諸感覺の練習は、乳兒が物をつかむとき、引き裂くとき、投げるとき、叩くとき、色を見るとき、音を聴くとき等、すべて外界の諸物に出遇つて、感覺するときから始まるものである。

されば玩具の如きは、幼兒に於ける恰好の教育資料であつて、決して泣止め道具、まぎらせ道具ではない。

玩具の要件

玩具を善用する上に注意すべき主なる點は、

- (一) 怪我の危険なく、衛生上にも安全であるべきこと、
- (二) 心身發達の程度に適したものであるべきこと、
- (三) 一つの玩具に興味のある間は、みだりに他の玩具を與へぬこと、
- (四) 滑稽なるもの、驚かせるもの、殘忍なるものなど、教育上に如何は

しい影響あるものを避けること、
等である。

お話

お話の教育的
價值

359

簡單にして判りよいお話を聞かせることは、幼兒に深い興味を與へると同時に、想像力を強めるやら、同情・憐憫の情を養ふやら、其の智徳を啓發する上に、極めて有効な手段である。之を善用する上に注意すべき點は、

注意の要件

- (一) 智情の發達の程度に相當なものを選び、
- (二) 興味の盡きぬ間は、幾度でも同じ話を同じ様に話しきかせ、
- (三) 悲哀、恐怖等の情を起さしめるもの、又は野卑、殘酷になれしめる嫌ひのあるもの等を避けるなどである。

遊戲

遊戲の與へる
利益

360

玩具やお話に於ける如く、遊戲にも善きと惡しきとがある。善い遊戲の中にも、(1)特に體育上に利益あるもの、(2)特に智育上に利益あるもの、(3)特に德育上に利益あるもの等の種別がある。

幼兒に望ましい遊戯



(一其) 幼き念餘に戲遊

たい。

同年輩の友との遊戯

同年輩の友と遊戯することは、私の外に、我と對等の人のあることを悟らせて、我儘や、唯我獨尊を防ぐに大効がある。其の友にして美點に富むも



(二其)



(三其)

幼兒に於ては、身體の健全なる發育に第一の重みをおくべきものであるから、長く靜坐し、又は頭を過勞するやうな遊戯に耽ることは避けて、成るべくは豊かな日光を浴びつゝ、新鮮な空氣を吞吐しつゝ、活潑な運動の出来るものにし

躰の目標

躰を有効に行ふため



子之母或

のであつたならば、益するところは更に多くなる。
躰 幼時に得た躰の如何は、其の人の一生につき纏つて、その人の幸、不幸にも大關係をもつものである。
 躰の目標となすべき徳目は

- (一) 長上に從順なこと、
- (二) 表裏の行なく、虚言を用ひず、天真であること、
- (三) 禮儀あること、
- (四) 自制心あること、

- (五) 規律あること、
 - (六) 自治的なること、
- 等である。

而して躰を有効に行ふために注意すべきことは、

(一) 善良なる模範、

(二) 當を得た命令の出し方、

1. 實行六ヶ敷き命令は始めから與へぬこと
2. 命令の数は出來得るだけ少ないこと
3. 一度與へた命令は貫徹させること

(三) 當を得た賞罰、

1. 時機を誤らぬこと(成るべく即時なること)
2. 輕重當を得たこと
3. 成るべく度々しないこと

などである、

第七篇 家庭管理

第一章 老人への孝養

孝養の方針

老人は我家を今日あらしめた功勞者であり、又現に我家の將來の爲に何くれと心配する人である。

老人への孝養を盡すことは、我國古來の美風であつて、家庭の和樂の有力な一要素である。主婦は宜しく率先して其の範を示すべきである。

一概に老人と云ふも、其の年齢の多少、其の健康氣力の程度によつて、その孝養の手段方法に差異あるべきは當然である。

要は (1)よく其の心理を洞察し (2)其の體力健康の度を考慮して、宜しきに従ふにある。

精神的方面 高齢の老人にありがちの心理は

- (一) 退屈
- (二) 淋しみ
- (三) 「御自慢」
- (四) 子供の如き感情等である。

されば、(1)常に敬愛と同情とを以て之に接し、(2)決して之を度外視する態度を示さず、(3)適はしい用事は進んで之を頼むやうにし、(4)時には進んでもその自慢話を聴き、(5)且つ相當の娛樂を提供するがよい。

身體的方面 (一)過度の安逸と過度の運動とは、共に老人の健康を損ずるから、注意して之を避けさせ、

(二)思はぬところで怪我をし易いから、危険に近づけず、

(三)寒さに弱い特性をもつから、常住の居室は天然及び人工暖室法

に注意を拂ひ、衣服は軽く、襟巻・頭巾等も必需品と見るがよい。
(四)入浴は老人の好みでもあり、又其の健康にもよいから、成るべく之を屢し、
(五)食物は一般に消化し難いものを避け、又肉類の量を減じて野菜を多くし、常に便秘のないやうに注意し、酒類は成るべく之を避けさせる。

(六)老人の疾病は、動もすれば重大なる結果を招き、且つ其の恢復が高齡と共に甚しく遅くなるものであるから、微症と雖も輕視せず、成るべく早期に醫療を加へるがよい。

老人の罹り易き病氣 老人の罹り易くして而も恐るべき病氣に腎臓炎・糖尿病等がある。

これ等の病氣は何れも始めは自覺症なく、自覺する頃にはかなり重症となつて居るが常であるから、出來得べくんば時々尿の檢

査を依頼し、又は家族中の適任者が之を行ふがよい。病を發見し得たら、直ちに醫療を乞ふべきは勿論であるが、何れも急には治癒せぬ上に、尿の検査が病の程度の診斷上最も大切であるから、家族中にその検査の出来る人のあることは非常に便利である。

腎臓炎に對しての尿の検査は、尿に蛋白質の有無を検すればよい。之には種々の方法があるが、次なるは普通の家庭で容易に行ひ得るものである。

試験管に三分の二程の尿をとり、其の上部を熱して殆んど沸騰する迄に至らしめ、黒い物の前で透視して、其の熱した部分に濁り又は沈澱の有無を検査する。其の何れもがなくなれば、蛋白質は無い。若しその何れかがあつたときは、醋酸(約5%)の數滴を此の上に落して見る。それに依つて濁り又は沈澱が消えなければ蛋白質の存在は疑ひないのである。其の濁り又は沈澱の多少によつて、蛋

尿中の蛋白質
の検査尿中の葡萄糖
の検査

白質の量の多少も大體は判る。

糖尿病に對しての尿の検査は、尿に葡萄糖の存否を確かめればよい。之を行ふには、試験管に其の五分の一程のフエーリング液をとり、先づ加熱沸騰させ、それが冷えぬ間に、直ちに尿の八乃至十滴を加へるに、赤色又は黄色に變化すれば葡萄糖の存在を示す。

〔注意〕フエーリング液は藥舗で容易に求めることが出来る。その甲乙二液に分けて作り、使用するに當つて、甲乙の同容積を混するものは、永く變質の憂ひはないが、一液に作り上げてあるものは變質の心配がある。之を試験管内で沸騰させたとき、沈澱を生ずるものは使用に堪へぬものである。

第二章 傭人

傭人と其の使ひ方

子女の教育と一家團欒の上から見て、家庭には常住の他人が交らぬ方がよい。併し、家務の甚しく多忙なる家庭に於ては、一人若くは數人の女中又は下男を雇入れることも

已むを得ないことである。かかる場合には、雇入れの始めに慎重の調査を行ひ、既に雇入れた上は、准家族として、教へながら、温情を以て使はねばならぬ。

定期の安息時間を與へ、或は特に定めての修養・向上の機會を與へるやうにすることは、自他共に益する所以であつて、時代に適した使ひ方である。

昔のまゝの主従關係の考へで、之を願使いせんとする態度はよろしくない。

幼兒をして年長者なる傭人の名を呼び捨てにさせるが如きは、幼き者に、時代に適せぬ階級的思想を養ひ、幼兒自身の教育上甚だ面白くない。

第三章 家務の處理

365

家務の多様・複雑

家庭日常の事務には、食事に關するもの、被服

366

履物等に關するもの、住家・家具に關するもの、育兒・養老に關するもの、交際に關するもの、會計に關するもの等の種類があり、極めて多様で且つ複雑である。之を落度なく處理せんとするは誠に容易の業でない。主婦の頭腦と手腕とを要する所以である。

處理上の要項

かゝる複雑多様な事務を處理するに當つて、

注意すべき要項の主なものを挙げれば、

(一)秩序 複雑多様な事務を行き當り主義に處理して居ては、徒に忙殺されるのみで割合に効果が舉らない。されば一日一週又は一月一年を單位として、豫定し得る事務は成るべく豫定を立て、手順よく之を處理して行くがよい。

(二)整頓 一家に藏する物品の種類は非常に多い。家が古く、家族の多い家庭に於ては一層である。故に十分に整頓を行ひ、必要に際して一些品も、其の所在を捜し求めるが如き不始末に陥らぬ覺

整頓の方針

悟あるを要する。

物の整頓には、(1)種類に依つて分類整理するもの〔履物類帽子類と云ふ如く〕(2)人の所屬に基いて整理するもの〔兄のもの弟のもの等〕(3)季節に依つて整理するもの〔冬のもの夏のもの等〕(4)使用上の便否を主として整理するもの〔靴墨靴刷毛は下駄箱の附近にと云ふが如く〕(5)空間の都合、この箱が丁度ここに入るからなど〕にて整理するもの等いろいろの方針がある。

各方針の按配と徹底

これ等の方針は、何れもそれ〴〵理由のあることであるから、各々を適當に按配し折衷するがよい。而して成るべく細かく又徹底的に行ふがよい。それには大小種々の容器が必要となるかも知れぬが、菓子折箱、蜜柑箱の如きまで利用し、場合によつては、それに一々札紙をつけて、一目瞭然たらしめるがよい。

(三) 家人の協力

家務の處理は、家庭が少しく複雑になれば主婦一

分擔と自治

人の能く負擔し得るところでない。かゝる場合には(1)適材適所主義で家族の誰彼れに其の一部を分擔させ(2)或は又自分のものは自分で主義で自治的に自分のものを處理せしめるがよい。

(四)記録 一時的の記事は小黑板に、永久的の記事は家庭日記に、會計に關するものは家計簿にと云ふ風にして、手まめに記録にとどめるがよい。主婦の氣苦勞を減じ、其の上種々の利益がある。〔會計と家計簿のことについては次章に之を述べる〕

第四章 家事經濟

第一節 財 生産 消費

財

人間には様々の欲望がある。その欲望を満足させるに役立つ有形物を一般に財又は財貨と云ふ。されば通貨は財の一種に過ぎぬ。

或人の所有になつて居る財を其の所有者の財産と云ひ、人の慾

財産

368

望を満足させるに役立つ財の性能を、財の効用と云ふ。

生産

生産とは種々の工業品をつくり、種を播いて農産物を收穫し、地下の石炭を掘り出し、又之を臺所まで運ぶなど、物の性質・形状・數量・位置等に變化を與へて、財の効用を増加させ、又は發生させることを云ふ。漁業・農業・工業・商業に従事する人の仕事が之である。生産に必要な自然力と勞力と資本との三者を、經濟學では生産の三要素と云つて居る。

消費

消費とは、下駄をはき、衣服を纏ひ、食物を食ふことなどの如く、財の効用を減少させ又は消滅させる行爲を云ふ。

主婦と消費・生産

現時の社會組織に於ては、生産に直接たづさはらない家庭はあつても、消費にたづさはらない家庭は決してない。何れの家庭に於ても、食ふにつけ、着るにつけ、起さるにつけ、寢るにつけ、殆んど間斷なく財の消費は行はれて居る。

370

369

主婦と消費

されば家庭は財の消費場であつて、主婦は其の消費の主宰者である。而して各家庭の消費は、集れば一國の消費となるのであるから、各主婦は間接に一國の消費を左右する位置にあるは明かである。

主婦と生産

生産は消費と密接な關係をもち、買ふ人があればこそ作る人もあるのであるから、一國の消費を左右する主婦は、間接に一國の生産を左右する位置にありとも言ひ得る。かくて各家庭の消費の巧拙は、一家は勿論、一國の經濟事情に至大の關係をもつべきことがわかる。

371

第二節 一家の収入及び支出

収入と支出

家庭に財の消費があれば、従つて支出があり、支出があれば収入がなくてはならぬ。故に如何なる家庭でも、必ず収入もあり支出もある。

372

經常收入

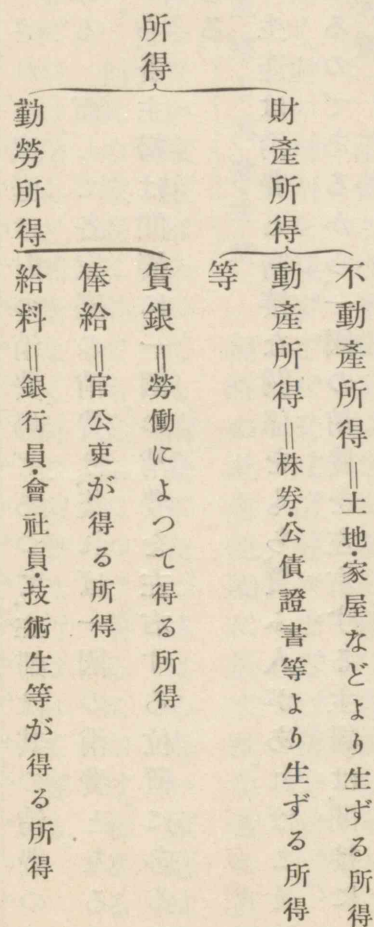
所得の二種

収入の種類 一家の収入は大別して

(一) 經常收入 (二) 臨時收入となすことが出来る。

經常收入とは一時的でなく、俸給、貸地料、利子、配當等の如く、きまつて繰り返される収入のことで、之を所得とも云ふ。

所得を分けて、(1) 勤勞所得 (2) 財産所得とする。前者は人の精神的又は肉體的の活動が直接収入の源となるもの、後者は財産から來る所得である。尙之を細別すれば、凡次表の如くなる。



373

臨時收入

収入の安定度

危険分散主義

収入の安定

臨時收入とは其の名の如く臨時の収入で、例へば賞與金・不用品の賣却による収入の如きものである。

収入について望ましいことは、其の額の多いことが其の一つであると言ふまでもないが、其の安定度の大きなことも其の一つである。

収入の安定度については、一般に財産所得は勤勞所得より安定なりと云ふことが出来る。但し經濟界の大變動、天災地變などもあること故に、財産所得は必ずしも常に勤勞所得よりも安定ではない。

されば出來得るならば所得の原因を一種一物に集中せず、成

報酬 自由職業者(例へば著述家・醫師等)の得る所得
 利潤 企業の總收入より企業の入費を差引いての残り
 等 例へば農業や商業の純利益

374

るべく多種多様ならしめて置くことは、収入の安定度を増す所以になる。例へば勤勞所得に財産所得を兼ねるが如き、又財産所得の一つとして株券を所有するとしても、同一種類のものゝみでなく、企業の種類の異なるもの數種にすると云ふ類である。經濟學者は之を危險分散主義と云ふ。

支出の種類

一家の支出は、如何に分類するが最も適當であるかと云ふに、之は各家庭の事情によつて異なるべきであるから、何れの家庭にも適用せられて、總べて好都合なる分類法とてはないものである。例へば傭人もない家庭に、傭人料の費目を設ける必要のないは勿論である。

次なるは分類法の數例である。

支出分類法の數例

第一例

1 食料費

第二例

1 食物費

第三例

1 食物費

第四例

1 賄費

第五例 本書

1 食物費

375

總支出に對する各種支出の百分比

一家の總支出に對し、其の

2 住居費
3 衣服費
4 光熱費
5 衛生費
6 慰安費
7 其他

2 住居費
3 被服費
4 光熱費
5 器具費
6 教養費
7 衛生費
8 慰安費
9 交際費
10 租稅費
11 雜費
12 給金
13 豫備費
14 貯蓄費

2 住居費
3 被服費
4 運用費
5 常備費
6 教化費

2 借家料
3 借地料
4 被服費
5 器具費
6 雜品費
7 教育費
8 醫藥費
9 娛樂費
10 交際費
11 諸稅
12 雜費
13 保險料
14 傭人料
15 修繕費
16 慈善費
17 豫備費

2 住居費
3 衣服費
4 運用費
5 其他

幾[△]%を食物費に、其の幾[△]%を住居費にと云ふやうに、各種支出の百分[△]比を、適當であらしめることは、上手に家計を切り盛りする上の一[△]大眼目である。

この適當な百分比と云ふは、國狀の相違、都鄙の差別、家々の事情などに依つて夫々異なるべきであるが、大體の參考として次の數表がある。

米國內九十二の工業地に於ける家庭の支出の分配比
(收入額の相違による分配比の變化)

年 收 入 額	調査家族數	全支出に對する各種支出の割合(%)						
		食	物	住	居	衣	服	光 熱 共 他
900 以下	332	44.1		14.5	13.2	6.8		21.4
900—1200	2423	42.4		13.9	14.5	6.0		23.1
1200—1500	3959	39.6		13.8	15.9	5.6		25.0
1500—1800	2730	37.2		13.5	16.7	5.2		27.3
1800—2100	1590	35.7		13.2	17.5	5.0		28.5
2100—2500	705	34.6		12.1	18.7	4.5		30.0
2500—以上	353	34.9		10.6	20.4	4.1		30.1

収入の多少による一家支出の分配比

(日本協調會調査)大正十四年

月收職業	費 目	食 費	住居費	衣服費	公課費	教養費	保險費	交際費	共 他
50圓以下 (俸給生活者 職)	工	22.90	19.33	23.27	0.04	1.37	3.37	14.78	14.93
50圓以下 (職)	工	47.10	17.95	6.97	1.53	2.67	2.16	6.23	15.39
50圓以上 (俸給生活 100圓以下 職)	工	30.75	16.58	15.00	0.99	3.51	3.77	8.10	21.30
50圓以上 (俸給生活 100圓以下 職)	工	35.61	18.02	13.05	0.56	2.92	3.26	7.03	19.55
100圓以上 (俸給生活者 150圓以下 職)	工	26.00	17.29	16.51	1.16	5.01	3.63	8.90	21.50
100圓以上 (俸給生活者 150圓以下 職)	工	31.83	17.68	14.42	0.45	3.85	3.42	7.70	20.65
150圓以上 (俸給生活者 200圓以下 職)	工	21.34	17.32	16.36	1.28	6.40	4.11	8.59	26.60
150圓以上 (俸給生活者 200圓以下 職)	工	26.48	17.03	15.21	0.43	2.75	3.73	9.52	24.85
200圓以上 (俸給生活者 250圓以下 職)	工	20.57	17.95	14.83	2.00	7.58	4.03	8.85	24.20
200圓以上 (俸給生活者 250圓以下 職)	工	24.15	14.33	16.50	0.31	4.51	6.05	9.33	24.82
250圓以上 (俸給生活者 300圓以下 職)	工	20.99	18.13	15.38	1.62	6.77	2.54	5.32	28.75
250圓以上 (俸給生活者 300圓以下 職)	工	24.80	17.13	13.46	0.65	1.82	4.66	10.18	27.30

右の事實について見れば

食物費の特性

食物費は他の種の費用に比べて、(1)常に最高位を占め、(2)収入の少ない家庭程其の率が高い。蓋し食物は直接に家族の健康・發育・活動力等に影響を及ぼし、極度に節約の出來難い性質のものであるからである。

衣服費の特性

衣服費は第二位又は第三位の高率を占める費目であつて、食物費と反對に、収入の増す程其の率の高まる傾向がある。

住居費の特性

住居費は衣服費と大差なき率にあつて、収入の増すと共にその率の減する傾がある。

國狀から見た食物費

我國の現狀を案ずるに、食物費に於ては、此の上の節約は望み難いであらうが、榮養に關する知識の活用によつて、支出を増さずして、其の榮養價值を高くする餘地は非常に多い。主婦の最も注意すべき一方面であらう。

國狀から見た衣服費

衣服費に於ては、衣服費と食物費との比を求めて見れば、諸外國

に其の例のない結果が得られる。何れの方面にも不足勝ちな我國の生活狀態に於ても、し此の上に節約の必要があるものとすれば、それは第一に衣服の方面でなくてはならぬとは、識者の一致した見解である。特に婦人は此の點に於て反省の必要があるであらう(第66節參照)。

収入と支出との平衡

一家の支出は、其の収入を超過してならぬ事は更めて言ふまでもない。出來得るならば、幾許かの剩餘を得て、之を將來或は來ることあるべき、若くは必然的に來るべき支出の増加又は収入の減少に備へたいものである。これ一家經濟の原則である。

我國の現狀に於ては、此の原則の實行が、一般に頗る困難であるから、一家協力して、一面には収入の増加を圖り、他面には支出を減少して、その實現を期せねばならぬ。

376
一家經濟の原則

377

主婦の經濟的手腕

一家支出の減少は、主として主婦の任務である。支出の減少と云うても、盲目的の節約は決して一家の幸福を増す所以ではない。それには、次の如き内容のある經濟的手腕に待たねばならぬ。

支出減少の要領

(一) 買物を上手にすること、之は單に支出金額の少ないだけの事ではなく、成るべく少量の金額で、成るべく効用の大きい財を求めると云ふことであるから、財の効用やその眞價に關しての豊富確實な科學的知識を伴つた買ひ物でなくてはならぬ。例へば食物を廉價に求め得ても、家族を營養不良に陥れるやうでは決して上手な買物とは言ひ得ないのである。

(二) 家族の健康上の異和に敏感で、其の處置の巧みなこと、

この點に鈍感であつた爲に、醫藥に拂ふ臨時費を膨大させる場合は甚だ多い。

(三) 家財の修理・手當に手まめなこと、

(四) 廢物の利用、

(五) 欲望の適否を正しく判斷すること、

378

第五章 家計簿

家計簿の一例

- (六) 少額の支出と雖もゆるがせにしないこと、
(七) 物價を安くする爲に、社會施設を利用し、又出來得べくば、其の施設を助長すること、
(八) 家の收入・支出を記録に止め、一ヶ月又は一ヶ年を通じての總計を研究して、將來の指針を求めること。
(九) については次に章を新にして之を説かう。

家が收支を記録するには、適當な家計簿をつくるが便利である。如何なる家計簿が最も適當なるかは、各家庭の經濟事情にもよること、一概には言へない。

比較的多くの家庭に便利なるべしと思はれる一例は、次に示すが如きもので、それに要する帳簿に三種ある。

比較的多くの家庭に適する家計簿の一例

第一 は賄帳で食物に關する支出を日々記入し、又計算する帳

賄帳

簿である農家等に於ては此の帳簿の必要はあるまい。其の形式及び記入例を示せば次の如くである。

賄帳の一例

日	品物	代金	日計	累計
	前頁ヨリ			2492
26	漬菜	12		
	豆腐	10		
	林檎	28		
	小蕪	12	62	2554
27	ソー	35	35	2589
28	玉葱	20		
	サツマイモ	2		
	大根	8		
	豚肉	80		
	椎ケ	30		
	干瓢	20	181	2770
30	ハウレン草	20		
	カブ	18		
	サンマ	20		
	白菜	50		
	砂糖	32	140	2910
31	カブ	18		
	米屋拂	1320		
	牛乳屋拂	48		
	酒屋拂	240	2058	4968

日記兼月末計算表

第二 は(1)短い會計期の始めに立てた收支の豫定〔豫算〕と、(2)日

年末計算表

豫算

379

々の支出を分類し記入する日記と(3)その會計期末に収入・支出を合計して之を記入するとに兼用する表で、假りに之を日記兼月末計算表と名づける。

〔注意〕短い會計期は、普通は一ヶ月であるが、家庭によつては半年又は一年を一會計期にとることも便であらう。月にとつた場合も、俸給取りの家庭では、其の俸給日を短い會計期の初日とすることも便であらう。

第三 は、長い會計期の終(通例は年末)に於て各短い會計期の合計の總計を求める表であつて、之を年末計算表と名づける。

〔短い會計期を一年とした場合には、勿論此の帳簿は不用である〕

これ等の形式と記入例は、次の別紙の如くである。

豫算・決算と其の研究

次の表に於て豫算は、(1)其の月の収入の豫定と、(2)其の月の支出の豫定を、各費目に分配したものから成つて居る。この分配の率は、廣く世間の實狀と、自家特殊の事情と經

決算

決算と豫算と
の比較研究

驗とを考慮して定むべきものである。
月末に至つて收支を夫々合計し記入したのは、決算を行つたのである。

かくして得た決算と豫算とを慎重に比較し研究することに依つて、或は今後の支出の方針を定め、或は更に適切な豫算を次期に於て立てることが出来る様になる。

既に適切な豫算が出来、支出が又之に伴ふやうになれば、自家現在の経済的立場が、いつでも明瞭であるから、或は使ひ込みは無いかとの無駄な心労もなく、一時の思ひ出で支出をせぬから、支出が一層合理的になる。

米國の一經濟學者は次の事を主張して居る。「一家の豫算を立てる際には其の家の少年少女までも加へて一家の合議にするがよい。かくて子女にまで自家の経済的事情を知らせた上、子女がおのづから不當なる欲望を抑へ、父母の心労に同情するに至るなど、幾多の喜ばしい教育的効果を擧げることが出来る云々」

昭和五年十月分

(豫算、日記帳、兼月末計算表)

日	豫 算		160 円	30 円	48 円	10 円	15 円	25 円				32 円										支 出 日 計	差 引 残 高
	摘 要	収 入	貯 蓄 預 金	食物費	住居費 地代賃 (家修繕)	衣服費	運 用 費				教 養 費 其 の 他												
							光熱 (水電)	家 具	給 金	教 育 新聞 圖書等	衛 生 醫 藥	義務費	交 際	娛 樂	小 遣	臨時費							
1	賄(賄帳ノ通り)	前月ヨリ繰越シ	25 16			156																156	23 60
2	賄、西洋金					120				300												420	19 40
3	賄					76																76	18 64
4	賄、ヒマシ油、端書、切手					140								20		45						205	16 59
5	木炭								260													260	13 99
6	賄、電燈ノ並					128				80												208	11 91
7	太郎授業料											20										20	11 71
8	賄、靴下三足					186		180														366	8 05
9	賄、債券ノ利子		10 00			70																70	17 35
10	賄、花子洋服					192		15 20														1712	0 23
11	賄、預金引出			(-) 30 00		58																58	29 65
12	賄、筆ト紙(花子)					90						56										146	28 19
13	賄					115																115	27 04
14	理髪(太郎)													45								45	26 59
15	賄、石鹸					147								40								187	24 72
16	賄、端書、雨樋ト直シ					173	5 30									15						718	17 54
17	何々氏へ病氣見舞、薪								300							130						430	13 24
18	賄					135																135	11 89
19	賄					78																78	11 11
20	賄、ハミガキ					235								20								255	8 56
21	賄、俸給(二人分)、家事經濟學		150 00			100						280										380	154 76
22	何々銀行へ當座預金			(-) 70 00																			84 76
23	賄、郵便貯金、小遣、所得税			(-) 30 00		180										8 35						1715	37 61
24	賄、電燈料					60			280													340	34 21
25	賄、古新聞賣掛、靴修理		45			53		90														143	33 23
26	賄					62																62	32 61
27	賄、グリスリン					35								30								65	31 96
28	賄、ノート(花子)					181						25										206	29 90
29	何々へ遠足																195					195	27 95
30	賄					120																120	26 75
31	預金引出、地代、新聞代、女中給料、賄諸掛			(-) 40 00		20 58	7 30			12 00		90										4078	25 97
合 計			185 61	(-) 30 00		49 48	12 60	17 90	8 40	3 80	12 00		4 71	1 55	8 35	1 90	1 95	7 00				129 64	
大費目合計						49 48	12 60	17 90		24 20					25 46								

備忘録

前月繰越金+總収入 = 185.61
 支出 + 貯金 = 159.64
 差 引 = 25.97 (来月へ繰越金)

かとの無駄な心労もなく、一時の思ひ出で支出をせぬから、支出が一層合理的になる。

米國の一經濟學者は次の事を主張して居る。「一家の豫算を立てる際には、其の家の少年少女までも加へて一家の合議にするがよい。かくて子女にまで自家の經濟的事情を知らせた上、子女がおのづから不當なる欲望を抑へ、父母の心労に同情するに至るなど、幾多の喜ばしい教育的効果を擧げることが出来る云々」

年末計算表

[illegible]

味ふべき言葉だと思ふ。

第六章 貯蓄 保険

貯蓄の強行

貯蓄は收支に餘裕あるときに於てのみなすべきでなく、餘裕のない場合にも、或度までは之を強行する必要がある。されば豫算の編成に際して、貯蓄額を第一に決定して、其の残りを

貯金の歌(逓信省貯金局)

- 一 貯金しませうお互に 明日といはずに今すぐに
むだを省いて油斷なく 清いお金を積みませう。
- 二 貯金しませうお互に 明日といはずに今すぐに
いざといふ時うろたへず 困らぬうちに積みませう。
- 三 貯金しませうお互に 明日といはずに今すぐに
いつも通帳ふところに こゝろよい日を送りませう。
- 四 貯金しませうお互に 明日といはずに今すぐに
家を富まして御一緒に しつかり御國に盡しませう。

各費目に割り當てる仕方もある、俗に之を天引貯金法といふ。この貯蓄法は、無條件に賛成することも出来ぬが、其の位にせねば何時まで待つても貯蓄の出来ないのは、我國大多數の家庭の現状である。

貯金の機關に、郵便貯金、銀行預金、有價證券の購入、信託、保險などの種別がある。

郵便貯金

郵便貯金は全國の各郵便局で取扱ひ、政府の保管にかゝり、利率は高くないが安全確實である。その普通なものに、次の種類がある。

(一) 通常貯金 預入金額は一口十錢以上二千圓以下、利率年四分二厘。預入引出の簡單なものを特徴とするが、利率が高くないから、纏つた金額を長く据置くには、利殖の上より見て適當でなく。

(二) 据置貯金 一定の年限を定めて預入し、約束の期日以内には引出すことが出来ない。利率は通常貯金よりも高い。

(三) 振替貯金 利率は極めて少ないから、利殖には適しないが、送金の發受には極めて便利である。故に遠隔の地との金銭出入關係の多い家庭に甚だ便利である。

(四) 郵便年金 通常の貯金と異り、一定の金額を預入れた後は、契約に従つて、永く一定の支拂を受け得る特殊のものである。

銀行預金

之れには普通銀行で扱ふものと、貯蓄銀行で扱ふものとの二種がある。

(甲) 普通銀行で取扱ふ預金 に次の種別がある。

(一) 當座預金 預金者は預金と同時に通帳を受取り、隨時に預入をなし得るものである。其の特色は、小切手を振り出して支拂をなし得ること、金銭支拂の頻繁な家庭に適する。預金利子は最も低い。

(二) 特別當座預金 小口當座預金とも云ひ、預入引出共に通帳を用ふる。當座預金に比して、出入が頻繁でないから、利率が高く、當座預金の約二倍なる上に、日歩計算であるから、郵便貯金よりも利廻りがよい。

(三) 定期預金 三ヶ月、六ヶ月、一ケ年と云ふ如く、一定の期間を定め預入れるものである。此の預金は、銀行が其の金を一定期間内確實に運用し得るから、利率が最も高く、年六分内外である。利子は年利率を以て契約し、預金の拂戻に際して支拂ふが常である。

(四) 通知預金 特に期限の契約はないが引出の日より一定の日數(三日・五日・一週間等)だけ以前に引出の豫告を受けて拂戻をなす契約の預金である。定期の如く支拂期日は確定しないが、豫め支拂資金を準備する餘裕があるので、其の利子は比較的高く、特別當座預金よりも稍、まさる。

(乙) 貯蓄銀行で取扱ふ預金 に次の種別がある。

(一) 普通預金 普通銀行は十圓未満の金額は扱はないが、此の種の銀行は拾圓未満の金額をも取扱ひ複利法によつて利子をつける。かく小額を取扱ふ點は郵便貯金に似て居る。

(二) 据置預金 或期間を定めて、其の期間内は据置くものである。従つて普通貯金よりも利率が高い。

(三) 定期積金 或期間を定めて、其の間毎月毎年等に一定の金額を積立てるもので、据置貯金との相違は、毎回預入の金額の一定せる點である。前者と共に、或期間の後是非共一定の金額を必要とする場合、之に備ふる手段としては便利であらう。

(四) 定期預金 之は普通銀行に於けるものと同様である。

有價證券

(一) 公債證書

中央政府又は他の行政廳が、一般公衆より負債をなすに當つて發行し

た證書であつて、國債、地方債、内債、外債等の區別がある。額面金額に對する一定の歩合によつて利子をつける。郵便貯金よりも利率は高い。

(二) 社債證券 會社が公衆より負債するに當つて、債權者に交附する證書であつて、額面金額に對して、或一定の歩合の利子をつける。安全の度は前者に及ばない代りに、利率は前者より高い。

(三) 株券 株式會社又は株式合資會社が、其の株主に對して出資額を證明するために交付する證書である。株數に準じて、其の會社の利益配當を受ける。前述の公債、社債の如く、元金を償還されることのないのと、利率の一定して居らぬのを特徴とする。業績の如何によつて大いに有利なこともあると同時に、大いに不利なこともある。

信託

信託會社は、個人に代つて財貨を保管運用して利益を得ることを目的とする會社である。其の信託には、(1) 金錢を扱ふもの、(2) 有價證券を扱ふもの、(3) 金錢の債權を扱ふもの、(4) 動産、不動産を扱ふもの、(5) 地上權、土地の賃借權を扱ふもの等がある。例へば金錢信託の或ものは、五百圓以上の資金を二ヶ年以上の契約で引受け種々運用の結果、相當の配當を信託人に支拂ふ。銀行の定期預金と異なる點は、初めに其の利率を定めない點である。但し利廻りは銀行預金に勝るが普通である。これ信託會社は資金運用の全配當を信託人に渡し、僅かに信託料と手数料とを受けるに過ぎない。

保険

いからである。

保険とは同一の危険に臨み居る多數の人が、平時に貯金して或仲介機關に拂込み、其の危険の實現による損害を、互に分擔する仕組であつて、仲介機關が保險會社である。従つて保險は一種の貯蓄と云ひ得べきものである。加入に際しては、掛金の安いものよりも、信用の厚い會社を選ぶことが大切である。保險の種類は甚だ多く、知られたものに次の數種がある。

(一) 目的を人におくもの、

(1) 生命保險 これには終身保險、養老保險、簡易保險等の別がある。

(2) 傷害保險 普通傷害保險と旅行傷害保險との二種がある。

(3) 小供の保險 徴兵保險、結婚保險、教育保險等の區別がある。

(二) 目的を財産におくもの、

(1) 火災保險

(2) 盜難保險

(3) 海上保險

等

第七章 交際

圓滑な交際の必要

文明社會に於ては、家は孤立して存在し得ない。一家一族の幸福は、親戚、知人、隣人、社會人などの間に、圓滑な交際の行はれることがあつて始めて、全きを得るものである。

交際の要諦

交際の要諦は、

(一) 共に喜び共に悲まんとの眞情、

(二) 適當な禮儀、

(三) 適當な表情等である。

心にもない虚偽の表情も忌はしいけれど、心のみで表情に拙なのは惜むべきであるから、教育と修養とに依つてその上達を期せねばならぬ。

交際の形式には、訪問、贈答、饗宴など種々あるが、要するに物質に重きを置き過ぎることなく、前記の要諦を捉へて、餘りに遠慮せずに行ふがよい。

物質に重きをおく勿れ

物質に重きを置き過ぎれば、交際は往々苦痛の種となる。「手土産がなくては」此の衣裳ではもしくは、この御馳走ではなどと云つて、往訪・來訪の機会を逸するが如きは、全たく本末を誤るものである。この點に誤るものは、歐米人に比べて日本人に多いやうである。

交際に関する生活改善同盟會の主張

次なるは我國一部識者

の團結に成る生活改善同盟會の主張であつて、中には一般の人に必要のない事項と思はれるものもあるが、次に其の全部を掲げる。

(一) 贈答に関する事項

- 一、一般に贈答の場合を少なくすること。
- 一、形式的な手土産を廢すること。
- 一、餞別は特別親交あるものに限つて贈ること。
- 一、交換的な贈答を廢すること。

(二) 訪問・接客・送迎に関する事項

- 一、過分の贈答を廢すること。
- 一、贈答品は實質を旨とし、外形上の虚飾を避けること。
- 一、贈答品を使者郵便その他に託する場合には、手紙または口上を以て、その趣旨を明かにすること。
- 一、訪問は早朝食事前出勤前就寢時等、他人の迷惑する時刻を避けるやうにしたし。また休日にはなるべくこれを避けるやうにしたし。
- 一、面會時間の定めなき人の訪問は、豫め電話郵便等にて、時間の打合せを行ふやうにいたし。
- 一、面會時間はなるべく之を定めるやうにし、之を定めた場合には、出来るだけ之を知らしめる方法を講ぜられたし。
- 一、簡単な用件は、玄關先の立話で済ますやうにいたし。但しこ

の場合には、外套手袋は脱ぐに及ばぬこと。

一、用事の訪問は挨拶よりも用件を主とし、なるべく速に切りあげ、やうにしたし。

一、來客は待たせぬやうにし、且つ接待を簡略にし、用談はなるべくそれを速く済ますやうにしたし。

一、食事に招いた場合の外は、來客にみだりに酒食を饗したり、菓子を出したりせぬやうにしたい。

一、面識なき人の訪問には、必ず相當の紹介狀を携帯するやうにしたし。

一、紹介は他人の迷惑にならぬやうにしたし。

一、年若い男女は、單身相互に訪問せぬやうにしたい。

(三) 年賀廻禮時候見舞に關する事項

一、年賀狀は近親者に限り差出すやうにしたし。

一、年賀狀は形式に偏せず、簡便でしかも誠意を籠めたものにしたし。

一、年始の挨拶を親しく交換する機會のある場合は、年賀狀及び廻禮を省略するやうにしたし。

一、特に招待した場合の外は、年賀の客に酒食を出さぬやうにしたい。

一、形式的の時候見舞はやめるやうにしたし。

交際精神の發達

親戚知友、隣人との間にのみ保たれた交際精神が、世が進み人が進化するに従つて、廣く公衆國民もしくは人間社會全般にまで、擴張せられて行くことは明瞭な事實であつて、公衆に對する禮儀、公衆と共に樂まんとする協同心などは、交際精神の發達した國民ならでは望み難いところである。

翻つて我國の現狀を見れば、人を押しのけて切符を買はんとす

家庭の新知識

390

應用の才幹



各 省 兼 務 の 大 臣

る人、旅館等に於て眼中他人なしに喧噪を極める人、通行人に悪評をあげせかける人、其の他にこれに類する唯我獨尊的人が、未だ其の跡を絶つに到らないのは慨すべきである。

第八章 結びの言葉

若き婦人の任務

新しい家事教育を受けた諸子は、家庭の一員として自分の爲すべきことを果すと同時に、家庭の新知識として、其の改善進歩の爲に、應分の貢獻をなす覺悟がなくてはならぬ。而も其の學びたるところを實地に施すに當つては、家庭特殊の事情、地方特殊

今後の心懸け

世界無比の賢婦人

の事情等をも考慮して、變化應用宜しきを得なくてはならぬ。家庭は一國の縮圖であつて、主婦は内務・大藏・司法の三大臣を兼ねた位置にあるものであるから、一朝一夕にして名大臣となることの六ヶ敷いことは言ふ迄もない。況んや三省兼務の名大臣になることをや。家事科を學んだ効果の如何は、寧ろ諸子の今後の心懸け如何にかかつて居る。

我國の婦人は、由來、誠實・溫順・貞節の譽れ高く、犠牲奉仕の精神に富むを以て名高い。若し之に配するに、家事を科學的に見又考へる頭と、之を科學的に處分する技能とを以てしたならば、眞に世界無比の賢婦人となるであらう。

新編
家事教科書
卷下

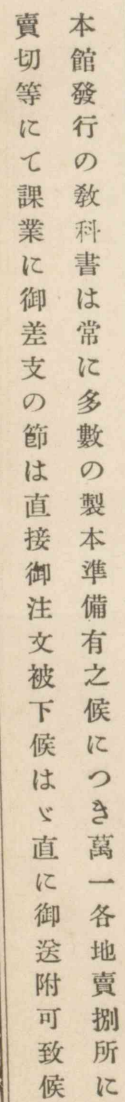
定價
卷上 金一圓拾二錢
卷下 金一圓九錢

東京市神田區通神保町六番地

東京市神田區通神保町六番地

(電話) 神田三〇八七番
(振替口座) 東京三二七番

東京市神田區通神保町六番地



文 部 省 檢 定 濟
昭和五年十二月十七日 高等女子學校家教科用

(株式會社秀英印刷)



広島大学図書

2000082119

